

平成28年度（平成27年度 実施事業）

上尾市教育委員会の事務に関する点検評価報告書



平成28年11月

上尾市教育委員会

私たちを取り巻く社会情勢は、少子高齢化の進展に伴う人口構造の変化、グローバル化や情報通信技術の発達・普及、厳しさを増してゆく経済環境などにより、急速に変化し続けております。教育行政に着目すると、過去から社会問題化している いじめ、不登校、学力・体力の低下、教職員の資質能力の向上、食の安全、近年では、ネットいじめやネットトラブル、経済的格差による教育の格差、家族形態の変容やライフスタイルの多様化などによる家庭・地域での教育力の低下など、取り組まなければならない喫緊の課題が山積しております。

上尾市教育委員会では、これら教育における課題を解決し、将来に向けての教育のあり方を明確にするため、平成28年2月に「第2期上尾市教育振興基本計画」を策定しました。第2期計画では、第1期計画の基本理念「夢・感動教育 あげお」を引き継ぎ、平成28年度より多くの教育行政を推進しております。

この基本理念にある

「夢」という言葉は、知・徳・体の調和のもと、目標・志を持って自己実現を目指し、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践すること

「感動」という言葉は、人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践すること

を表し、教育委員会の願い、決意や、家庭・地域において“教育”に携わっていただいているすべての皆様  
の情熱、絆、希望が込められております。

上尾市の実情に応じた様々な教育施策を実施し、市民の皆様に「夢」と「感動」を送ることができるよう取り組んでおりますが、教育行政の果たす役割はますます重要となってきております。より効率的で効果的な行政運営を心がけ、市民の皆様に対して説明責任を果たしていくことで、市民の皆様から真に信頼される教育行政を運営していかなければなりません。

本年度は、平成27年度に実施した66の教育に関する事務事業と、平成27年度が計画の最終年度となる「上尾市教育振興基本計画」に体系付けられた全32の施策について、自ら点検及び評価を実施し、教育に関し学識経験を有する3名の先生よりご意見を賜り、このたび本報告書を作成いたしました。

今般の自己の点検評価の結果、学識経験を有する先生からの評価、そして、市民の皆様から頂戴する貴重なご意見を真摯に受け止め、引き続き施策の効果の検証と改善を図りながら、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、より効率的で効果的な行政運営を行ってまいります。

平成28年11月 上尾市教育委員会

## 上尾市教育委員会

教育長	池野和己
教育長職務代理者	細野宏道
委員	甲原裕子
委員	岡田栄一
委員	中野住衣
委員	大塚崇行
委員	吉田るみ子（平成28年9月30日まで）

# 目次

## I 点検評価制度の概要

1 点検評価制度の趣旨	2
2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策	2
3 平成28年度における点検評価	2
4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用	3
5 平成28年度教育委員会点検評価 実施主要事業	4

## II 上尾市教育振興基本計画

基本理念	7
基本方針	7
基本目標	8

## III 平成27年度 教育行政重点施策

1 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	10
2 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	10
3 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	11
4 基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	12
5 基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート	12
6 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護	13
7 基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進	13

## IV 評価結果（施策評価）

### 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	16	施策4 特別支援教育の推進	19
施策2 時代の変化に対応した教育の推進	17	施策5 幼児教育の推進	20
施策3 進路指導・キャリア教育の充実	18		

### 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

施策1 豊かな心の育成	22	施策5 学校保健の充実	26
施策2 生徒指導の充実	23	施策6 食育の推進・学校給食の充実	27
施策3 人権教育の推進	24	施策7 児童生徒の体力向上	28
施策4 学校教育相談の充実	25		

### 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

施策1 教職員の資質・能力の向上	30	施策4 学校のICT化の推進	33
施策2 学校経営の改善・充実	31	施策5 学校安全の推進	34
施策3 学校施設・設備の整備・充実	32	施策6 就学支援の充実	35

### 基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進	37	施策2 家庭教育の充実	38
--------------------------	----	-------------	----

### 基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

施策1 生涯学習体制の充実	40	施策4 人権教育の推進	43
施策2 生涯学習施設の整備	41	施策5 図書館運営の充実	44
施策3 生涯学習機会の提供	42		

### 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

施策1 文化芸術活動の推進	46	施策2 文化財の保護	47
---------------	----	------------	----

### 基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

施策1 スポーツ推進計画の策定	49	施策4 スポーツ指導者の育成	52
施策2 スポーツ施設の整備・充実	50	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援	53
施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実	51		

## V 評価結果（事務事業評価）

### 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

事業番号1	さわやかスクールサポート事業(学級支援) ……	56	事業番号8	小中学校ALT配置事業 ……	63
事業番号2	指導法改善事業 ……	57	事業番号9	中学生社会体験チャレンジ事業 ……	64
事業番号3	魅力ある学校づくり事業 ……	58	事業番号10	中学生進路意識啓発事業 ……	65
事業番号4	学力向上支援事業 ……	59	事業番号11	特別支援学級補助員派遣事業 ……	66
事業番号5	日本語指導職員派遣事業 ……	60	事業番号12	特別支援教育推進事業 ……	67
事業番号6	教科用図書等整備事業 ……	61	事業番号13	小中学校特別支援学級設置事業 ……	68
事業番号7	中学生海外派遣研修事業 ……	62	事業番号14	小中学校特別支援教育就学奨励事業 ……	69

### 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

事業番号15	学習支援事業 ……	71	事業番号22	さわやか相談室運営事業 ……	78
事業番号16	さわやかスクールサポート事業 (学校図書館支援) ……	72	事業番号23	いじめ根絶対策事業(防止事業) ……	79
事業番号17	小中学校音楽会開催事業 ……	73	事業番号24	いじめ根絶対策事業(相談事業) ……	80
事業番号18	小中学校図書整備事業 ……	74	事業番号25	人権教育推進事業(指導課所管分) ……	81
事業番号19	中学校部活動支援事業 ……	75	事業番号26	不登校児童生徒の学校適応指導事業 ……	82
事業番号20	中学校吹奏楽演奏会開催事業 ……	76	事業番号27	教育相談事業 ……	83
事業番号21	生徒指導推進事業 ……	77	事業番号28	児童生徒体力向上推進事業 ……	84

### 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

事業番号29	学校評議員制度運営事業 ……	86	事業番号35	学校安全パトロールカー事業 ……	92
事業番号30	元気な学校をつくる地域連携推進事業 ……	87	事業番号36	通学路安全対策事業 ……	93
事業番号31	小中学校教育教材整備事業 ……	88	事業番号37	入学準備金・奨学金貸付事業 ……	94
事業番号32	小中学校校舎改築事業 ……	89	事業番号38	小中学校就学援助費補助事業 ……	95
事業番号33	小中学校コンピュータ整備事業 ……	90	事業番号39	要保護児童生徒医療費援助事業 ……	96
事業番号34	児童生徒安全推進事業 ……	91	事業番号40	準要保護児童生徒給食費援助事業 ……	95

### 基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

事業番号41	家庭教育推進事業 ……	98
--------	-------------	----

### 基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

事業番号42	生涯学習指導者活動推進事業 ……	100	事業番号49	人権教育集会所運営事業 ……	107
事業番号43	学校施設開放(生涯学習)事業 ……	101	事業番号50	図書館資料整備事業 ……	108
事業番号44	成人式事業 ……	102	事業番号51	子どもの読書活動支援センター運営事業 ……	109
事業番号45	日本の伝統と文化の学習推進事業 ……	103	事業番号52	ブックスタート事業 ……	110
事業番号46	大学等との連携による生涯学習推進事業 ……	104	事業番号53	(仮)中央図書館整備事業 ……	111
事業番号47	公民館講座事業 ……	105	事業番号54	セカンドブックスタート事業 ……	112
事業番号48	人権教育推進事業(生涯学習課所管分) ……	106			

### 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

事業番号55	文化芸術振興事業 ……	114	事業番号59	文化財調査・保存事業 ……	118
事業番号56	美術展覧会事業 ……	115	事業番号60	埋蔵文化財調査事業 ……	119
事業番号57	市民音楽祭事業 ……	116	事業番号61	文化財保護啓発事業 ……	120
事業番号58	音楽家芸術活動支援事業 ……	117	事業番号62	歴史資料調査事業 ……	121

### 基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

事業番号63	学校施設開放(スポーツ振興)事業 ……	123
事業番号64	スポーツ大会・教室等開催事業 ……	124
事業番号65	スポーツ活動推進事業 ……	125
事業番号66	子どもの体力向上地域連携事業 ……	126

# I 点検評価制度の概要

## 1 点検評価制度の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」では、『地方における教育行政の中心的な担い手である教育委員会が、より高い使命感をもって責任を果たすために、教育委員会の責任体制の明確化を図ること』が掲げられており、実現する一つの方策として、各教育委員会は、毎年、教育に関する事務の管理執行状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して、議会に報告するとともに、公表しなければならないことが定められています。

## 2 上尾市教育振興基本計画・教育行政重点施策

平成23年3月に策定した「上尾市教育振興基本計画」では、「夢・感動教育 あげお」を基本理念として、「生きる力をはぐくむ」「生きる喜びをはぐくむ」「絆をはぐくむ」の3つの基本方針を掲げています。

この基本理念及び基本方針を踏まえて、平成23年度から平成27年度の間に取り組む教育行政の7つの基本目標を定め、さらに、「夢・感動教育 あげお」の実現に向けて、この7つの基本目標には、全32の施策が体系付けられています。

また、この計画の実効性をさらに高め、今日的教育課題に素早く対応し、適切に解決していくために、「平成27年度上尾市教育行政重点施策」を平成27年3月に策定しています。この重点施策においては、計画の7つの基本目標とそれに体系付けられた施策を効果的に展開していくために、66の事務事業を体系付けています。

点検評価では、当該計画を効率的かつ効果的に推進していくために、PDCA サイクルの考え方に基づき、当該計画と関連付け、計画の進捗管理を行っています。

なお、平成28年度からは、平成32年度までの5年間を計画期間とする「第2期上尾市教育振興基本計画」(平成28年2月策定)に基づき、引き続き「夢・感動教育 あげお」の基本理念のもと、教育の振興を図っています。

## 3 平成28年度における点検評価

平成28年度における点検評価については、平成23年度に策定された「上尾市教育振興基本計画」に掲げられた各施策の下に体系付けられた事業(平成27年度上尾市教育行政重点施策において決定)について、事業レベルでの「事務事業評価」を実施するとともに、事務事業評価をベースに、施策レベルでの「施策評価」についても実施します。

なお、事務事業評価及び施策評価とも、評価基準日は平成28年3月31日とします。

### (1) 施策評価

施策評価については、各施策に体系付けられている事務事業の事務事業評価判定(S~D)、評価指標を掲載しています。また、次年度以降の目標設定を掲載し、計画の適切な進捗管理を行っていきます。

## (2) 事務事業評価

平成28年度の「事業評価判定」の基準については、次のとおりです。

評価	評価基準
S	極めて効果があり、他の事業にも影響を与えた。
A	予定どおり順調に事務執行し、具体的な成果が表れており、引き続き、継続していく必要がある。
B	おおむね順調に事務執行し、成果が表れているが、一部を改善し、継続する必要がある。
C	目標とした成果が予定を下回っており、その手法について改善する余地が多くある。
D	目標とした成果を大幅に下回っており、事業廃止を含めて、事業の見直しをする必要がある。

## 4 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地教行法においては、点検及び評価を行うに当たり、点検評価結果の客観性を確保する観点から、教育に関し学識経験を有する者の意見を聴取する機会を設けるなど、知見の活用を求めています。

平成28年度においても、昨年同様に広範に亘る事業を網羅するため、教育に関し学識経験を有する方3名に第三者評価を依頼しました。

### ◎教育に関し学識経験を有する者 ※50音順

聖学院大学政治経済学部政治経済学科特任教授 井上兼生 氏 (いのうえ かねお)

元上尾市立小学校長 河原塚貴美代 氏 (かわはらづか きみよ)

元さいたま市生涯学習部生涯学習振興課長 高見澤妙子 氏 (たかみざわ たえこ)

### ○地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) [抜粋]

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 5 平成28年度 教育委員会点検評価（平成27年度実施事業の評価） 実施主要事業（全66事業）

### 基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成

#### 施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- 1 さわやかスクールサポート事業（学級支援）【再Ⅰ-4】
- 2 指導方法改善事業【再Ⅱ-1、Ⅱ-7、Ⅲ-1、Ⅲ-2、Ⅲ-4】
- 3 魅力ある学校づくり事業【再Ⅱ-7、Ⅲ-2】
- 4 学力向上支援事業

#### 施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- 5 日本語指導職員派遣事業【再Ⅲ-6】
- 6 教科用図書等整備事業【再Ⅱ-1、Ⅲ-3】
- 7 中学生海外派遣研修事業
- 8 小中学校A L T配置事業

#### 施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- 9 中学生社会体験チャレンジ事業
- 10 中学生進路意識啓発事業

#### 施策4 特別支援教育の推進

- 11 特別支援学級補助員派遣事業
  - 12 特別支援教育推進事業
- 再掲 さわやかスクールサポート事業（学級支援）
- 13 小中学校特別支援学級設置事業
  - 14 小中学校特別支援教育就学奨励事業【再Ⅲ-6】

#### 施策5 幼児教育の推進

### 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

#### 施策1 豊かな心の育成

- 15 学習支援事業
- 再掲 教科用図書等整備事業
- 16 さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）
- 再掲 指導方法改善事業
- 17 小中学校音楽会開催事業
  - 18 小中学校図書整備事業【再Ⅲ-3】
- 再掲 図書館資料整備事業
- 19 中学校部活動支援事業【再Ⅱ-7】
  - 20 中学校吹奏楽演奏会開催事業
- 再掲 子どもの読書活動支援センター運営事業

#### 施策2 生徒指導の充実

- 21 生徒指導推進事業
- 22 さわやか相談室運営事業
- 23 いじめ根絶対策事業（防止事業）【再Ⅱ-4】
- 24 いじめ根絶対策事業（相談事業）【再Ⅱ-4】

#### 施策3 人権教育の推進

- 25 人権教育推進事業（指導課所管分）

#### 施策4 学校教育相談の充実

- 再掲 いじめ根絶対策事業（防止事業）
- 再掲 いじめ根絶対策事業（相談事業）
- 26 不登校児童生徒の学校適応指導事業
  - 27 教育相談事業

#### 施策5 学校保健の充実

#### 施策6 食育の推進・学校給食の充実

#### 施策7 児童生徒の体力向上

- 再掲 指導方法改善事業
- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 中学校部活動支援事業
- 28 児童生徒体力向上推進事業

### 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

#### 施策1 教職員の資質・能力の向上

- 再掲 指導方法改善事業

#### 施策2 学校経営の改善・充実

- 再掲 魅力ある学校づくり事業
- 再掲 指導方法改善事業
- 29 学校評議員制度運営事業
  - 30 元気な学校をつくる地域連携推進事業【再Ⅳ-1】

#### 施策3 学校施設・設備の整備・充実

- 再掲 教科用図書等整備事業
- 再掲 小中学校図書整備事業
- 31 小中学校教育教材整備事業
  - 32 小中学校校舎改築事業

#### 施策4 学校のICT化の推進

- 再掲 指導方法改善事業
- 33 小中学校コンピュータ整備事業

#### 施策5 学校安全の推進

- 34 児童生徒安全推進事業
- 35 学校安全パトロールカー事業
- 36 通学路安全対策事業

#### 施策6 就学支援の充実

- 37 入学準備金・奨学金貸付事業
- 再掲 日本語指導職員派遣事業
- 再掲 小中学校特別支援教育就学奨励事業
- 38 小中学校就学援助費補助事業
  - 39 要保護児童生徒医療費援助事業
  - 40 準要保護児童生徒給食費援助事業

※ 38・40については、1シートで評価

### 基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

#### 施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

- 再掲 元気な学校をつくる地域連携推進事業

#### 施策2 家庭教育の充実

- 41 家庭教育推進事業

### 基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート

#### 施策1 生涯学習体制の充実

- 42 生涯学習指導者活動推進事業【再Ⅴ-3】

#### 施策2 生涯学習施設の整備

- 43 学校施設開放（生涯学習）事業

#### 施策3 生涯学習機会の提供

- 再掲 生涯学習指導者活動推進事業
- 44 成人式事業
  - 45 日本の伝統と文化の学習推進事業
  - 46 大学等との連携による生涯学習推進事業
  - 47 公民館講座事業

#### 施策4 人権教育の推進

- 48 人権教育推進事業（生涯学習課所管分）
- 49 人権教育集会所運営事業



### **施策5 図書館運営の充実**

- 50 図書館資料整備事業【再Ⅱ-1】
- 51 子どもの読書活動支援センター運営事業【再Ⅱ-1】
- 52 ブックスタート事業
- 53 (仮)中央図書館整備事業
- 54 セカンドブックスタート事業

## **基本目標Ⅶ 文化芸術の創造と文化財の保護**

### **施策1 文化芸術活動の推進**

- 55 文化芸術振興事業
- 56 美術展覧会事業
- 57 市民音楽祭事業
- 58 音楽家芸術活動支援事業

### **施策2 文化財の保護**

- 59 文化財調査・保存事業
- 60 埋蔵文化財調査事業
- 61 文化財保護啓発事業
- 62 歴史資料調査事業

## **基本目標Ⅷ 健康で活力に満ちた**

### **スポーツ・レクリエーション活動の推進**

### **施策1 スポーツ推進計画の策定**

### **施策2 スポーツ施設の整備・充実**

- 63 学校施設開放（スポーツ振興）事業

### **施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実**

- 64 スポーツ大会・教室等開催事業【再Ⅶ-5】

### **施策4 スポーツ指導者の育成**

- 65 スポーツ活動推進事業

### **施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援**

- 再掲 スポーツ大会・教室等開催事業
- 66 子どもの体力向上地域連携事業

## II 上尾市教育振興基本計画

## ●基本理念

上尾市教育振興基本計画では、本市の教育について、おおむね10年先を見通した基本理念を「**夢・感動教育 あげお**」とします。

# 夢・感動教育 あげお

## 夢

知・徳・体の調和がとれ、夢や目標・志を持って自己実現を目指す、変化の時代をたくましく生き抜く自立した人間を育成する教育を実践します。

## 感動

人と人とのつながりや学校・家庭・地域のつながりの輪を広げ、一体となって、共に生きることの素晴らしさ、尊さを享受し、感動する心を大切にする教育を実践します。

## ●基本方針

基本理念を踏まえて、施策を実施していくにあたっては、次の3つの基本方針で取り組みます。

### 生きる力をはぐくむ

新しい学習指導要領が、小学校では平成23年度から、また、中学校では平成24年度から全面実施されます。この中においても、子どもたちの「生きる力」をはぐくむという理念が引き継がれています。

子どもたちを取り巻く社会や環境が激変する時代にあっては、個性を尊重するとともに能力を伸ばし、知・徳・体の調和を図りつつ、公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心などを尊ぶ社会の一員として、たくましく自立するための生きる力をはぐくむことが重要です。

### 生きる喜びをはぐくむ

多くの市民が、自己の充実・啓発や生活の質向上のため、スポーツや文化芸術活動など多様な学習機会を求めています。

市民一人一人が、いつでも、どこでも学べる環境を整え、誰もが生涯にわたって自己実現が可能な社会、笑顔いっぱいの社会の実現を目指し、生きる喜びをはぐくむことが重要です。

### 絆をはぐくむ

今日のような教育課題を解決するためには、学校や家庭、地域住民、行政はもとより、企業や大学、関係団体やNPOなど社会全体が連携・協働して一体となって取り組むことが必要です。

また、社会全体で連携・協働して教育に取り組むことは、地域学習や体験活動の充実など教育の質を向上させることにもつながります。

教育の振興を図り、郷土愛に満ちた次世代の人づくりやより良い社会づくりのためには、市民一人一人が教育に対する関心を高め、主体的に教育に参画し、すべての市民の絆をはぐくむことが重要です。

## ●基本目標

本計画の基本理念及び基本方針を踏まえて、今後5年間（平成23年度～平成27年度）に取り組む教育行政の7つの基本目標を示します。

### 〔基本目標Ⅰ〕 確かな学力と自立する力の育成

創意工夫を生かして子どもたちの確かな学力を育成するとともに、社会や環境の変化に主体的に対応できる自立する力を育成します。

### 〔基本目標Ⅱ〕 豊かな心と健やかな体の育成

公共の精神、他者を思いやる気持ちや感謝する心など子どもたちの豊かな心をはぐくむとともに、いじめや不登校、非行・問題行動の防止などの課題に取り組みます。

また、健康の保持・増進や体力向上などにより、健やかな体を育成します。

### 〔基本目標Ⅲ〕 安心・安全で質の高い学校教育の推進

子どもたちの教育環境を整備・充実するとともに、教職員の資質向上を図り、質の高い学校教育を推進します。

また、子どもたちを災害・犯罪から守るための安全対策を講じます。

### 〔基本目標Ⅳ〕 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む気運を高め、学校応援団など、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

### 〔基本目標Ⅴ〕 生涯にわたる豊かな学びのサポート

自己啓発や生活の充実のための学びの環境を整え、生涯にわたる自己実現をサポートします。

### 〔基本目標Ⅵ〕 文化芸術の創造と文化財の保護

多様な文化芸術活動を支援するとともに、貴重な文化財の保存・活用に取り組みます。

### 〔基本目標Ⅶ〕 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

生涯にわたり心身ともに健康で活かに満ちた生活を営むため、スポーツ・レクリエーションに親しむことができる機会と場の提供に取り組みます。

## Ⅲ 平成27年度 教育行政重点施策

## 〔基本目標Ⅰ〕 確かな学力と自立する力の育成

児童生徒の生きる力を育むため、アップスマイルサポーターや中学1年生におけるアップスマイル教員の配置を行い、個々の児童生徒へのきめ細かな支援を推進し、充実した教育活動を行い、「確かな学力」を育成します。

また、今後更に進展する国際化・情報化、科学技術の高度化などの社会の変化に対応するため、外国語指導助手（ALT）の配置による外国語活動・英語学習のより一層の質の向上を図るとともに、日本語が理解できない児童生徒への必要な支援や学校ICT化の推進に取り組むとともに、児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を育てます。

特別支援教育については、すべての幼児・児童・生徒が、障害の有無にかかわらず、ともに学ぶ機会を保障し、ノーマライゼーションの理念に基づく教育を推進するとともに、インクルーシブ教育システム構築に向け、連続性のある「多様な学びの場」として、通常の学級、通級指導教室及び特別支援学級における学習環境を整備し、指導・支援の充実を図ります。

幼児期の教育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼保小の連携を図りつつ、幼児教育の質の向上に取り組めます。

### 〔平成27年度 重点事業〕

- ★ さわやかスクールサポート事業（学級支援）
- ★ 魅力ある学校づくり事業
- ★ 教科用図書等整備事業
- ★ 小中学校ALT配置事業
- ★ 特別支援教育推進事業
- ★ 小学校特別支援学級設置事業（施設整備）
- ★ 中学校特別支援学級開設（施設整備）

## 〔基本目標Ⅱ〕 豊かな心と健やかな体の育成

豊かな心を育むため、道徳教育、人権教育、体験活動を充実するとともに、子どもの読書環境を整えるためアップスマイル学校図書館支援員を配置し、「読書パスポート」を活用しながら一層の推進を図ります。

また、いじめや不登校などの教育課題に対応するため、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携を一層強化し、家庭・地域と一体となった生徒指導を推進するとともに、生徒指導支援員や教育相談員を配置し、教職員と児童生徒の信頼関係を深め、児童生徒の心を支える教育相談を充実するなど積極的に学校をサポートする体制を整えます。

「上尾市いじめの防止等のための基本的な方針」に基づき、策定された学校いじめ防止基本方針により、いじめの未然防止の取組として、担任が子どもたちの心理アンケート調査を活用し、児童生徒の学級への所属感や安心感を高め、いじめを発生させない学級経営を行います。近年のSNS等によるインターネットでのいじめを防ぐための管理体制を整

え、いじめ防止に向けた環境づくりに取り組みます。

更に、いじめホットラインやホットメールにより、児童生徒・保護者等の緊急相談等に対応し、いじめの早期解消を図ります。

健やかな体の育成のため、学校保健活動や健全な食習慣形成のため、食育の充実、安心・安全な給食の提供に努めるとともに、児童生徒の体力の課題を明確にし、改善を図るため体力向上推進委員会や体育主任会での活動を通して児童生徒の体力向上に向けた取り組みを積極的に推進し、健やかな体を育成します。

〔 平成27年度 重点事業 〕

- ★ いじめ根絶対策事業
- ★ さわやかスクールサポート事業（学校図書館支援）
- ★ 小中学校図書整備事業
- ★ 子どもの読書活動支援の充実

〔基本目標Ⅱ〕 安心・安全で質の高い学校教育の推進

様々な課題に対応し、質の高い教育を実現するため、学校経営の改善・充実や教職員の資質の向上に努めるとともに、児童生徒の人間として調和のとれた育成を目指して、教育課程を編成し、指導方法の改善に積極的に取り組みます。

また、学校安全マニュアル（防災編）を基にした安全管理・安全教育の充実、上尾中学校の改築、学校安全パトロールカー事業などのほか、通学路の安全対策の実施により児童生徒を災害・犯罪から守るための安全対策を講じるとともに、小学校、中学校の快適な学校環境整備を行います。

更に、学校ICT活用研修会、授業研究会等の実施により、ICTツールの有効な活用法について調査・研究するとともに、平成26年度に小・中学校の全普通教室に配置が完了した大型モニタ及び小学校PCルームに設置したタブレット型パソコンを積極的かつ効果的に活用した教育を推進します。

また、経済的理由で、進学や就学が困難な世帯に対し、貸し付けや就学に必要な学用品費、修学旅行費や学校給食費等を援助することにより、経済的理由による教育格差のない義務教育を実現します。

〔 平成27年度 重点事業 〕

- ★ 通学路安全対策事業
- ★ 中学校校舎改築事業
- ★ 学校ICTを活用した教育の推進
- ★ 大型モニタの積極的な活用

## 〔基本目標Ⅳ〕 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

社会全体で教育に取り組む機運を高め、PTA・学校応援団の活動をはじめ、上尾市教育月間、学校ファームなどの取組をとおして、学校・家庭・地域が一体となって児童生徒を育てる教育の充実を図ります。また、市PTA連合会や地域団体と連携し、家庭教育推進事業等の取組をとおして、家庭の教育力の向上を図ります。

〔平成27年度 重点事業〕

★ 元気な学校をつくる地域連携推進事業

## 〔基本目標Ⅴ〕 生涯にわたる豊かな学びのサポート

いつでも、どこでも、自分が学びたいときに学べる体制を整備しながら、自己実現と地域参加を積極的に支援します。また、市民一人一人が人権を尊重し合う社会を実現するための施策を推進します。

多角的な学びの機会を提供する事業として、奥行き幅広い日本文化を知るための「おとなの”NIPPON”講座」を開催します。「日本の伝統と文化の学習推進事業」により、日本の伝統や文化などを学ぶ機会を提供し、郷土を愛する市民意識の醸成を図ります。

また、子どもの知識の向上や知的好奇心を刺激し子どもの学習意欲向上に向け、大学等と連携し「子ども大学あげお・いな・おけがわ」や「あげお子ども大学」を開催します。

図書館は、資料の充実を図り、市民の学びを支えるとともに、すべての世代が利用できる、知の拠点を目指します。更に暮らしに役立ち、市民とともに歩む23万都市にふさわしい図書館本館建て替えのための事業を推進します。

平成20年度からブックスタート事業を開始し、更に平成26年度からセカンドブックスタート事業を追加し、学校・家庭・地域の連携を強化しながら、子どもたちに読書の楽しさと生涯の読書習慣を身に付けてもらうきっかけづくりの支援をします。更に、本年度から障害者のための読書環境の整備を推進します。

〔平成27年度 重点事業〕

- ★ 日本の伝統と文化の学習推進事業
- ★ 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」「あげお子ども大学」の開催
- ★ 子どもの読書活動支援の充実(再掲)
- ★ 公民館講座事業
- ★ 人権教育集会所事業の充実
- ★ (仮)中央図書館整備事業
- ★ セカンドブックスタート事業



## 〔基本目標Ⅵ〕 文化芸術の創造と文化財の保護

広く市民に芸術活動の発表の場として利用されている上尾市ギャラリーの運営や、美術展覧会や市民音楽祭の開催など、市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援し、市民が豊かな文化を享受し、発信ができるような環境づくりを行います。

市内の音楽家による本格的なクラシックコンサートを開催するという文化芸術支援を引き続き実施します。そして、利用者の利便性を考慮し、昨年度から市役所ギャラリーと市民ギャラリーの運営を一括して行っています。

また、伝統文化の継承、文化財の保存管理に努め、収集・整理を進め、学習活動を支援する環境を整えるために、古文書整理事業などにも取り組みます。

### 〔平成27年度 重点事業〕

- ★ 美術展覧会事業
- ★ 市民音楽祭事業
- ★ 音楽家芸術活動支援事業
- ★ 文化財保護啓発事業
- ★ 埋蔵文化財調査事業
- ★ 文化財調査・保存事業

## 〔基本目標Ⅶ〕 健康で活かに満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

市民の健康づくりや体力づくりに対する関心は高く、ライフスタイルの変化に伴い、多種多様なスポーツ活動やスポーツイベントへの参加要求がますます高まっています。このような中、スポーツ施設の整備、スポーツ・レクリエーション事業の開催や活動団体・指導者の育成を行い、市民がスポーツ・レクリエーションに親しむことのできる環境づくりに取り組みます。

また、スポーツ・レクリエーション活動の支援では、子どものスポーツ機会の充実へ向け、小・中学校との連携を図り、各種のスポーツ関係団体の協力を得ながら取り組んでまいります。

### 〔平成27年度 重点事業〕

- ★ スポーツ大会・教室等開催事業
- ★ スポーツ施設の整備・充実
- ★ 子どもの体力向上地域連携事業

## IV 評価結果（施策評価）

## 基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

---

施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

施策2 時代の変化に対応した教育の推進

施策3 進路指導・キャリア教育の充実

施策4 特別支援教育の推進

施策5 幼児教育の推進

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
1	さわやかスクールサポート事業(学級支援)	A	3	魅力ある学校づくり事業	A
2	指導方法改善事業	A	4	学力向上支援事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	51.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	50.6	

教育委員会の施策評価	<p>児童生徒の確かな学力の育成、豊かな心と健やかな体の育成は教育振興基本計画の柱である。教育基本法、学校教育法等の法令、学習指導要領に基づいて適正な教育課程を編成し、実施することが重要である。そのために、教員一人一人の資質、指導力を向上させることが求められている。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、上尾市の指導の重点・努力点を全教職員に配布し、指導事項を周知し、上尾市学力調査を基に各学校で作成した学力向上プランの積極的活用を推進することで、課題意識を明確にし、組織的な教育の実践につなげた。さらに、個々に応じた指導の充実を図るため、教科指導充実加配による少人数指導、チームティーチング等により、きめ細やかな指導を継続して行うことで、成果も表れてきている。</p> <p>また、各学校で、児童生徒の実態に応じて、課題を明らかにし、その課題解決のため、校内授業研究会を中心に研究に取り組んだ。教職員の指導力の向上、児童生徒の学力向上を目指し、各学校で、学校・地域の実態に合った研究を進めることができている。さらに、市内教職員が組織し、主体的に研修・研究に取り組んでいる上尾市教育研究会へ補助することで、教職員の資質向上・指導力の向上を図ることができた。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名		平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.4	52以上	52以上	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.6	51以上	51以上	

学識経験者の意見	<p>◆本年8月に中教審より出された、次期学習指導要領に向けた審議の中間報告では、人工知能(AI)も学習し進化する時代において、人間が学ぶことの本質的な意義を問い直し、「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という視点から学習指導要領を改善するとしている。こうした動向も踏まえて、加配による少人数指導、チームティーチング、アクティブ・ラーニングの推進など、創意工夫に富んだ教育指導のより一層の充実を期待したい。</p> <p>◆アップスマイルサポーター及びアップスマイル教員の配置等上尾市独自の教職員の配置に対する先進的な取り組みは、保護者・児童生徒・学校からも大いに評価されている。一方こうした手厚い支援についての市民への認知度はあまり高くない。学校課題研究の成果を発表し合い、教師のスキルアップを図る方法は、上尾市全体の教育力アップに大いに貢献している。学力検査の結果に基づいた課題分析は、大切なことであるが、地域差を考慮し、数字だけでなく指導方法の研究に力を入れていきたい。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
5	日本語指導職員派遣事業	A	7	中学生海外派遣研修事業	A
6	教科用図書等整備事業	A	8	小中学校ALT配置事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
海外派遣研修応募生徒数	54人	76人	63人	海外派遣研修応募生徒数
ALT配置人数	27人	27人	27人	小・中学校ALT配置人数
ALT活用時数(小学校)	32.2時間	21.9時間	21.9時間	小学校1学級あたりのALT活用人数
ALT活用時数(中学校)	37.8時間	30.6時間	26.0時間	中学校1学級あたりのALT活用人数

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>グローバル化が急進する現代社会において、主体的に対応できる児童生徒を育成することは、人材育成の面からも重要である。中学校では、主にALTと日常的に触れ合い、「生きた英語」を学ぶことができる環境の中で、英語学習の動機づけを図り、積極的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが必要である。小学校では、平成23年度から小学校5・6年生で週1時間外国語活動を行い、英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度やその素地を高める言語活動の充実が図られている。教科指導以外でも、日常的な触れ合い、給食、清掃等を通しての関わりや、また中学校ではスピーチコンテストの指導等においても成果を上げている。教員対象の研修においても指導力向上のために指導・助言している。</p> <p>また、中学生海外派遣研修では、22名の中学生が一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修等の研修に参加した。現地における全研修日程を計画どおり無事に終え、帰国報告会での発表等、この研修を通して、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。実際に英語を使用しながら生活することは、教室での英語学習では学ぶことができない貴重な体験学習であり、日本と異なる生活習慣や文化の中で暮らすホストファミリーとの生活を通して、今まで気づくことのなかった自国の文化・伝統の「よさ」を実感することにもつながった。</p>
-------------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
ALT配置人数	27人	33人	35人	小・中学校ALT配置人数
海外派遣研修応募生徒数	63人	60人	70人	海外派遣研修応募生徒数

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆小学校英語教育は、まもなく(2020年、先行実施の場合2018年開始)小学3年生から必修化、小学5、6年生は教科化されることが予定されている。学級担任を中心に指導することになっており、教員の負担が増えないよう、ALTの積極的活用や専科指導を行う教員の確保など、開始前から十分な備えの対策が求められる。また、小中学校を通じた系統的な学習指導が打ち出されている。小中学校教員を対象とし、ALTも交えた情報交換や研修などの機会を設けていくことも必要であると思われる。</p> <p>◆英語以外の中国語・ベトナム語・タガログ語等の対応にも配慮して頂けることは大変ありがたいことである。外国に行った日本人の多くは、自費で、週末等に現地の語学学校に通っていると聞く。こうした支援により、子供の日本語獲得のほうが親より早く、日本になじんでおり、やがて、よりグローバルな活動ができるよう期待したい。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
9	中学生社会体験チャレンジ事業	A	10	中学生進路意識啓発事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
職場体験事業所数	244 <small>事業所</small>	242 <small>事業所</small>	228 <small>事業所</small>	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できたと回答した生徒	43 %	49 %	51 %	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合
講演会開催回数	11 回	11 回	11 回	開催回数

教育委員会の施策評価	<p>中学生社会体験チャレンジ事業における職場体験は、生徒の発達段階の問題や事業所からの要望等あり、全中学校第2学年で実施した。今年度も、個人情報漏洩防止や器物破損等の事故が起きた場合に備えて参加生徒全員が「職場体験申込書」を提出した。学校にとって事業所の確保が課題ではあるが、大型ショッピングセンターの出店や新規事業所の申込み等あり、拡大した。体験日数については、アンケートやチャレンジ事業推進委員会において協議、検討した。</p> <p>また、中学生進路意識啓発事業では、すべての中学校で講演会が各1回ずつ実施された。地域で活躍する方々に加え、卒業生やOBの中から活躍されている方に講師を依頼する学校が増え、進路指導の積み重ねがより充実した。生徒も高い興味・関心を持って参加し、生徒が自らの進路や生き方について考える有意義な機会となった。また、全中学校で一部の学年のみを対象にするのではなく、全学年生徒が講演会に参加した。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
「進路意識向上できた」と回答した生徒	51 %	53 %	55 %	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合
講演会開催回数	11 回	11 回	11 回	

学識経験者の意見	◆人工知能(AI)の急速な発達により、10～20年後には頭脳労働も含め5割前後の雇用がAIに奪われる可能性があるという予測が、様々な研究報告書により出されている。こうした激しい変化の時代をたくましく生き抜いていくための進路指導・キャリア教育が今後求められる。生徒が多様な職業・職種に触れる機会を設け、柔軟性のある職業観や勤労観を育成していくことが必要になっている。社会的起業家など事業を通して社会の課題と取り組む人々の講演といった多様な企画を検討し、生徒が自らの進路を考える啓発につなげたい。
	◆生徒を受け入れてくださる企業に感謝している。最近ボランティア体験で、気軽に様々な事業に参加してくる子供たちが多くなったことは喜ばしいことであるが、受け入れ側にとってご迷惑になるケースも多いように聞いている。職場体験であれば、送り出す側もしっかりとした教育をして派遣していると思うがより一層しっかりとお願いしたい。
	◆「中学生社会体験チャレンジ事業」は地域事業所等の御理解と御協力のもとに実施できていることに感謝したい。子供たちを「地域が育てる」意識の醸成や、「地域を育てる」ことにもつながる有意義な事業であると感じている。

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定
1	さわやかスクールサポート事業(学級支援)	A
11	特別支援学級補助員派遣事業	A
12	特別支援教育推進事業	A

事業番号	事業名	評価判定
13	小中学校特別支援学級設置事業(施設整備)	A
14	小中学校特別支援教育就学奨励事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
アップスマイルサポーター数	74 人	75 人	75 人	通常学級で教員を補助し特別の支援を行う支援員数
補助員配置率	69 %	64 %	57 %	補助員配置校数/特別支援学級配置校数

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>アップスマイルサポーターを配置することにより、通常学級に在籍して学ぶ、特別な支援を必要とする児童生徒の成長を促すことができた。同時に学級の円滑な運営にも資することができた。このことは、ノーマライゼーションの理念の実現やインクルーシブ教育の推進にもつながっているものと評価できる。</p> <p>特別支援学級の支援体制を整え、一人一人のニーズに応じた教育支援を行うにあたっては、補助員の存在は大きく、安全で安定した学習環境の維持が可能となっている。</p> <p>各学校においては、障害のあるなしに関わらず、子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う、合理的な配慮が求められる。そのためにも教員の指導力・資質の向上、理解の促進は欠かせない。今年度も、上尾市特別支援教育基本計画に沿って、県立特別支援学校のセンター的機能の活用を積極的に推進してきた。各研修会においても、県立特別支援学校コーディネーターを指導者に招き、既存の研修会に加え、担当者育成のための特別支援教育推進研修会を行った。</p> <p>併せて、上尾市コミュニティーセンターにおいて、特別支援学級の児童生徒による合同作品展を開催した。障害のある児童生徒の活躍の場を確保することができた。</p>
-------------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
アップスマイルサポーター数	75 人	75 人	85 人	通常学級で教員を補助し特別の支援を行う支援員数
補助員配置率	57 %	64 %	100 %	補助員配置校数/特別支援学級配置校数

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆近年、少子化傾向が進む中で、支援が必要な児童・生徒数はむしろ増加しており、特別支援教育の重要性が増している。また、日本は、平成18年に国連で採択された「障害者の権利に関する条約」に平成26年批准し、この条約が提唱する「インクルーシブ教育システム(障害のある者と障害のない者が可能な限り共に学ぶ仕組み)」の構築が課題となっている。こうした状況を踏まえて、アップスマイルサポーターや特別支援学級補助員の増員など、より充実した体制整備を望みたい。</p> <p>◆発達障害に対する社会的認知度が非常に高まってきている。事実その対象者も増加しており、就学を前にした保護者の不安は大変大きい。上尾市における早い時期からのさわやかスクールサポート事業は、保護者・子供はもとより学校にとって大変ありがたい事業である。すでに実施されているが、担当者育成のための特別支援教育推進研修会も大変重要で、一層の充実をお願いしたい。学校側も入学説明会等で、保護者にこうした対応を確実に伝えてほしい。合わせて適正な就学指導を徹底していきたい。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策5 幼児教育の推進

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
幼・保・小合同研修会回数	1回	1回	1回	幼児教育に係る研修会実施回数
幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%	参加学校数/22校×100

教育委員会の施策評価	<p>幼児教育から小学校教育への接続は、児童にとって大きな環境の変化が伴い、指導する教員の児童理解や指導力・資質の向上は欠かせないことである。そこで、幼児期の教育と小学校教育との滑らかな接続を目指し、各園・小学校と連携し「上尾市 接続期プログラム集」を活用し、幼児教育の充実、保・幼・小の連携強化を図る取組を推進してきた。8月に実施した幼・保・小合同研修会では、「上尾市 接続期プログラム」の修正と活用について協議を深めるとともに、児童と幼児の交流のみならず、職員の研修や相互理解のための研修等となるよう研修会の持ち方についても工夫してきた。今年度は、3学期から各幼稚園・保育所にて接続期プログラムにおける「アプローチカリキュラム」を実施した。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
幼・保・小合同研修会参加率	100%	100%	100%	参加学校数/22校×100

学識経験者の意見	<p>◆幼児期教育の重要性が広く認識されるようになってきた。幼児期の教育環境は、その後の人格形成や能力の発達に大きな影響を与える。自己制御などの非認知的能力の育成も現代的課題として指摘されている。魅力ある幼児期教育の支援措置を望みたい。また、幼児期教育は小学校以降の教育の土台である。小1プロブレムなどの問題を解決し、小学校の学習により良く適応するための接続期プログラムに沿った学習指導の、一層の推進を期待したい。</p> <p>◆子供の減少により幼稚園の在り様が大きく変化している。さらに保育所も待機児問題を通して、様々な実態が明らかになってきた。幼稚園だけでなく保育所にも接続プログラムを適用させることは大切なことであり、大いに評価したい。</p>
----------	--



## 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

---

- 施策1 豊かな心の育成
- 施策2 生徒指導の充実
- 施策3 人権教育の推進
- 施策4 学校教育相談の充実
- 施策5 学校保健の充実
- 施策6 食育の推進・学校給食の充実
- 施策7 児童生徒の体力向上

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
2	指導方法改善事業	A	18	小中学校図書整備事業	A
6	教科用図書等整備事業	A	19	中学校部活動支援事業	A
15	学習支援事業	A	20	中学校吹奏楽演奏会開催事業	A
16	さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)	A	50	図書館資料整備事業	A
17	小中学校音楽会開催事業	A	51	子どもの読書活動支援センター運営事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
道徳副読本整備状況	100 %	100 %	100 %	整備率
学校図書館支援員数	25人／33校	25人／33校	25人／33校	小中学校に派遣する図書館支援員の数
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	74.9 %	75.9 %	上尾市小・中学校学力調査結果より
	中学校	73.2 %	74.6 %	

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>学校図書館支援員の配置については、中学校の図書館教育の充実のため、ベテラン支援員を継続して配置した。上尾市立大石南中学校の取組が、文部科学省「平成27年度子ども読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)」の優秀実践校表彰を受け、研修会でその事例を各校に広めることや、読書活動実践事例集への各学校の積極的な参加など、学校図書館運営の充実が図られた。</p> <p>教科用図書等整備では、教科用図書のない道徳や体育・保健体育、特別な資料が必要な社会科においては、学校・教員による指導内容の偏りを防ぎ、児童生徒全員が同じ内容の教育を受けることにより、本市の教育水準を高めることができた。道徳副読本、体育準教科書については、学校備品として、複数年使用できるようにした。昨年度に引き続き、社会科副読本「のびゆく上尾」のデジタル教材を作成し、ICTの推進を図ることができている。</p> <p>小中学校音楽会は、小学校5年生と中学校3年生が日頃の学習の成果を発表し、互いの音楽を聴き合うことにより、学習意欲及び音楽的な表現力の向上につながった。また、市内小・中学校の教職員及び保護者から高評価を得ることができた。参会者によるアンケートの調査結果での評価も高かった。市として文化芸術振興の一環としての役割も大きく、一般参会者数は、増加傾向にある。その成果を、NHK全国学校音楽コンクールやTBSのこども音楽コンクールで発揮し、良い成績を収めている学校もある。</p>
-------------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
道徳副読本整備状況	100 %	100 %	100 %	整備率
学校図書館支援員数	25人／33校	25人／33校	33人／33校	小中学校に派遣する図書館支援員の数
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	74.8 %	75%以上	上尾市小・中学校学力調査結果より
	中学校	77.4 %	78%以上	

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆児童生徒の1か月間の平均読書冊数は、小学生が11.2冊、中学生は4.0冊、高校生は1.5冊となっている(全国学校図書館協議会の2015年5月調査)。学校教育における読書指導は、「本を読むこと自体が楽しい」という読書教育に失敗しているとの指摘もある。児童生徒にとって魅力的な図書を充実させ、図書館の利用を通して、自発的な学習活動の習慣を身につけさせる工夫と図書館の環境整備が求められる。ベテランの図書館支援員の継続配置により、読書活動優秀実践校として文部科学大臣表彰を受けた取組を、モデルケースとして各校に普及させることなどをさらに推進してほしい。</p> <p>◆道徳の副読本、体育準教科書の学校備品化や「のびゆく上尾」のデジタル教材化は、経済的にも効率的にも大歓迎である。比較的派手な印象のスポーツ分野に比べて、文化芸術の分野は地味であるが、音楽会の開催等は大切な教育の発表の場と考える。学校図書館支援員の配置は学校にとって大変ありがたいが、プラスアルファとして学校応援団のボランティアを受け入れてみたらどうか。図書館司書の免許を持ち、社会貢献したい人は意外に多い。今、読み聞かせボランティアは大人気である。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
21	生徒指導推進事業	A	23	いじめ根絶対策事業(防止事業)	A
22	さわやか相談室運営事業	B	24	いじめ根絶対策事業(相談事業)	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
暴力行為発生件数	3件	3件	2件	小・中学校の暴力行為発生件数
街頭補導回数	494回	507回	441回	各中学校区における補導回数
教育相談実件数	321件	461件	547件	実人数+電話相談(匿名)
教育相談延べ回数	5,935回	6,483回	7,669回	面接相談+電話相談+メール相談
教育相談終結率	79.1%	76.4%	75.1%	終結(方向性を持って支援を継続しているケース+問題終結ケース)数/相談実件数×100
いじめ相談解決率	100%	100%	100%	小・中学校におけるいじめの解消率
いじめホットライン・ホットメール相談件数	17件	11件	7件	年間相談件数

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>生徒指導推進事業については、生徒指導支援員の活動や上尾市生徒指導推進協議会の取組により、暴力行為が2件となっており、平成24年度の18件と比べ、大幅に減少している。青少年健全育成地域の集いは、市内小・中学生が自らルールやマナーの行動宣言を策定し、発表することで、正しいネットの使い方についての意識を高めることができた。生徒指導支援員は、2名1組で、教師の目の届きにくい時間帯、場所を巡回し、生徒の暴力行為等の未然防止を図り、成果をあげることができた。生徒指導支援配置校からは、平成28年度も引き続き派遣してほしいとの声がある。補導回数は、昨年度に比べ減少したが、地域が一体となり、子供の犯罪抑止に大きく寄与しており、関係機関が連携して今後も取り組んでいく必要がある。</p> <p>いじめ根絶対策事業(防止事業)においては、CAP研修会、hyper-QU、「なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスター」制作等、具体的事業を行い、いじめ問題に対して、学校を中心に、市全体で組織的に取り組むことができた。特に、ネットパトロール調査では、中学校を対象にネットパトロール調査を行い、学校非公式サイトや個人SNSを監視した。問題のある書き込み等に対する抑止力とネットトラブルの早期発見の効果により、いじめの未然防止、早期発見・早期解消が図ることができた。</p>
-------------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
暴力行為発生件数	2件	0件	0件	小・中学校の暴力行為発生件数
いじめ相談解決率	100%	100%	100%	小・中学校におけるいじめの解消率

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆生徒指導推進面で、生徒指導支援員の活動や上尾市生徒指導推進協議会の取組が成果をあげたことは評価できる。ネットトラブルの早期発見も重要な取組である。いじめなど生徒指導の問題に対する根本的取組として、児童生徒のコミュニケーション力の向上、学校における居場所づくりなどの地道な努力を積み重ねていくことも大切である。</p> <p>◆ネットパトロールという言葉を知らなかったが、内容や必要性は容易に理解できる。社会の変化に生徒指導の内容や質も大きく様変わりしてきたことにより、専門家や外部の人の力を積極的に活用すべきと思う。</p>
-----------------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
25	人権教育推進事業(指導課所管分)	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
規律ある態度に関する調査 「相手のことを考えた優しい言葉づかいができる」と回答した児童生徒の割合	90 %	90 %	91 %	「よくなる」「だいたいできる」 回答児童生徒数/全児童生徒数×100
人権作文・標語集等配布率	100 %	100 %	100 %	配布数/児童生徒数×100

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>人権感覚育成プログラムを全小・中学校で取り組んだり、校内研修で同和問題を取り上げる学校が増加したりするなど、すべての児童生徒に「人権についての正しい理解」を深めるとともに、「差別をなくす」「家族や友達を大切に」「人と人とのきずなを大切に」ことに重点をおいた人権教育を推進することができた。いじめ問題については、毎月「学校生活アンケート」を実施し、未然防止・早期発見・早期対応に努めるとともに、平成25年度に発表された「上尾市『いじめ根絶』中学生宣言」及び平成19年度の「いじめ根絶宣言」を各校で教室や廊下等に掲示し啓発をすることができた。校長対象研修会、教頭対象研修会、担当教員対象研修(年4回)、人権教育授業研究、3年経験者研修、人権教育小中学校研究会全体会・各部会年3回(啓発・調査研究・資料作成)を実施できた。教頭対象研修では、昨年度の校長対象研修に続き、ネット上における人権問題とその対応についての内容を初めて盛り込んだ。管理職対象及び一般教職員対象など、それぞれの職責に応じた研修を行い、教職員の資質能力の一層の向上と人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、豊かな人権感覚を身に付け、様々な人権問題を自ら解決しようとする児童生徒を育成することは今後も学校教育が担う重要な課題であり、継続していく必要がある。</p>
-------------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
規律ある態度に関する調査 「相手のことを考えた優しい言葉づかいができる」と回答した児童生徒の割合	91 %	92 %	93 %	「よくなる」「だいたいできる」 回答児童生徒数/全児童生徒数×100

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆社会的に重要な立場にある人たちが人権意識の欠けた発言や行動を行う姿が、国内外で目につく。子供は大人の背中を見て育つ。人権意識の向上は市民全体を対象に推進しなければならない。教育現場では、児童生徒への啓発とともに、教職員の人権感覚育成・向上を図る研修が重要である。体罰問題などのスクールハラスメントや年々深刻になるネット上の人権侵害などに対する教員側の意識改革を進めなければならない。</p> <p>◆人権意識というのは、教えられなければ育たないものである。そう考えると本当に学校教育が担う重要な課題であり続けるということである。激しい社会の変化に応じて、中身は変化しても、変化に対応した内容をスピーディーに教育に取り入れなければならない。大変ではあるが引き続きお願いしたい。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
23	いじめ根絶対策事業(防止事業)	A	26	不登校児童生徒の学校適応指導事業	A
24	いじめ根絶対策事業(相談事業)	A	27	教育相談事業	B

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
いじめの認知件数	22 件	16 件	10 件	認知件数
いじめ相談解決率	100 %	100 %	100 %	いじめ相談解決数/いじめ相談数
いじめホットライン・ホットメール相談件数	17 件	11 件	7 件	ホットライン(電話)件数+ホットメール件数
適応指導教室入級者数	13 人	11 人	13 人	入級者数
適応指導教室開設日数	151 日	151 日	151 日	4月及び水曜日を除く平日*夏休は火・木のみ開設
教育相談実件数	321 件	461 件	547 件	実人数+電話相談(匿名)
教育相談延べ回数	5,935 回	6,483 回	7,669 回	面接相談+電話相談+メール相談
教育相談最終率	79.1 %	76.4 %	75.1 %	最終(方向性を持って支援を継続しているケース+問題最終ケース)数/相談実件数×100

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>今年度の教育センターの教育相談延べ回数は7,669件と、3年連続で過去最高を更新している。その中で、どのケースも迅速かつ丁寧に相談に応じることができた。相談の内容は、「不登校」「性格・行動」「学習・発達」「就学」についての相談が大変多くなっている。それに伴い、知能検査を実施するケースも大変多くなっているが、きめ細かく丁寧に相談に応じ、適切な支援の方法をアドバイスするなどして問題の解決へと導くことができた。</p> <p>また、各小・中学校やさわやか相談室等と連携し、これらの相談を一つ一つ丁寧に対応することで問題を解決できた。特に学校適応指導教室では、個別の自主学習形態での学習や集団でのレクリエーション活動・体験活動を行い、集団の中での行動の仕方や他者とコミュニケーションをとる力を身につけたり、学校復帰に向けた不安感を払拭させたりすることができた。</p> <p>さらに、問題行動等に関して、スクールソーシャルワーカーが繰り返し家庭訪問を行ったり、子ども若者相談センターや児童相談所、社会福祉協議会等、関係機関と連携し、ケース会議を適宜行ったりした結果、関係機関が対象児童生徒について情報の共有ができたことは評価できる。</p> <p>「子ども・いじめホットライン」では、相談員が相談者の気持ちを十分受け止め、寄り添いながら丁寧に相談を進め、学校と協力して問題の解決を図った。特に緊急性のある相談については、相談者の安全確認等、状況把握を慎重に行い、学校と連携し迅速に対応できた。</p>
-------------------	---

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
不登校児童生徒の割合	1.88 %	1.69 %	1.52 %	不登校生徒数/全生徒数×100
教育相談最終率	75.1 %	80 %	80 %	最終(方向性を持って支援を継続しているケース+問題最終ケース)数/相談実件数×100
適応指導教室から学校への復帰率	100 %	100 %	100 %	学校復帰した人数/入級者×100

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆核家族化や夫婦共働きが進み、スマホなどの情報手段に頼る傾向が高まる中で、家庭や地域社会の教育機能やコミュニケーション力が低下し続けている。児童生徒の抱える問題も増加し、また多様化している。学校だけでは対応しきれない状況の中で、教育センターなどの機関やスクールソーシャルワーカーなどの専門家の果たす役割は大きい。学校と緊密な連携を構築し、該当児童生徒への適切かつ迅速な対応の一層の推進を期待したい。</p> <p>◆相談件数が増加しているのは、丁寧に相談してもらえるからこそであり、相談者が、相談員や相談の仕組みを信頼している証拠である。最終に至る期間は内容により千差万別、数字にこだわる必要はないと考える。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 学校保健の充実

◎施策の評価指標

指標名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明	
「早寝 早起 朝ごはん」調査	起床時間 7時までに起きる	小学校	96.1%	95.8%	96.1%	「早寝 早起 朝ごはん」調査 (各年度4月調査)
		中学校	85.0%	85.2%	87.1%	
	就寝時間 10時までに寝る	小学1年	95.9%	96.4%	96.0%	
		小学2年	94.0%	93.9%	86.4%	
		小学3年	91.0%	89.9%	88.1%	
		小学4年	81.6%	87.1%	84.8%	
		小学5年	72.2%	74.6%	74.1%	
		小学6年	58.3%	57.6%	56.7%	
	就寝時間 11時までに寝る	中学1年	82.9%	80.6%	76.6%	
		中学2年	49.5%	55.2%	51.2%	
中学3年		30.4%	29.0%	31.8%		
DMF保有数	小学校	0.28本	0.30本	0.25本	DMF保有数＝過去にむし歯になったことがある歯の本数を表したものの	
	中学校	1.11本	1.22本	1.03本		
	平均	0.56本	0.61本	0.51本		

教育委員会の施策評価	<p>各学校では、生活の乱れを改善するために、学校保健計画を作成し、学校保健委員会などの場で、解決にむけた対応策を協議している。児童生徒への指導については家庭、地域と連携を図りながら、基本的な生活習慣を養うよう努めるとともに、学校保健活動を通じて児童生徒自らの健康管理についての指導を行い、生活の乱れの防止・改善を進めている。</p> <p>定期健康診断については、全ての小中学校で実施しており、疾病の予防や早期発見、早期治療につなげることで、健康の保持・増進を図ることができた。過去にむし歯になった本数を表すDMF保有数は、定期健康診断や歯科保健活動により減少傾向にある。</p> <p>食物アレルギーについては、学校・保護者・医師の連携が必要であり、医師が記入する学校生活管理指導表などを活用し、保護者との面談等を経て、対象児童生徒への対応策を作成している。また、教職員間でその情報を共有化することで、事故を未然に防ぐとともに緊急時にも備えている。</p>
------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名		平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明	
起床時間 7時までに起きる	小学校	96.1%	96.5%	97.0%		
	中学校	87.1%	87.5%	88.0%		
就寝時間	10時までに寝る	小学校	81.1%	81.5%	82.0%	
	11時までに寝る	中学校	53.0%	53.5%	54.0%	
DMF保有数	小学校	0.25本	—	—		
	中学校	1.03本	—	—		
	平均	0.51本	0.46本	0.46本		

学識経験者の意見	<p>◆基本的な生活習慣の確立は、学校教育の土台である。また、児童生徒の健康管理においては予防医療の視点が有効であろう。DMF保有数が減少傾向にある点は、学校と家庭・地域との連携の成果として評価される。口腔ケアが感染症予防につながるという認識も広めたい。学校保健の充実に向けては保護者への啓発活動が重要であるので、今後も、家庭との連携を進める工夫を重ねてほしい。</p> <p>◆食物アレルギーを持つ子供への配慮が進み、個別にアレルギー対策が可能になっていることに驚き、ご苦労に感謝している。とりわけ医師との連携はこれからも重要になってくると思われる。毎年の医師の診断を面倒がる保護者もいると聞かすが、ここは譲れない砦にしたい。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策6 食育の推進・学校給食の充実

## ◎施策の評価指標

指標名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明	
朝ごはんを必ず食べる	小学校	1年	98.3%	96.7%	96.7%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査(各年度4月調査)
		2年	96.0%	96.1%	93.4%	
		3年	96.8%	95.7%	94.6%	
		4年	95.7%	95.4%	95.1%	
		5年	96.9%	95.6%	95.6%	
		6年	96.3%	95.9%	95.0%	
	平均	96.7%	95.9%	95.1%		
	中学校	1年	96.7%	94.0%	95.8%	
		2年	92.8%	92.2%	92.1%	
		3年	90.3%	91.2%	92.1%	
平均		93.4%	92.5%	93.3%		

教育委員会の施策評価	<p>「早寝・早起き・朝ごはん運動」を推進し、朝食の欠食や偏食などの食生活の乱れを改善するよう、食に関する指導を実施している。実践の内容としては、栄養教諭や栄養職員とのチームティーチング、栄養教諭や栄養職員が行うエプロンシアターなどがあり、これらの手法により分かりやすく児童生徒への指導を行ってきた。併せて保護者への啓発も行い、家庭においても食生活改善への取組について意識向上に努めた。</p> <p>また、学校ファームでの野菜の栽培、市内の生産者をはじめJAさいたまの協力による地場産の食材を使用した給食の提供などを通じ、環境、食物の生育過程、食材などへの理解を深めている。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名		平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
必ず朝ごはんを食べる	小学校	95.1%	95.5%	96.0%	「早寝 早起き 朝ごはん」調査(各年度4月調査)
	中学校	93.3%	94.0%	94.5%	

学識経験者の意見	<p>◆2012年の厚生労働省調査によれば、子供の6人に1人が貧困状態にある。平成26年度版「子ども・若者白書」のデータでは、大人が1人の世帯では子供の相対的貧困率が50.8%に達しOECD加盟国中最も高い。こうした子供の相対的貧困率が上昇傾向にある中で、学校給食の果たす役割は大きい。貧困世帯への給食費の助成なども含めた学校給食の更なる充実を期待したい。また、給食がない夏休み中に十分食事が取れず、体調を崩す子供が増えているという。全国に広がりつつある「こども食堂」などの取組への支援も求めたい。</p> <p>◆子供の頃の食習慣は、大人になってからも大きな影響を持ち続ける。すぐに口にできる便利な食べ物が氾濫している中で、次世代を担う子供たちがより良い食習慣を身に付けられるよう今後も継続して指導していきたいものである。</p> <p>◆「早寝 早起き 朝ごはん運動」の推進は、家庭教育によるところが大きいことから、PTAの協力をいただきながら意識啓発をさらに推進するとともに、子供たちへは、学校給食を通じて、さらに食に対する意識の醸成を図っていただきたい。</p>
----------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
2	指導方法改善事業	A	19	中学校部活動支援事業	A
3	魅力ある学校づくり事業	A	28	児童生徒体力向上推進事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
新体力テスト	小学校	78.8 %	78.5 %	79.6 %	総合評価上位3ランク (A+B+Cの割合)
	中学校	84.6 %	86.1 %	86.3 %	
部活動指導員配置率		90.1 %	90.1 %	93.8 %	学校配置指導員数/学校が希望する指導員数×100
運動部活動加入率		74.1 %	73.4 %	74.1 %	運動部活動加入生徒数/生徒数×100

教育委員会の施策評価	<p>中学校部活動では顧問の高年齢化や人事異動等により、技術指導を行える指導者が不在となり、活動が停滞したり存続が難しくなったりする等の状況が問題化しているが、市内では、技術指導を中心とした部活動指導員を各中学校に配置し、生徒の技能や活動に対する意欲の向上を図ることができた。また、部活動指導員には、消防署によるAED使用法、心肺蘇生法実習を受講いただいているため、活動する上での生徒の安全を確保することができた。生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などの育成を図る部活動は、スポーツ、文化において高い技能を持つ部活動指導員を配置することにより、円滑に進めることができている。また、思春期にあたる中学生時期に様々な人と接することで、心の成長につながっている。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
部活動指導員配置率	93.8 %	97.0 %	100.0 %	運動部活動加入生徒数/生徒数×100

学識経験者の意見	<p>◆中学校では、部活動に関する教員の負担の大きさが問題になっている。その緩和に向けた部活動指導員の各中学校への配置は評価できる。今後は、人数の拡大とあわせて、運動部、文化部ともに高い指導力を持った指導員を増やしていくことに力点を置いてほしい。地域のスポーツ団体や文化団体、NPOなどとの連携をより深める取組を推進することも期待したい。</p> <p>◆世界の中で、日本の教員の勤務時間が最も長いと聞く。こうした背景も加味し、部活動の指導員の配置は、学校にとって大変ありがたい事業と思われる。</p>
----------	---



## 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

---

- 施策1 教職員の資質・能力の向上
- 施策2 学校経営の改善・充実
- 施策3 学校施設・設備の整備・充実
- 施策4 学校のICT化の推進
- 施策5 学校安全の推進
- 施策6 就学支援の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
2	指導方法改善事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
研修会実施数		44回	46回	53回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	51.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	50.6	

教育委員会の施策評価	<p>児童生徒の確かな学力の育成、豊かな心と健やかな体の育成は教育振興基本計画の柱である。教育基本法、学校教育法等の法令、学習指導要領に基づいて適正な教育課程を編成し、実施することが重要である。そのために、教員一人一人の資質、指導力を向上させることが求められている。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、上尾市の指導の重点・努力点を全教職員に配布し、指導事項を周知し、上尾市学力調査を基に各校で作成した学力向上プランの積極的活用を推進することで、課題意識を明確にし、組織的な教育の実践につなげた。さらに、個に応じた指導の充実を図るため、教科指導充実加配による少人数指導、ティームティーチング等により、きめ細やかな指導を継続して行うことで、成果も表れてきている。年間を通じて、教員の資質向上のために、教育課程研究協議会や特別支援教育に係る研修会、生徒指導研修会、ICT活用研修会等を実施し、協議等の場を設けることで、効果的な取組を広めるとともに、教員一人一人の指導力の向上を図ることができた。一方、ハード面・ソフト面の両方の視点から子供たちを取り巻く教育環境の整備の一層の充実を図るとともに、道徳の教科化や学習指導要領改訂を見据えた研修の実施等も検討する必要がある。そのため、今後、研修内容を精査する必要がある。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名		平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.4	52以上	52以上	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.6	51以上	51以上	

学識経験者の意見	<p>◆日本の教員の勤務時間は世界で最も長いと指摘されている。さらに、新学習指導要領では、小中学校で「道徳」が教科化され、小学校高学年では英語も教科になる。ICT活用やアクティブラーニングの推進なども盛り込まれている。今後、研修の増加が予想されるが、研修会の時間増による多忙化は、児童生徒と関わる時間の減少につながる。研修は時間よりも質を重視して精査し、また十分な加配などにより、持続可能なかたちで教職員の資質・能力の向上を図る手当を要望したい。</p> <p>◆若手教師の増加により学校に活気が出てくる一方、その経験不足を補い、地域や学校ごとの課題の解決を図るには、教員の研修において方法はない。是非とも研修の充実を今後ともお願いしたい。教育力はテストのみで図ることは難しいが、指標としては大変有効なものと思われる。</p>
----------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
2	指導方法改善事業	A	29	学校評議員制度運営事業	A
3	魅力ある学校づくり事業	A	30	元気な学校をつくる地域連携推進事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明	
指導の重点努力点 配布数	974 冊	974 冊	1,000 冊	小・中学校教職員への配布数	
研修会実施数	44 回	46 回	53 回	指導課主催の研修会総数	
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	51.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	50.6	
新体力テスト	小学校	—	—	79.6 %	総合評価上位3ランク(A+B+Cの割合)
	中学校	—	—	86.3 %	
学校評議員開催回数	3.30 回	3.24 回	3.30 回	1校あたりの学校評議員会議の開催回数	
学校評価に対する意見聴取回数	2.30 回	1.85 回	1.52 回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数	
学校応援団員数	6,918 人	7,376 人	4,341 人	各学校の学校応援団登録者数合計	
学校応援団活動日数	9,751 日	9,938 日	14,501 日	各学校の学校応援団活動日数合計	

教育委員会の施策評価	<p>学校・家庭・地域が一体となった教育活動が展開されるとともに、少人数指導、ICTの活用などの指導方法の工夫改善についての研究を各学校が取り組むことにより、質の高い教育活動を推進することができ、上尾市学力調査の市の平均値は、全国平均を上回った。</p> <p>児童生徒一人一人の学力向上のために、学力調査の結果等から児童生徒の実態を把握し、各学校の課題に応じた学校課題研究を行っている。研究発表をすることで、研究の成果を市内全校に広め、市全体の教育力向上を図ることができた。</p> <p>各学校において、行事や授業参観に学校評議員を招き、積極的に学校を公開することで、学校評議員の校長の学校経営について理解を深めることができた。学校評議員会の開催回数が増加し、各学校で学校評議員制度の活用が図られたことにより、開かれた学校づくりの推進につながった。</p> <p>すべての小・中学校で学校応援団が整備されており、学校応援団活動日数が増加傾向にある。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、家庭や地域の教育力の向上につながっている。</p>
------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明	
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.4	52以上	52以上	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.6	51以上	51以上	
学校評議員会議開催回数	3.30 回	3回以上	3回以上	1校あたりの学校評議員会議の開催回数	
学校応援団活動日数	14,501 日	15,000 日	15,000 日	各学校の学校応援団活動日数合計	

学識経験者の意見	<p>◆上尾市の学力調査平均値が全国平均を上回ったことは、各学校の質の高い教育活動の成果である。序列化や過度な競争が生じないように十分配慮することが重要であるとする文科省の実施要領の趣旨を踏まえて、少人数指導などの更なる推進を望みたい。学校応援団の活動日数が増加傾向にある点や、学校評議員制度の積極的活用が図られている点は評価される。こうした取組の推進により、開かれた学校づくりが進み、学校と地域とがより一層連携していくことを期待したい。</p> <p>◆最近、学校・地域の力で、家庭の教育力を引き上げているような場面に出会うことがよくある。学校・家庭・地域の力を結集することによる相乗効果を大いに期待できる。</p>
----------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
6	教科用図書等整備事業	A	31	小中学校教育教材整備事業	A
18	小中学校図書整備事業	A	32	中学校校舎改築事業	S

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
図書標準目標達成率 小学校	89.3 %	93.4 %	96.4 %	
図書標準目標達成率 中学校	77.4 %	81.4 %	87.0 %	

教育委員会の施策評価	<p>学校施設は、児童生徒が1日の大半を過ごす活動の場であり、災害時には地域住民の避難場所となるため、学校施設の安全性の確保を最優先課題とし、積極的に耐震化を図ってきた。平成28年3月末に上尾中学校改築事業が完了したことで、市内全小・中学校の耐震化及びトイレのリニューアル化が完了した。</p> <p>耐震化率100%となり、子供たちの教育環境の安全を確保することができた。また、トイレのリニューアル化が完了したことにより、衛生面が大幅に改善され、快適な空間づくりをすることができた。</p> <p>文科省の学校図書館関係地方財政措置を利用することにより図書購入予算を例年並みに確保し、着実に蔵書数を増やすことができています。</p> <p>今後も、図書購入のほか、図書室のレイアウト変更、書架の追加設置、図書室スペースの確保などに配慮し、積極的に図書整備を推進し、達成率100%を目指していく。</p>
------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
図書標準目標達成率(小学校)	96.4 %	100.0 %	100.0 %	
図書標準目標達成率(中学校)	87.0 %	90.0 %	95.0 %	

学識経験者の意見	<p>◆学校は災害発生時など非常時における地域住民の安全確保の拠点となる。市内全小中学校の耐震化が完了したことは、日本列島全体が地震の活動期に入ったともいわれる状況において、大きな安心感につながる。今後は、想定を上回る人数の住民が避難してきても対応できる量の生命維持のための物資、簡易トイレ、情報通信設備や可搬式発電機などの備蓄と備蓄スペースの確保が望まれる。</p> <p>◆今後どのような災害が起こるか予測は難しいが、他市に先駆け、耐震化率100%を達成したことは大きな成果である。トイレのリニューアルに伴い、子供たちにも是非大事に扱って欲しいものである。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
2	指導方法改善事業	A	33	小中学校コンピュータ整備事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
教育用パソコン設置台数	1,456 台	1,454 台	1,453 台	
教育用パソコンの目標達成値 (児童生徒3.6人に1台)	12.8人に1台	12.6人に1台	12.5人に1台	児童生徒数÷教育用パソコン台数

教育委員会の施策評価	<p>教育用パソコンに関しては、小学校ではタブレットを導入したことにより、コンピュータ教室から普通教室に持ち込むことが可能となり、大型テレビと有線接続しデジタル化された授業が活発に展開されるようになった。また、タブレット導入により必要性が高まった大型テレビを全小中学校の普通教室に設置し、デジタル教科書、タブレット、大型テレビが使用可能となった。</p> <p>今後は、普通教室への無線LAN構築の実現を図りたいと考えているが、高額な構築費用が課題となっている。</p> <p>指導法改善においては、デジタル教科書のさらなる活用やタブレット端末の積極的な活用を推進するためのICT活用研修会、道徳教育研修会、生徒指導研修会、教育課程研究協議会等の研修会を実施し、教員一人一人の指導力の幅を広げることができた。</p>
------------	--

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
教育用パソコンの目標達成値	12.5人に1台	12.3人に1台	12.1人に1台	児童生徒数÷教育用パソコン台数

学識経験者の意見	<p>◆本年7月に文科省は、「教育の情報化加速化プラン」を策定した。これは、IoTやビッグデータ、AI、クラウドコンピューティングなどの普及が始まる中、いわゆる「第4次産業革命」に向けた人材を育成するため、ICTを活用した新たな「学び」やそれを実現していくための「学びの場」の形成を目指すものである。情報通信技術の進歩は日進月歩であるため、学校のICT化推進にあたっては、教員を支援する「ICT支援員」などによるサポート体制が不可欠である。また、変化が加速する中であって、変化に振り回されずに、いかに「生きる力」を育てていくかという視点も重要である。</p> <p>◆教師のITC活用技術の向上、指導力の向上と機器の構築が同時進行で進んでおり、これからの教育に大きな成果をもたらすと思われる。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
34	児童生徒安全推進事業	A	36	通学路安全対策事業	A
35	学校安全パトロールカー事業	A			

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
防犯ブザー貸与数	2,210 個	2,080 個	2,120 個	
スポーツ振興センター災害共済加入負担金	17,448 千円	17,310 千円	16,975 千円	
全市立学校に対する応急手当普及員在籍率	100 %	100 %	100 %	心肺蘇生法研修等を指導する応急手当普及員の資格を持つ教職員が在籍する学校
学校安全パトロールカー月当たりパトロール回数	15.3 回	16.1 回	16.6 回	
登下校時の交通事故件数	4 件	13 件	9 件	児童生徒の交通事故件数
通学路危険箇所改善要望箇所数	164 箇所	161 箇所	180 箇所	
学校管理下での児童の交通事故件数	1 件	5 件	5 件	児童の交通事故件数
通学路安全対策実施箇所数	14 箇所	8 箇所	1 箇所	

教育委員会の施策評価	<p>児童生徒の安全確保のため、スクールガードリーダーをはじめ、PTA、学校応援団、各地域の防犯ボランティアなど多くの方々の協力を得て、登下校時の立哨活動や学校安全パトロールカーの運行など、児童生徒を見守る活動を推進することができた。また、警察など関係機関との連携を図り不審者等の情報を共有化に努めてきた。さらに、防犯ブザーの貸与や学校での安全に関する指導等により、安心安全な学校生活が送れている。</p> <p>緊急時の対応としては、各学校において心肺蘇生法研修を実施するとともに、各学校の教職員自らが有事への対応ができるよう、消防署の協力のもと、専門的知識や技術を習得する応急手当普及員講習を開催している。</p> <p>通学路安全対策事業は、市PTA連合会からの「通学路危険箇所改善要望」をもとに改善箇所を抽出し、危険箇所の改善を進めている。平成27年度は改善実施箇所は1箇所であるが、道路の拡幅等規模の大きい工事を実施しており、安全な通学路への改善につながっている。</p>
------------	---

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
登下校時の交通事故件数	9 件	0 件	0 件	
学校管理下での児童の事故件数	5 件	0 件	0 件	

学識経験者の意見	<p>◆登下校時の安全は、保護者にとって最も重要な関心事の一つであろう。児童生徒を見守る活動にボランティアで参加されている方々には頭が下がる思いがする。学校、保護者、地域の連携による、児童生徒の安全確保活動の継続・推進をお願いしたい。</p> <p>◆外国の学校の多くは、治安が良くないので親の送迎が当たり前である。こうしたエネルギーを親は自分たちのために使うことができ、さらに多方面からの支援の恩恵が受けられ幸せである。</p> <p>◆登下校時の立哨活動や学校安全パトロールは、地域の協力のもと定着しており、事故や犯罪の抑止力となっていると思う。「通学路危険箇所改善要望箇所数」に対して、「改善実施箇所数」が少ないことが懸念される。危険箇所のきめ細かな確認並びに早急な対応が望まれる。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
5	日本語指導職員派遣事業	A	38	小中学校就学援助費補助事業	A
13	小中学校特別支援教育就学奨励事業	A	39	要保護児童生徒医療費援助事業	B
37	入学準備金・奨学金貸付事業	A	40	準要保護児童生徒給食費援助事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
日本語指導員配置率	100 %	100 %	100 %	支援児童生徒数/申請児童生徒数

教育委員会の施策評価	<p>社会環境の変化に影響されないように、経済的に困窮する世帯や日本語が十分理解できない外国人児童生徒等が、安心して学校教育を受けるための就学支援は、就学及び進学に対する経済的、人的な援助として効果的な取組と判断できる。</p> <p>就学する児童生徒、進学を希望する子供がいるすべての家庭が安心し、必要な教育を受ける機会を損なわないためにも、就学支援に関わる事業は、継続する必要がある。</p> <p>なお、経済的支援の施策については、数値としての評価や目標設定に適切な値を見出すことが困難なため、設定しないこととする。</p>
------------	---

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
日本語指導員配置率	100 %	100 %	100 %	支援児童生徒数/申請児童生徒数

学識経験者の意見	<p>◆経済格差が拡大し、子供の6人に1人が貧困状態という深刻な事態を招いている。平成26年に「子どもの貧困対策法」が施行され、地方自治体も貧困対策の施策を策定・実施する義務を負うことになった。しかし、日本政府の教育への支出は、GDP 比で OECD 加盟国の中で最低水準であり、各自治体の負担は厳しい。ここで参考にしたいのは、経済危機にあったフィンランドが、教育を「未来への投資」と捉えて思い切った教育投資を行い、学力の底上げを徹底した結果、学力も経済も劇的に上昇させた事例である。上尾市にも、ソーシャルインパクトなども活用した大規模な教育投資を期待したい。</p> <p>◆保護者世代が、非正規労働など経済的にも不安定な家庭も多く、貧困が子供にも及んでいるということも社会現象になっている。手厚い支援に感謝している。</p>
----------	--

## 基本目標Ⅳ

### 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上



施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

施策2 家庭教育の充実



上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
30	元気な学校をつくる地域連携推進事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校応援団員数	6,918 人	7,376 人	4,341 人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動日数	9,751 日	9,938 日	14,501 日	各学校の学校応援団活動日数合計

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>地域と学校の連携の下、幅広い地域住民等が参画し、地域全体で学び合い、未来を担う子供たちの成長を支え合う地域づくりが求められており、各学校における学校応援団の役割は大きい。市内全小・中学校に配置されている学校応援団コーディネーターを中心に、学習活動、安全確保、環境整備、体験活動、部活動、生徒指導、環境教育、学校ファーム等に係る活動を行った。安心安全、環境整備などの一般的な活動はもちろん、各校・各地域の実情に合わせた特色ある活動も行われている。市内全小・中学校での学校応援団の組織率は100%で、各学校には学校応援団コーディネーターが配置されており、地域の実情に合った活動を行っている。学校応援団による安全確保、学習支援、環境整備、体験活動などの活動が行われており、各学校において一層の教育活動の充実が図られた。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、家庭や地域の教育力の向上につながっている。</p>
-------------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
学校応援団活動日数	14,501 日	15,000 日	15,000 日	各学校の学校応援団活動日数合計

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆上尾市内の全小中学校において、学校応援団コーディネーターを中心に学校応援団が機能を発揮していることの意義は大きい。まず、とすれば閉鎖的と批判されがちな学校が地域に向かって開かれることになる。また、家庭や地域が学校の負担している教育機能の一部を担うことによって、肥大化した役割を負わされて疲弊した学校が本来の教育機能を取り戻すことができる。今後とも継続・発展していくことを期待したい。</p> <p>◆学校応援団等の活動を通して、地域の方々と学校がより良い関係を作り、地域に理解され、愛される学校になりつつあると思う。</p> <p>◆「学校応援団」の活動は、学校支援のみならず、地域教育力の向上に大きな役割を果たしている。平成27年度は活動の幅も増していることが伺える。一方団員数は減少していることから、団員個人への負担増が懸念される。活動発表の機会を設けて活動をアピールするなど、継続的な団員確保に努めていただきたい。</p>
-----------------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
41	家庭教育推進事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,333 人	1,263 人	1,275 人	幼稚園保護者会で開催した家庭教育に関する講座及び市とPTA連合会の共催で行った家庭教育講演会の参加者数の合計

教育委員会の施策評価	<p>すべての教育の出発点である家庭教育の向上を図るため、市PTA連合会が定めている家庭教育行動指針の啓発や市内の幼稚園保護者会が実施する家庭教育に関する講座の支援、市PTA連合会と共催での家庭教育講演会などを実施し、PTA・幼稚園保護者会などと連携をとりながら、子育て中の親に対して家庭教育に関する学習機会の提供を行うことができた。</p> <p>また、埼玉県が作成した「親の学習プログラム」や「家庭教育アドバイザー」等埼玉県が実施する事業についても、各学校やPTA等が活用できるよう、情報提供に努めた。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,275 人	1,300 人	1,300 人	幼稚園保護者会で開催した家庭教育に関する講座及び市とPTA連合会の共催で行った家庭教育講演会の参加者数の合計

学識経験者の意見	<p>◆核家族化、少子化などを背景に、家庭の教育力が低下して、それが学校における問題行動の一因となっていると指摘されている。最近では、経済的に厳しい家庭が増え、共働きや長時間労働などで、保護者と児童生徒とのコミュニケーションが不十分であったり、保護者が、学校や地域とのつながりを持つ余裕がなく孤立している場合も多い。教育機関だけでなく、福祉関係機関とも連携しながら、そうした家庭をサポートしていく体制の整備が求められる。</p> <p>◆子育て世代の多くが、不安を抱えながら日々を過ごしている。同年代や少し先輩後輩の幅のある世代、地域間といった縦横の広がりを持つ講座があってもよい。最近「イクメン」が増えている。お父さんの抱っこ紐姿をよく見かけるし、父親の育児休暇の取得も珍しくはなくなっている。そろそろ父親が参加しやすい家庭教育のプログラムも必要になってくるのではないだろうか。</p> <p>◆市PTA連合会等との共催事業など一定の成果を上げていると思う。一方、各家庭で抱える不安や状況が違うので、学校単位、公民館単位で、「親の学習プログラム」を活用したり「家庭教育アドバイザー」を派遣するなど、小規模な講座が効果的ではないかと感じている。きめ細やかな学習機会の提供が望まれる。</p>
----------	---

## 基本目標 V 生涯にわたる豊かな学びのサポート

---

- 施策1 生涯学習体制の充実
- 施策2 生涯学習施設の整備
- 施策3 生涯学習機会の提供
- 施策4 人権教育の推進
- 施策5 図書館運営の充実

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策1 生涯学習体制の充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
42	生涯学習指導者活動推進事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	109人	110人	143人	

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>平成28年度からの5年間を計画期間とし、上尾市の生涯学習推進の方向性を示す「第4次生涯学習振興基本計画」を策定した。</p> <p>市民の生涯学習活動を推進するため、「生涯学習サークル・グループ情報」を年間3回発行し、学習団体の情報を提供した。「まなびすと指導者情報誌」や「あげお市政出前講座」の学習指導者情報を冊子や上尾市Webサイトで提供した。これらによって、学習グループの支援と指導者の活動推進を図っている。</p> <p>また、市民の学習活動のきっかけの場と学んだ成果を活かす場としてまなびすと推進会議が実施する「まなびすと市民講座」への支援と社会教育団体である市PTA連合会、ボーイスカウト上尾市連絡協議会、ガールスカウト上尾地区協議会の活動に対して支援を行った。</p>
-------------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	143人	140人	140人	人材確保に努める

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆科学技術が高度化・複雑化し、情報社会化・グローバル化が進んだポスト産業社会である現代社会では、産業構造や雇用形態の変化も激しい。したがって、不断に新たな知識や技術を習得することが生きていくうえで不可欠になってきている。生涯学習の体制を整備・推進することは、国や自治体が果たすべき大きな役割となっていることを十分に認識し、その充実に努めることを求めたい。</p> <p>◆とにかくどこに行ってもシニア世代が元気で活躍している。一層の人材活用を進めたい。</p> <p>◆「第4次上尾市生涯学習振興基本計画」に基づく、今後5年間の成果に期待したい。「まなびすと指導者バンク」の活動は、平成27年度は文化団体との連携を図ることで登録者が増加している。さらに活動状況をPRして、学習したい方と学習の成果を生かしたい方とのマッチングを進めたい。</p>
-----------------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
43	学校施設開放(生涯学習)事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
利用団体登録	88 団体	78 団体	82 団体	利用に必要な団体登録をしている団体数
利用件数	759 件	896 件	903 件	

教育委員会の施策評価	<p>市民の継続した生涯学習活動を支援するため、活動の拠点として市内6館の公民館および平方東小学校、芝川小学校、富士見小学校の特別教室の一部を市内の生涯学習団体に開放した。</p> <p>公民館、小学校の特別教室の利用は年々増加傾向にあり、市民の自発的な学習活動を推進する活動拠点としての役割を十分に果たしている。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
利用団体登録数	82 団体	85 団体	85 団体	
利用件数	903 件	910 件	910 件	

学識経験者の意見	<p>◆学校は、児童生徒が生涯学習の基礎を築く場であるとともに、生涯学習の拠点としても、公民館や図書館などの施設とともに重要になりつつある。非正規雇用労働者の割合が約4割となり、非正規雇用のままで不安を抱えながら老後も働き続ける人々が増えている。生涯学習も、教養的・趣味的学びというニーズとともに、変化の激しい社会で仕事を維持するための学びというより切実なニーズが高まっていくと予想される。そうした基本認識のもとに、学校施設の開放も、積極的に推進される必要がある。</p> <p>◆シニア世代の活動拠点の多くが、まさに公民館や学校施設の開放事業により成り立っている。抽選等活動場所を確保するのが大変であると聞く。学校にとって問題は何かないのだろうか。利用者側も大掃除や除草の手伝い等多少の感謝の気持ちを伝えたら、何か問題が起こってもスムーズに解決できるかもしれない。</p> <p>◆老朽化に伴う施設整備を計画的に進めるとともに、利用者が安全に安心して利用できる学習環境の整備も重要である。高齢化が進むと、活動場所が身近なところにあることも重要な要素である。現在3校で実施している「学校施設の開放」をさらに拡大するなど、既存施設の利用を検討していただきたい。</p>
----------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
42	生涯学習指導者活動推進事業	A
44	成人式事業	A
45	日本の伝統と文化の学習推進事業	A

事業番号	事業名	評価判定
46	大学等との連携による生涯学習推進事業	A
47	公民館講座事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
公民館講座参加者数	11,427 人	9,805 人	9,352 人	公民館祭りを除く

教育委員会の施策評価	<p>基幹的事業として位置付けている公民館講座事業のほか、地域内外の大学や企業等と連携した「子ども大学あげお・いな・おけがわ」「あげお子ども大学」や、日本の文化・心をテーマに日本の伝統と文化を学ぶ講座を実施するなど、幅広い分野での学習機会の提供ができた。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
公民館講座参加者数(延べ人数)	9,352 人	9,500 人	9,500 人	公民館祭りを除く

学識経験者の意見	<p>◆少子高齢化が進み、年金の支給開始年齢も段階的に引き上げられ、将来は支給額の引き下げや70歳から支給という試算も出されている。今後の社会においては、働く高齢者の割合も増加し続ける。変化が激しい複雑な社会構造の中で、高齢者が働き続けるためには、学び続けることが前提として必要であり、様々な学びのニーズに対応した生涯学習機会の提供を推進し続けることが、自治体の責務の一つとなってきている。</p> <p>◆学びたい人は多く、人気の講座は何回も開催したりしている。時間的・数的に当然であるが、そのほとんどがシニア世代である。新規事業を立ち上げるのは制約もあるので、いくつかの事業をコラボレーションして、対象を広げたり、時間を変えたりしてみたらどうか。</p> <p>◆「いつでも どこでも だれでも」学ぶことができる生涯学習社会の実現のため、さまざまな取り組みがなされていると思う。生涯学習の契機づくりになるよう、「こども大学」や「おとなのNIPPON講座」に見られるような各世代のニーズに応える講座や、情報化社会に対応するようなICT講座など、魅力的な講座の提供をさらに期待したい。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
48	人権教育推進事業(生涯学習課所管分)	A	49	人権教育集会所運営事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
人権標語作品応募点数	19,203 人	17,741 人	17,691 人	
人権教育集会所主催事業参加者数	711 人	557 人	747 人	

教育委員会の施策評価	<p>現在も、様々な形での人権問題が生じている中で、差別のない社会の実現と充実した人権教育を行うため、人権教育推進協議会及び人権教育集会所運営委員会で協議された内容をもとに、積極的な人権教育の推進を図っている。</p> <p>身近な人権問題を考える契機としての、市民向け人権問題研修会や職員を対象とした人権問題研修会のほか、全小・中学生を対象とした人権標語コンクールを実施するなど、人権意識の高揚を図る事業を実施することができた。</p> <p>人権教育の拠点施設である人権教育集会所では、市民の人権意識の高揚や市民の交流、文化的教養の向上を目的とした39の主催事業を実施し、幅広い内容の事業を安定的に実施することができた。また、集会所利用者全員を対象として、「同和問題」をテーマに人権問題指導者研修会を実施し、人権課題への理解を深めることができた。</p>
------------	---

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
人権標語作品応募点数	17,691 人	18,000 人	18,000 人	
人権教育集会所主催事業参加者数	747 人	800 人	800 人	

学識経験者の意見	<p>◆人権教育は、粘り強く継続することが重要である。また、形式化、マンネリ化に陥らないよう留意することも必要である。様々な人権問題が生じていることを真剣に受け止めて、学校・家庭・地域が連携・協力して推進していくことを求めたい。</p> <p>◆人権標語を街で見かけるとうれしい気持ちになる。しっかりと定着してきた。</p> <p>◆現代社会の中で、様々な場面で差別が起こりうることに気づかされる。学校・家庭・地域・職場など、様々な状況で啓発事業を行うことは、一人一人が人権を意識するための効果的な取り組みになると思う。継続的に実施する必要がある。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
50	図書館資料整備事業	A	53	(仮)中央図書館整備事業	A
51	子どもの読書活動支援センター運営事業	A	54	セカンドブックスタート事業	A
52	ブックスタート事業	A			

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
蔵書数(全9館)	564,626 点	569,759 点	564,583 点	雑誌・視聴覚資料除く
図書館利用者数(全9館)	417,909 人	423,459 人	427,669 人	

<b>教育委員会の 施策評価</b>	<p>蔵書数・蔵書構成を質・量ともに向上することが求められている中、一定の蔵書数は確保できている。しかしながら、さらなる充実を図るためには、本館・分館の蔵書収蔵能力が限界に達している現状を考慮すると、早急に対策を講じる必要がある。</p> <p>子どもの読書活動支援センター運営事業では、図書館と学校、読み聞かせボランティアと学校がそれぞれ連携し、「読書パスポート」や「あっぴい ぶつくる本」、「おはなし会」など、読書推進のための様々な事業を展開し、小学生の貸出冊数を大幅に増やすことができた。</p> <p>(仮)中央図書館整備事業(新図書館複合施設整備事業)は、公共施設最適化事業債の活用や公共施設マネジメント計画に基づく青少年センター等との複合化について、議会に審議を求めるとともに、新図書館に係る建設予定地を盛り込んだ「第2次図書館サービス計画」のパブリックコメントを実施するなど、利用者から意見をいただきながら基本設計を完成させた。</p>
------------------------	---


◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
蔵書数(全9館)	564,583 点	565,000 点	565,000 点	雑誌・視聴覚資料除く
図書館利用者数(全9館)	427,669 人	430,000 人	433,000 人	

<b>学識経験者の 意見</b>	<p>◆上尾市中央図書館(仮称)構想についてのパブリックコメントに寄せられた意見を読むと、多くの市民が上尾駅から近くアクセスのよい施設を望んでいると推測される。上尾市も今後人口減少が本格化し、2010年からの30年間で13.2%減との予測が出されている。これはさいたま市の4.4%減の3倍である。自治体間で住民を奪い合う競争が激しくなると予想される。主要駅の近くに充実した図書館機能があることは、魅力ある自治体のポイントの一つであるという点を踏まえた図書館サービスの全体構想が求められる。</p> <p>◆土地の効率的利用や利用者の利便性、駐車場の確保等公共施設の複合化は、今や当たり前前の時代となっている。図書館本館の土日には、子供や保護者が、ウイークデーにはシニア世代で椅子はいつも満席状態である。新しい図書館に期待している。</p> <p>◆図書館と学校との連携で、子供のための楽しい読書環境づくりが進んでいるように感じる。読み聞かせなどのボランティア団体の力も大きい。新図書館も含めて、上尾市図書館全体が「知の拠点として」その機能を十分果たすことができるよう、施設の整備・機能の充実に努めていただきたい。</p>
----------------------	--



## 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護



施策1 文化芸術活動の推進

施策2 文化財の保護

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

◎主要事業の評価結果 (詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照)

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
55	文化芸術振興事業	A	57	市民音楽祭事業	A
56	美術展覧会事業	A	58	音楽家芸術活動支援事業	A

◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
美術展覧会事業作品出品数	561 点	499 点	462 点	美術展覧会への作品出品数
市民音楽祭参加団体数	50 団体	51 団体	53 団体	市民音楽祭の参加団体数

教育委員会の施策評価	<p>市内で活動する各種の文化芸術団体が加盟する文化団体連合会は、会の運営は主にそれぞれの分野における代表団体が行い、自立性の高い取組がなされている。</p> <p>美術の分野においては、上尾市ギャラリー等において、団体や個人の美術展が数多く開催されており、活動は堅調であるといえる。上尾市美術展覧会については、広く市民から作品を募集する公募展であり、優秀作品を顕彰するシステムは、市民の美術創作活動の活性化に大きく寄与している。</p> <p>音楽の分野においては、参加する音楽グループにより実行委員会を組織する市民音楽祭は、3部門とも堅調な事業実施状況である。参加団体同士の交流が活発に行われ、児童・学生と社会人の団体交流がそれぞれの活動の活性化につながっている。また、上尾市在住(又は上尾にゆかりのある)音楽家の、市内での芸術活動支援とともに、市民に気軽に楽しめる芸術鑑賞の機会を提供する目的で「あげおクラシックコンサート」を実施した。併せて実施した児童を対象にクラシック音楽に触れる機会を提供する小学校でのアウトリーチコンサートは、前年より多い5校で行い、心豊かな児童の育成に寄与した。</p>
------------	---

◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
美術展覧会事業作品出品数	462 点	500 点	500 点	美術展覧会への作品出品数
市民音楽祭参加団体数	53 団体	40 団体	50 団体	市民音楽祭の参加団体数

学識経験者の意見	<p>◆市内での多様な芸術活動支援の取組は評価できる。各自治体の人口減少が本格化する中、文化芸術面で上尾市の魅力をアピールすることも重要である。駅前の商業施設のいくつかのフロアを借用して図書館や文化芸術発表の場も含めた複合公共施設を設置し、美術や音楽など様々な文化芸術活動の発表の場を提供するといった、多くの市民のアクセスしやすさを重視した発想も検討に値するのではないかと思われる。</p> <p>◆多くの文化芸術団体による事業が、盛大に実施され市民の楽しみになっている。高齢化に伴い、参加者の減少化も心配されているようであるが、市内の高等学校の生徒の参加を呼び掛ける等次世代の社会参加を促すことも必要であろう。</p> <p>◆市美術展や市民音楽祭など、市民が学習成果を発表の場として定着している。文化団体の活動と協力によるところが大きいと思う。新規団体も参加しやすい環境づくりと、活動成果が広く市民に還元されるよう支援されることが望ましい。</p>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
59	文化財調査・保存事業	A	61	文化財保護啓発事業	A
60	埋蔵文化財調査事業	A	62	歴史資料調査事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	120 件	122 件	122 件	
文化財保護啓発事業参加延べ人数	2,372 人	1,360 人	3,795 人	
文書目録の刊行数	1 冊	1 冊	0 冊	

教育委員会の施策評価	<p>文化財は、文化財保護法に基づき、その保存・継承や活用を図る必要がある。このため文化財の調査・保存事業、埋蔵文化財調査事業、文化財保護啓発事業、歴史資料調査事業を行っている。</p> <p>調査保存事業については、今年度は、新たに「瓦葺掛樋跡」を登録有形文化財として登録し、1件増加したが、登録無形民俗文化財の「地頭方の祭りばやし」が解散し、1件の減少となっている。また、「上尾の摘田・畑作用具」が国登録有形民俗文化財に登録された。埋蔵文化財調査事業については、周知の埋蔵文化財包蔵地内での試掘調査を適宜実施し、2件の発掘調査を実施した。普及啓発事業として、あげお歴史セミナー3回、文化財展2回を実施した。</p> <p>歴史資料調査事業については、保存活用のために必要な目録の発行やそのための整理が計画的に進んでいる。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	122 件	123 件	124 件	
文化財保護啓発事業参加延べ人数	3,795 人	3,800 人	3,800 人	

学識経験者の意見	<p>◆文化財保護の取組は、受け継いできた文化財を次世代へと引き継ぎ、有効に活用することによって、次世代へと地域文化を継承する役割を担っている。多くの市民に文化財に親しんでもらうための展示機会や展示方法のより一層の工夫が求められる。</p> <p>◆日本各地の世界遺産登録等文化財に対する関心は、かなり高くなっている。これを機に文化財の価値を再確認し、後世に伝えていく機運を一層高めていきたい。</p> <p>◆一人でも多くの市民が文化財に触れ、地域文化を知ることが「地域への愛着」を深めることに繋がることから、文化財の保護意識の啓発は大変重要である。平成27年度は他団体との連携で展示会を行い、参加者数が伸びている。こうした機会をさらに増やして、文化財保護意識の啓発に努めていただきたい。</p>
----------	---

## 基本目標Ⅶ

### 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

---

---

施策1 スポーツ推進計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

施策4 スポーツ指導者の育成

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活気に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策1 スポーツ推進計画の策定

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
スポーツ推進計画策定進捗状況	推進計画の完成	推進計画進捗管理	推進計画進捗管理	

教育委員会の施策評価	<p>平成23年8月にスポーツ振興法が、スポーツ基本法に改正されたことを受け、上尾市では平成25年度にスポーツ推進計画を策定した。</p> <p>今年度は、市民体育館の柔道畳の入替や大石小学校の社会体育用トイレの改修を行った。推進計画に掲げた取組については、スポーツ推進審議会で報告し、進捗管理を行った。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
スポーツ推進計画策定進捗状況	進捗管理	進捗管理	進捗管理	

学識経験者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆上尾市は、昭和51年の上尾市スポーツ都市宣言以降、様々なスポーツ振興の施策に取り組んできた実績がある。平成25年度のスポーツ推進計画策定を受けて、更なる振興の取組に期待したい。</li> <li>◆最近、医学的にも生涯健康で生活するために、運動の大切さが強調されるようになってきた。若い時からスポーツに親しみ、続けられる環境を整えることは大切なことである。</li> <li>◆「スポーツ推進計画」に基づき、進捗状況を踏まえ、更にスポーツ振興が図られることを期待したい。</li> </ul>
----------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
63	学校施設開放(スポーツ振興)事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校開放登録団体数	551 団体	553 団体	555 団体	学校開放利用団体名簿
学校開放施設利用者数	363,162 人	371,174 人	390,870 人	学校開放月例利用報告書

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>屋内スポーツ施設の拠点である市民体育館は、平成25年4月1日からリニューアルオープンしたが、体育館の大型スポーツ備品には耐用年数を超えて使用しているものもあり、計画的な更新・整備が必要である。今年度は、柔道畳の入替を行った。</p> <p>市民の身近な地域のスポーツ拠点として、市内各小中学校の校庭及び体育館を開放し、多くの市民が利用している。</p> <p>学校開放運営委員会が市内各小中学校で組織され、開放施設の管理運営を行っている。毎年5月に開催している学校施設開放運営委員会委員長会議や随時、委員長・学校側と学校利用について連絡を取ることで、学校開放に関する苦情や利用者からの要望などに対応し、適切に学校施設開放を行うことができた。</p> <p>また、学校開放施設の管理についても、利用者の意見を伺いながら随時、修繕を行うことができた。</p>
-------------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
学校開放登録団体数	555 団体	560 団体	560 団体	学校開放利用団体名簿
学校開放施設利用者数	390,870 人	395,000 人	395,000 人	学校開放月例利用報告書

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆校庭や体育館などの学校施設の利用は、今後ますます増えていくと予想されるので、より一層の施設・設備の適切な整備に努めていただきたい。</p> <p>◆スポーツ施設を管理する側と利用する側、それぞれの立場の主張はあると思う。しかし他市の状況と比べて上尾市の利用者は、地域にもよるが、清掃の手伝いや除草作業等とても協力的である。こうした良好な関係を是非構築し続けてほしい。</p> <p>◆「学校施設の開放」は、スポーツ団体にとって不可欠なものとなっている。利用者が安全に安心して活動できるよう、計画的・継続的に点検・整備を進める必要がある。</p>
-----------------	--

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
64	スポーツ大会・教室等開催事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
大会の開催日数	3日	4日	4日	
上尾シティマラソン参加者数	9,672人	9,179人	9,293人	
体育協会加盟スポーツ団体人数	18,170人	17,712人	17,262人	576団体

教育委員会の施策評価	<p>スポーツ大会として、いきいきライフ大運動会、市民体育祭、シティマラソン、市民駅伝競走大会を企画し、実施した。スポーツ推進委員及び上尾市体育協会の協力を得て実施できたが、役員も高齢化してきている中で、スポーツ振興のため、今後の対応を検討していく必要がある。</p> <p>スポーツ・ステップアップ講座や各研修会は、指導者養成、高齢者の体力の維持及び増進、スポーツ・レクリエーションの充実を図ること等を目的として実施した。</p>
------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
市民体育祭参加者数	約3,000人	10,000人	10,000人	
上尾シティマラソン参加者数	9,293人	10,000人	10,000人	
体育協会加盟スポーツ団体人数	17,262人	19,000人	19,000人	

学識経験者の意見	<p>◆様々な世代がスポーツに親しみ、健康を維持・増進することは、予防医学の観点からも望ましく、また、社会参加の促進、地域社会の活性化の視点からも意義が大きい。更なる推進が望まれる。</p> <p>◆特に高齢者の健康維持のためにハードルの低いスポーツも意識の高まりとともに実施していただけたらと思う。</p> <p>◆「上尾シティマラソン」などの事業が市民の協力のもと、順調に行われている。スポーツ・レクリエーションへの参加は、生活の質の向上や地域コミュニケーションの形成に大きな効果がある。高齢化など社会変化に伴い、参加の契機となるような教室・講座の実施に期待したい。</p>
----------	---

上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定
65	スポーツ活動推進事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	13 日	15 日	15 日	市、県、地区、関東、全国、自主事業
スポーツ推進委員研修参加人数	171 人	149 人	212 人	延べ参加者数

教育委員会の施策評価	<p>スポーツ推進委員は、地域スポーツ推進を担い、各々の資質向上を図るため、市のスポーツ推進連絡協議会の自主研修のほかに、国・関東・県等のスポーツ推進連絡協議会の主催する研修にも参加している。</p> <p>また、市で実施する大会等事業は、競技役員会議等の責任者となっており、大会運営を進めていく上でなくてはならない存在である。</p> <p>高齢者を対象とした公民館事業のいきいきスポーツ教室は、講師として指導し、スポーツの楽しさを伝えながら、参加者の健康の保持や体力増進を図る重要な存在である。</p>
------------	---

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	15 日	15 日	15 日	市、県、地区、関東、全国、自主事業
スポーツ推進委員研修参加人数	212 人	200 人	200 人	延べ参加者数

学識経験者の意見	<p>◆スポーツ指導者の拡充を図り、小中学校の部活動等への外部指導者の活用を積極的に推進することを期待したい。</p> <p>◆数の上で最も多い団塊世代を中心に、その上下の世代を活用し、生き甲斐となれるようにしていきたいものである。</p> <p>◆スポーツ推進委員の方々には、大会開催や地域スポーツ推進に大きな役割を果たしていただいていることから、指導員の確保と、資質向上のための研修会の実施など、今後も継続的支援が望まれる。</p>
----------	--



上尾市教育振興基本計画の体系	
基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

## ◎主要事業の評価結果（詳細については、各事業の事務事業評価シートを参照）

事業番号	事業名	評価判定	事業番号	事業名	評価判定
64	スポーツ大会・教室等開催事業	A	66	子どもの体力向上地域連携事業	A

## ◎施策の評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
大会等参加者数(ランニング教室除く)	3,085 人	3,318 人	3,663 人	延べ参加者数

<b>教育委員会の施策評価</b>	<p>市と上尾市体育協会共催の事業の中で、上尾市民体育祭や上尾シティマラソンでは、上尾市体育協会から多くの競技役員を選出していただき、スムーズな運営が図られた。</p> <p>また、上尾市体育協会では生涯スポーツの普及や振興を図るため、スポーツ講演会やいきいき推進事業、レクリエーション大会を企画し、実施している。</p> <p>上尾市体育協会加盟団体では、役員の成り手が課題となっているが、今後、県立武道館で全国中学生空手道選抜大会や全国高等学校総合体育大会(インターハイ)等が実施予定であることから、市及び上尾市体育協会との協力関係がより大きくなっていく。</p> <p>更に、子供の体力向上連携事業では、例年実施しているドッジボール大会、バレーボール教室、なわとび大会の他に投能力の向上を図るため、「日本女子プロ野球リーグ埼玉アストライア球団」を講師として、げんきチャレンジ(ボール投げ教室)を開催し、子供たちの運動や身体を動かす機会の提供ができた。</p>
-------------------	--

## ◎次年度以降の目標設定

指標名	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	指標の説明
大会等参加者数(ランニング教室除く)	3,663 人	3,700 人	3,700 人	延べ参加者数

<b>学識経験者の意見</b>	<p>◆様々な世代がスポーツに親しみ、健康を維持・増進することは、予防医学の観点からも望ましく、また、社会参加の促進、地域社会の活性化の視点からも意義が大きい。更なる推進が望まれる。</p> <p>◆東京オリンピック控え、人々のスポーツへの関心は高まっている。オリンピックを意識しないまでも楽しんでスポーツをしようという機運を育てたい。</p> <p>◆子供の運動能力の低下が懸念されて久しい。運動する子としない子の二極化が顕著とこのことである。運動しない子が気軽に参加できるような競技内容を工夫するなど、運動の契機づくりが重要になるだろう。</p>
-----------------	---

## V 評価結果（事務事業評価）

## 基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

### 施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

- |       |   |
|-------|---|
| 事業番号1 | さわやかスクールサポート事業(学級支援)【I-4】                 |
| 事業番号2 | 指導方法改善事業【II-1, II-7, III-1, III-2, III-4】 |
| 事業番号3 | 魅力ある学校づくり事業【II-7, III-2】                  |
| 事業番号4 | 学力向上支援事業                                  |

### 施策2 時代の変化に対応した教育の推進

- |       |                         |
|-------|-------------------------|
| 事業番号5 | 日本語指導職員派遣事業【III-6】      |
| 事業番号6 | 教科用図書等整備事業【II-1, III-3】 |
| 事業番号7 | 中学生海外派遣研修事業             |
| 事業番号8 | 小中学校ALT配置事業             |

### 施策3 進路指導・キャリア教育の充実

- |        |                |
|--------|----------------|
| 事業番号9  | 中学生社会体験チャレンジ事業 |
| 事業番号10 | 中学生進路意識啓発事業    |

### 施策4 特別支援教育の推進

- |           |                         |
|-----------|-------------------------|
| 事業番号11    | 特別支援学級補助員派遣事業           |
| 事業番号12    | 特別支援教育推進事業              |
| 事業番号1(再掲) | さわやかスクールサポート事業(学級支援)    |
| 事業番号13    | 小中学校特別支援学級設置事業(施設整備)    |
| 事業番号14    | 小中学校特別支援教育就学奨励事業【III-6】 |

### 施策5 幼児教育の推進

事業番号	1	さわやかスクールサポート事業(学級支援)	担当	学務課
------	---	----------------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施   施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒への生活指導・自立支援及び介助を行うことで、学校・学級の円滑な運営、事故防止を図るとともに、学級集団の少人数化により、きめ細やかな個に応じた指導を充実させ、中1ギャップの解消及び基礎学力の向上を図る。
事業の対象・対象数	(アップスマイルサポーター) 通常学級に特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する小・中学校、全33校と平方幼稚園の1園 (アップスマイル教員) 第1学年の1学級あたりの生徒数が35人を超える中学校
事業の内容	障害のある児童及び生徒が在籍する通常学級に対し、生徒指導の充実と健全な学級運営を図るため、学級担任等の教員の補助を行うアップスマイルサポーターを配置する。また、少人数学級(35人)を編成し、きめ細やかな指導を行い、中1ギャップの解消等を図るため、アップスマイル教員を配置する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	88,044 千円	100,042 千円	83,944 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
アップスマイルサポーター数	74 人	75 人	75 人	通常学級で教員を補助し特別な支援を行う支援員数
アップスマイル教員数	7 人	9 人	4 人	少人数学級(35人学級)実施のため、中学校に配置する市費臨時教員数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	アップスマイルサポーターを配置することにより、通常学級に在籍して学ぶ、特別な支援を必要とする児童生徒の成長に貢献できた。同時に児童生徒の安全面など学級の円滑な運営にも資することができた。このことは、ノーマライゼーションの理念の実現やインクルーシブ教育の推進にもつながっているものと評価できる。 アップスマイル教員の採用・配置については、中学校1年生で少人数学級の編成を行うことで、小学校から中学校への滑らかな接続を図り、中1ギャップの解消にも効果を奏している。具体的には、一人一人の生徒に目を配ることができ、より一層、きめ細やかな評価が可能となり、指導に生かしている。また、一人一人が発表したり、表現したりする機会が充実し、発表力、表現力の向上につながっている。
今年度の改善点等	アップスマイルサポーターの配置は、75名を配置し安定した事業を推進することができた。また、質の高いアップスマイル教員を採用していくために、大学を訪問し募集要項を配布するなど広報活動を実地し、学校の要望に即した教員配置を進めている。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	アップスマイルサポーター数	75 人	75 人	85 人
	アップスマイル教員数	4 人	5 人	6 人

事業番号	2	指導方法改善事業	担当	指導課
------	---	----------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策1 豊かな心の育成	施策7 児童生徒の体力向上
基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進		
施策	施策1 教職員の資質・能力の向上	施策2 学校経営の改善・充実	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	適正な教育課程を編成・実施し、教育活動の充実や教員の指導力の向上及び授業の充実を図るために必要な図書・資料の作成・配布、研修会の開催等を行う。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・教員及び管理職 各種研修会等参加者
事業の内容	学力向上プランの作成、上尾市の教育「指導の重点・努力点」の印刷製本(全教職員への配布)、研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	10,562 千円	1,518 千円	85,269 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
指導の重点努力点 配布数	974 冊	974 冊	1000 冊	小・中学校教職員への配布数
研修会実施数	44 回	46 回	53 回	指導課主催の研修会総数
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	教育基本法、学校教育法等の法令、学習指導要領に基づいて適正な教育課程を編成し、実施することが学校教育の基本である。そのために、教員一人一人の資質、指導力を向上させることが求められている。児童生徒の学力向上を目指し、指導方法の工夫改善を図るため、上尾市の指導の重点・努力点を全教職員に配布し、指導事項を周知し、上尾市学力調査を基に各校で作成した学力向上プランの積極的活用を推進することで、課題意識を明確にし、組織的な教育の実践につなげた。さらに、個に応じた指導の充実を図るため、教科指導充実加配による少人数指導、チームティーチング等により、きめ細やかな指導を継続して行ない、成果も表れてきている。年間を通じて、教員の資質向上のために、教育課程研究協議会や特別支援教育に係る研修会、生徒指導研修会、ICT活用研修会等を実施し、効果的な取組を広めるとともに、教員一人一人の指導力の向上を図ることができた。一方、ハード面・ソフト面の両方の視点から子供たちを取り巻く教育環境の整備の一層の充実を図るとともに、道徳の教科化や学習指導要領改訂を見据えた研修の実施等も検討する必要がある。そのため、今後、研修内容を精査する必要がある。
今年度の特色・改善点等	教師一人一人の、授業の質の向上、指導方法の工夫改善を図ることができる実践的な研修会を実施し、教員自身が積極的に学ぶ場を設けることができた。小中連携を意識した協議や情報交換の場を設けることで、9年間を見通した指導の充実が図られた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	
A	上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.4	52以上	52以上
		中学校	50.6	51以上	51以上

事業番号	3	魅力ある学校づくり事業	担当	指導課
------	---	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全での質の高い学校教育の推進
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施	施策7 児童生徒の体力向上	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	各学校が教育課題を定め研究を通し、教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校を築く。
事業の対象・対象数	上尾市立幼稚園・小・中学校
事業の内容	市立幼稚園及び小・中学校において教育課題の研究を推進する。各学校に対して、3年サイクルで【①研究準備→②研究1年目→③研究2年目<研究発表>】、2年間の計画的な研究を委嘱している。各学校では創意工夫を生かした教育活動を展開することにより、魅力ある学校づくりを行う。また、上尾市教育研究会に対して、全体研修会や各部会の研究の補助金を交付し、教職員の資質の向上を図る。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	6,814 千円	6,814 千円	6,814 千円

●評価指標

指 標 名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	51.4	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	50.6	
新体力テスト	小学校	78.8 %	78.5 %	79.6 %	総合評価上位3ランク(A+B+Cの割合)
	中学校	84.6 %	86.1 %	86.3 %	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校で、児童生徒の実態に応じて、課題を明らかにし、その課題解決のため、校内授業研究会を中心に研究に取り組んだ。教職員の指導力の向上、児童生徒の学力向上を目指し、各学校で、学校・地域の実態に合った研究を進めることができている。児童生徒の学力向上を図るための研究を重ねることで、信頼される学校づくりに反映することができている。指導方法の工夫改善などの研究に取り組むことで、年々教職員の指導力も向上し、市の教育水準を高めることができていく。さらに、市からの交付金を計画的に使用することにより、資料・教材教具を充実させ、研究を深めることができた。 市内教職員が組織している上尾市教育研究会が主催する研究会において発表するための調査・研究をすることにより、教職員の資質向上・指導力の向上につながっている。
今年度の改善点等	各学校において、次期学習指導要領改訂に向け、アクティブ・ラーニングの視点を意識した研究主題・研究内容に取り組んだ。 今年度は11校が研究発表を行い、市内教職員907人が参加し、知識や情報を共有することができた。また、体力向上事業では、各学校が体育の授業の充実を図るとともに、日常的な体育的活動を積極的に推進してきたことから、新体力テストの結果において向上が見られ、成果につながっている。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	-	-	-	-

事業番号	4	学力向上支援事業	担当	指導課
------	---	----------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策1 創意工夫を生かした適切な教育指導の実施

●事業の概要

事業の目的・目標	学力調査結果の分析を多面的に行い、学力向上策を立案して、学習指導に取り組むことにより、児童生徒一人一人の学力を向上させる。
事業の対象・対象数	上尾市立小学校 第3学年・第4学年・第5学年・第6学年 全児童 上尾市立中学校 第1学年・第2学年・第3学年 全生徒
事業の内容	市立小・中学校の児童生徒一人一人に「確かな学力」を育成するため、標準学力検査用紙を用いて基礎的な学力の実態を把握し、学校の教育課程の編成や学習指導方法の工夫・改善に役立てる。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	7,502 千円	7,673 千円	7,486 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	51.9	51.8	全国平均を50としたときの市の平均値
	中学校	50.3	50.5	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>児童生徒に確かな学力を身につけさせるためには、児童生徒一人一人の学習状況を客観的に把握するとともに、一人一人の学習状況の経年の変化を適切に把握する必要がある。平成17年度から継続している上尾市立小・中学校学力調査は、その実態を明らかにするための指針の一つとなっており、その結果を分析し、各年度の成果と課題を明らかにしている。これらはホームページで市民にも周知しており、今後の学校、家庭、地域が連携した教育にも生かされるものである。各小・中学校では、この調査を基に「学力向上プラン」を作成し、各校の実態に即した授業に生かされるとともに、学校や学年の課題を明確にした組織的、計画的な指導、学校課題研究等に生かされている。</p> <p>今年度の学力調査の結果から、領域別・観点別の結果の一部に課題が見られるものの、全体的には前年度に引き続き、全国標準値を上回り、標準得点値でみると、33校中25校で全国標準を上回る結果となっており、指導の成果が見られている。今後も継続して、調査結果の早期活用を図るとともに、県や全国の学力・学習状況調査も生かした学力向上プランの作成、活用を図ることが課題である。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>上尾市立小・中学校学力調査をより詳細に分析できるようにしたことで、各学校では、自校の指導の成果と課題を明確化、共有化して「学力向上プラン」を改善・充実させ、1時間ごとの授業の充実を図ることにつなげた。また、「学力向上プラン」の作成時期を早め、2学期からの指導に生かすことができるようにした。そうすることで、授業研究会・研究協議会等において、授業における実態把握に生かすとともに、実態に応じた具体的な指導の手立てを検討し、この効果を検証、指導方法の改善を図ることにつなげた。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標				
A	上尾市学力調査の国語・算数(数学)・英語の総合	小学校	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
			51.4	52以上	52以上
		中学校	50.6	51以上	51以上

事業番号	5	日本語指導職員派遣事業	担当	学務課
------	---	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	日本語が理解できない児童生徒に、日本語や日本文化習得の支援を行い、授業をはじめとする学校生活に意欲をもって参加できるようにする。
事業の対象・対象数	計19人 (内訳 タガログ語12人 中国語7人)
事業の内容	日本語が理解できない児童生徒に対して、日本語習得の援助及び指導を行うため、在籍する小・中学校に日本語指導職員を配置する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	2,512 千円	2,883 千円	2,873 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
派遣職員数	13 人	13人	13人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	国際化・グローバル化の進展の中、日本語の理解が十分でない外国人児童生徒などが増加しており、日本語指導職員の配置は、こうした子供たちのスムーズな就学を図る上で効果的な取組となっている。特に、問題等を解く場合、文意の読みとりの補助となり効果を発揮しており、確かな学力と自立する力を育成するために、時代の変化に対応した教育支援となっている。また、日常生活を送る上で必要な知識技能についても、合わせて指導しており、コミュニケーションを図る一助になっている。
今年度の特色・改善点等	今年度は、中国語、英語、ベトナム語及びタガログ語などでコミュニケーションを図ることのできる日本語指導職員を13名雇用し対応している。様々な言語に対し支援できるよう人材の確保が必要であることから、関係課とも連携を図っている。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	指導員派遣率 派遣数/申請数×100(%)	100 %	100 %	100 %



事業番号	<b>6</b>	教科用図書等整備事業	担当	指導課
------	----------	------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	体育科・社会科・道徳の授業において、準教科書及び副読本を用い、効果的に活用して児童生徒の基礎基本の定着、豊かな心の醸成を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	小・中学校の体育科、保健体育科の準教科書、社会科・道徳の副読本の無償給与と市独自の「社会科副読本」の作成・配布を行い、授業内容の一層の充実を図る。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	13,846 千円	13,872 千円	14,198 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
道徳副読本整備状況	100 %	100 %	100 %	整備率
体育科準教科書整備状況	67 %	67 %	67 %	整備率
保健体育科準教科書整備状況	100 %	100 %	100 %	整備率
社会科副読本整備状況	100 %	100 %	100 %	整備率

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	教科用図書が発行されていない道徳の授業を充実するために、副読本を各校へ整備している。また、体育科、保健体育科では準教科書を各校へ整備している。各学校においては、準教科書・副読本の内容をもとに、年間指導計画を作成し、学習指導要領に準拠した指導を行うことができた。 なお、社会においては教科用図書が発行されているが、小学校中学年で扱う地域学習を効果的に展開できるよう、社会科副読本の活用は有効である。小学校3年生では上尾市教育委員会が作成した「のびゆく上尾」を活用している。小学校4年生では、埼玉県の特徴について学ぶ「郷土さいたま」を配布し、活用している。これにより、各学校では、地域学習・郷土学習の充実を図ることができた。
今年度の特色・改善点等	社会科副読本「のびゆく上尾」のデジタル教材を作成し、ICTの推進を図ることができている。より充実した内容にするため、社会科副読本作成委員会にて資料の作成に努める。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	道徳副読本整備状況	100 %	100 %	100 %
	体育科準教科書整備状況	67 %	67 %	100 %
	保健体育科準教科書整備状況	100 %	100 %	100 %
	社会科副読本整備状況	100 %	100 %	100 %

事業番号	7	中学生海外派遣研修事業	担当	指導課
------	---	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	コミュニケーション能力、英語力、表現力をはじめ、将来、国際社会で貢献できる人材として必要な資質・能力及び態度を有した生徒を育成する。
事業の対象・対象数	上尾市立中学校第3学年生徒 22人
事業の内容	中学生に豊かな国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材として必要な能力や態度を育成する教育活動の一環として、市立中学校に在籍する生徒を対象に、8日間のホームステイや授業体験、スポーツ交流、文化交流等の英語研修等のプログラムを特色とした11日間の海外派遣研修を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	9,553 千円	10,119 千円	10,223 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
応募生徒数	54 人	76 人	63 人	海外派遣研修応募生徒数
派遣生徒数	22 人	22 人	22 人	海外派遣研修派遣生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>グローバル化が著しい現代社会において、豊かな国際感覚を養い、将来、国際社会に貢献できる人材として必要な資質と能力を育成することは重要である。本事業は、今年で23回目となり、上尾市とオーストラリアロッキンガム市との友好都市関係を維持する上でも重要なものである。22名の中学生が一般の家庭にホームステイし、現地の学校に通い語学研修等とおして、交流を深めてきた。事前研修、現地における全研修、帰国報告会での発表等、この研修をおして、派遣生一人一人が人間的に一回り大きく成長を遂げることができた。</p> <p>派遣生にとって、実際に英語を使用しながら生活することは、教室での英語学習では学ぶことができない貴重な体験学習であり、今後の学習意欲の増加につながっている。また日本と異なる生活習慣や文化の中で暮らすホストファミリーとの生活をおして、今まで気づくことのなかった自国の文化・伝統の「よさ」を実感することにもつながった。今回の研修で得た体験を基に、将来「国際社会」を見据えた広い視野を持った人材の育成につながるものである。</p>
今年度の改善点等	<p>本研修プログラムの中で、ホームステイ先家族との生活において、緊張もあったが、派遣生は家族とコミュニケーションを積極的にとることができた。各派遣生はこれからの学校で受ける外国語の授業を中心に国際理解教育も今まで以上に積極的に受けてくれることが期待できる。</p> <p>派遣生は、各学校において全校生徒に報告を行った。派遣生自身の成長を伝え、また、1・2年生たちに本研修のよさを伝えることができるよい機会となった。これは、派遣生の後輩たちへの波及効果も期待できる。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	応募生徒数	63 人	60 人	70 人

事業番号	8	小中学校ALT配置事業	担当	指導課
------	---	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策2 時代の変化に対応した教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	小学校では「外国語活動」及び「総合的な学習の時間」とおして、外国語に慣れ親しみ、外国語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、中学校では、「外国語」の授業をとおして、英語力の向上、コミュニケーション能力の育成を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	児童生徒が、国際社会において、外国の方と積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力や英語力、態度を身に付けるための体験的学習や国際理解教育を推進するため、ALTを配置する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	88,262 千円	73,789 千円	75,028 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
ALT配置人数	27 人	27 人	27 人	小・中学校ALT配置人数
ALT活用時数(小学校)	32.2 時間	21.9 時間	21.9 時間	小学校1学級あたりのALT活用人数
ALT活用時数(中学校)	37.8 時間	30.6 時間	26.0 時間	中学校1学級あたりのALT活用人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	グローバル化が急進する現代社会において、主体的に対応できる児童生徒を育成することは、人材育成の面からも重要である。中学校では、主にALTと日常的に触れ合い、「生きた英語」を学ぶことができる環境を整える中で、英語学習の動機づけを図り、積極的に英語の基本的な表現を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことが必要である。小学校では、平成23年度から小学校5・6年生で週1時間外国語活動を行い、英語によるコミュニケーションを図ろうとする態度やその素地を高める言語活動の充実が図られている。ALTとは、教科指導以外でも日常的な触れ合い、給食、清掃等を通して「ヒアリング」や「日常でよく使うフレーズ」に慣れる機会を増やしている。また中学校ではスピーチコンテストの指導等においても成果を上げている。教員対象の研修においても指導力向上のために指導・助言している。
今年度の特色・改善点等	法令による規制があったため5月から1月までの計画的な配置とした。前年度は配置が遅れた学校があったことから、今年度より小学校16名、中学校11名のALT配置事業を別の業者に委託することで、より質の高いALTの確保に努めた。数名のALTの変更はあったが、各校において、ALTが国際理解教育、外国語教育の充実に大きく貢献した。 今後は、更なる外国語教育の充実を図るため、全小学校への完全配置及び大規模中学校への複数配置を目指す。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	ALT配置人数	27 人	33 人	35 人

事業番号	9	中学生社会体験チャレンジ事業	担当	指導課
------	---	----------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	生徒の勤労観や職業観を育成し、社会性や自立心、表現力、礼儀作法、コミュニケーション能力などを養う。また、教職員と事業所担当者等との打合せ、教職員やPTAによる各事業所等への巡回、校長による各事業所等への挨拶などをおして、学校、保護者及び地域との連携を深める。
事業の対象・対象数	上尾市立中学校 第2学年 生徒
事業の内容	市内中学校生徒が市内等の事業所等において2日間の社会体験活動を行い、勤労観や職業観を育成し、進路指導・キャリア教育を推進する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	631 千円	621 千円	661 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
職場体験事業所数	244	242	228	職場体験を行った事業所数
「進路意識向上」できたと回答した生徒	42.8 %	48.8 %	51.3 %	「進路意識が向上した」と回答した生徒の割合

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	子供たちが現代社会を力強く生き抜くためには、学校が地域や産業界と連携したキャリア教育の推進が、ますます重要であり、体験活動をおして社会に適應できる資質・能力を育成する必要がある。こうした課題の解決に向けて、本事業は大きな役割を担うものであり、自分の将来に夢や希望を抱き、その実現をめざし、基礎的な知識や、望ましい勤労観、職業観の育成はすべての子どもたちに必要なものであると考える。職場体験をおして、地域の方との関わり、郷土愛を抱き、人間関係形成能力を高め、豊かな心をはぐくみ、広く社会に貢獻できる人材の育成に資することからも大きな意義がある。参加生徒の感想からは、「働くことの大切さがわかった」「将来を真剣に考えるようになった」「あいさつの大切さがわかった」等の感想があり、望ましい勤労観が育まれている。
今年度の特色・改善点等	生徒の発達段階の問題や事業所からの要望等あり、全中学校第2学年で実施した。今年度も、個人情報漏洩防止や器物破損等の事故が起きた場合に備えて参加生徒全員が「職場体験申込書」を提出した。学校にとって事業所の確保が課題ではあるが、大型ショッピングセンターの新店や新規事業所の申し出等あり、拡大した。体験日数については、アンケートやチャレンジ事業推進委員会において協議、検討していく。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	「進路意識向上」できたと回答した生徒	51.3 %	53.0 %	55.0 %

事業番号	10	中学生進路意識啓発事業	担当	指導課
------	----	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策3 進路指導・キャリア教育の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	自分を振り返り、自らの生き方や進路について考えることができ、目標を立て、その達成のために努力できる生徒を育成する。
事業の対象・対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	進路指導・キャリア教育の観点から、地域で活躍する様々な分野の人を招いて講演会を開き、生徒の将来の夢や希望を育むとともに進路意識の啓発・高揚を図る。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	110 千円	110 千円	55 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
講演会開催回数	11 回	11 回	11 回	開催回数
講演会参加生徒数	6,169 人	6,177 人	5,623 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>社会環境が急速に変化する現代社会において、青少年の意欲や責任感の低下、コミュニケーション能力の低下等が懸念され、社会的自立の遅れや社会に適応できない若者の増加は社会問題の一つである。進路指導を「人間としての生き方に関する指導」という観点で捉え、将来にわたって「望ましい職業観・勤労観」を育成することが求められている。このような進路指導・キャリア教育を充実させる施策として、地域で活躍する方や地域ゆかりの方を学校に招き、講演会をとおして、生徒・保護者の意識を啓発し、中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図ることは、有益であり、効果も高い。今年度も各中学校、講演会を開催し、進路・キャリア教育を充実させることができた。今後さらに本事業が、生き方を学ぶ中学校の進路指導・キャリア教育を推進するものとなり、生徒のみならず、保護者の参加の増加を図っていく。</p>
今年度の改善点等	<p>すべての中学校で講演会が各1回ずつ実施された。地域で活躍する方々に加え、卒業生やOBの中から活躍されている方に講師を依頼する学校が増え、進路指導の積み重ねがより充実した。生徒も強い興味・関心を持って参加し、生徒が自らの進路や生き方について考える有意義な機会となった。また、全中学校で一部の学年のみを対象にするのではなく、全学年生徒が講演会に参加した。さらに、生徒と保護者が一緒に講演を聞く機会にするなど、学校と家庭が一体となり、進路意識の啓発を図る学校が増加した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	講演会開催回数	11 回	11 回	11 回

事業番号	11	特別支援学級補助員派遣事業	担当	学務課
------	----	---------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	障害のある児童生徒一人一人のニーズに応じる教育の充実を図る。
事業の対象・対象数	特別支援学級配置校 小学校16校32学級 児童119人、中学校5校13学級 生徒74人
事業の内容	特別支援学級において、担任教員の行う指導の補助に当たるため、特別支援学級補助員を特別支援学級が置かれる市内小・中学校に配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	16,305 千円	16,269 千円	18,509 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
補助員配置数	9 人	9 人	12 人	
補助員配置率	69 %	64 %	57 %	補助員配置校数/特別支援学級配置校数
補助員対象研修回数	9 回	9 回	9 回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、特別支援学級に在籍する児童生徒の障害は多様化している。ほぼ一対一対応を迫られるケースも散見される。それぞれの障害種別や児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別な教育的支援を一層充実させるため、特別支援学級補助員が果たす役割は大きい。</p> <p>限られた教員数の中にあっては、きめ細かい支援の充実が、困難となる状況もある。特別支援学級の新設に伴い特別支援学級補助員が一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制づくりの一躍を担っている。児童生徒の多様な障害の程度や発達状況に応じて、円滑な特別支援学級の運営のために大きな成果を上げている。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>特別支援学級補助員の資質の向上を図るため、教育センターと連携を図り、年間9回の研修会を実施している。指導に関する定期的な情報交換を通して、最新の特別支援教育の情報や場に応じた適切な支援の方法等について研鑽を重ね、障害の多様化に対応し得る資質の向上を図っている。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	補助員配置率	57 %	64 %	100 %

事業番号	12	特別支援教育推進事業	担当	指導課
------	----	------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	特別支援教育研修会では、特別支援教育担当者が研修を深め、各小・中学校で適切な指導、必要な支援、授業改善が図られるようにする。特別支援学級設置校と特別支援学校の交流を兼ねた合同作品展は、障害のある児童生徒の創作意欲を喚起するとともに、市民にとっても、障害のある児童生徒を理解するよい機会とする。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校の特別支援教育担当者及び市民
事業の内容	特別支援教育担当者を対象とした各種研修会の実施及び市民啓発、特別支援学級設置校と特別支援学校の交流の目的を兼ねて合同作品展を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	213 千円	223 千円	244 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
特別支援教育研修会回数	5 回	8 回	9 回	特別支援教育に係る研修会実施回数
特別支援教育研修会参加率	100 %	100 %	100 %	研修会参加者数/33校×100
合同作品展入場者数	500 人	500 人	500 人	障害のある児童生徒の理解

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校においては、障害のあるなしに関わらず、子供たち一人一人の教育的ニーズに応じた支援を行う合理的な配慮が求められる。そのためにも教員の指導力・資質の向上、理解の促進は欠かせない。今年度も、上尾市特別支援教育基本計画に沿って、県立特別支援学校のセンター的機能の活用を積極的に推進してきた。各研修会においても、県立特別支援学校コーディネーターを指導者に招き、既存の研修会に加え、担当者育成のための特別支援教育推進研修会を行った。 併せて、上尾市コミュニティーセンターにおいて、特別支援学級の児童生徒による合同作品展を開催した。障害のある児童生徒の活躍の場を確保することができた。
今年度の特色・改善点等	小学校7校に特別支援学級を新たに開設した。急激に増えた特別支援学級を担当する教員の育成が急務である。そのため、教員の指導力向上を目的とした研修会の実施や校内研修会等の積極的な活用を行った。また、特別支援学校のセンター的機能を最大限活用するために、各小中学校における県立特別支援学校コーディネーターによる巡回相談を積極的に推進し、校内支援体制の整備・充実を図った。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	特別支援教育研修会回数	9 回	8 回	8 回
	特別支援教育研修会参加率	100 %	100 %	100 %

事業番号	<b>13</b>	小中学校特別支援学級設置事業	担当	学務課
------	-----------	----------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成
施策	施策4 特別支援教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	市全体及び各学校における特別支援教育体制を整備し、特別支援学級・通級指導教室の新たな設置を行い、市内特別支援教育の一層の充実を図る。
事業の対象・対象数	特別支援学級未設置小学校 6校 特別支援学級設置予定中学校 1校 平成27年度整備小学校(平成28年度新設)6校 平成27年度整備中学校(平成28年度新設)1校
事業の内容	すべての児童が居住区にある小学校の特別支援学級に通学することができるように、全小学校に特別支援学級を設置する。併せて6地区の中学校に特別支援学級を設置する。平成28年度設置に向け、小・中学校計7校の整備を行う。 平成28年度整備 小学校:平方小、尾山台小、原市南小、西小、平方北小、上平北小の6校 中学校:太平中の1校 の計7校 (知的障害学級及び自閉症・情緒障害学級)

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	- 千円	35,237 千円	42,347 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
小学校設置校数	9/22 校	9/22 校	16/22 校	特別支援学級設置校/全小学校数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>特別な教育的ニーズの多様化及び特別な教育的支援を必要とする児童生徒の増加に伴い、一人一人の教育的ニーズに応じたインクルーシブ教育システムの構築を目指してきた。障害のある児童生徒の特性に配慮し、就学前からの一貫した指導・支援の充実を目指し、「多様な学びの場」の整備を積極的に進めている。</p> <p>上尾市特別支援教育基本方針に基づき、障害のある子供が障害のない子供と平等に教育を受けることができるように、特別支援学級の新設・増設を4年間にわたり計画的に進めてきた。今年度は、小学校6校、中学校1校の整備を完了した。インクルーシブ教育の大きな成果を上げることができた。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度は、小学校6校の特別支援学級の開設に向け関係課とも連携を図った。このことにより、平成28年度には全小学校に特別支援学級が開設することになった。</p> <p>また、中学校には、太平中学校に特別支援学級開設のための整備を行った。市内6地区の学校に特別支援学級を設置することで、小中学校間の連続性のある「多様な学びの場」の一層の充実を図った。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	小学校設置校数	16/22	22/22	22/22



事業番号	14	小中学校特別支援教育就学奨励事業	担当	学務課
------	----	------------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅰ 確かな学力と自立する力の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 特別支援教育の推進	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	教育の機会均等の趣旨にのっとり、特別支援学級への就学の事情を鑑みて、その保護者の経済的負担を軽減し、もって特別支援教育の推進に寄与する。
事業の対象・対象数	小学生:受給者123人(対象者129人) 中学生:受給者62人(対象者79人)
事業の内容	市内小・中学校の特別支援学級等に在籍する児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の対象となる経費の一部を援助する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	5,484 千円	5,992 千円	5,961 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
小学校	99 %	96 %	100 %	申請数/配布数(在籍者数)×100
中学校	98 %	100 %	100 %	申請数/配布数(在籍者数)×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	この事業は、特別支援学級等に通う、障害のある児童生徒の保護者の経済的負担の軽減を主旨とし、対象となる児童生徒の全員から申請を受け付けることができている。教育機会均等の観点からも、障害のある児童生徒が就学する上での事情を鑑み、その保護者の負担を軽減することの必要性は高い。特別支援教育の推進のために必要な事業である。
今年度の特色・改善点等	学校と円滑かつ速やかに連絡を取り合い、国の基準に基づいて効率的に事務を執行した。平成25年度から、通常学級在籍者のうち特別支援学校への在籍が適していると判断される児童生徒にも支給対象者が拡大されたため、該当する児童生徒を把握し、申請を受けた上で支給を行った。今後においても、継続して対象者の把握及び適切な事務遂行を行う必要がある。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	奨励費申請率	100 %	100 %	100 %

## 基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

### 施策1 豊かな心の育成

事業番号15	学習支援事業
事業番号6(再掲)	教科用図書等整備事業
事業番号16	さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)
事業番号2(再掲)	指導方法改善事業
事業番号17	小中学校音楽会開催事業
事業番号18	小中学校図書整備事業【Ⅲ-3】
事業番号50(再掲)	図書館資料整備事業
事業番号19	中学校部活動支援事業【Ⅱ-7】
事業番号20	中学校吹奏楽演奏会開催事業
事業番号51(再掲)	子どもの読書活動支援センター運営事業

### 施策2 生徒指導の充実

事業番号21	生徒指導推進事業
事業番号22	さわやか相談室運営事業
事業番号23	いじめ根絶対策事業(防止事業)【Ⅱ-4】
事業番号24	いじめ根絶対策事業(相談事業)【Ⅱ-4】

### 施策3 人権教育の推進

事業番号25	人権教育推進事業(指導課所管分)
--------	------------------

### 施策4 学校教育相談の充実

事業番号23(再掲)	いじめ根絶対策事業(防止事業)
事業番号24(再掲)	いじめ根絶対策事業(相談事業)
事業番号26	不登校児童生徒の学校適応指導事業
事業番号27	教育相談事業

### 施策5 学校保健の充実

### 施策6 食育の推進・学校給食の充実

### 施策7 児童生徒の体力向上

事業番号2(再掲)	指導方法改善事業
事業番号3(再掲)	魅力ある学校づくり事業
事業番号19(再掲)	中学校部活動支援事業
事業番号28	児童生徒体力向上推進事業

事業番号	15	学習支援事業	担当	指導課
------	----	--------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能をもつ外部指導者や学校支援ボランティアを導入することで、豊かな体験活動をはじめ、学習活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育てる。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	「総合的な学習の時間」の外部指導者や学校の教育活動を支援する学校支援ボランティアに、記念品を贈る。 小・中学校校外行事実施に係る引率者の入場料等の経費を負担する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	199 千円	217 千円	300 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
外部指導者補助率	67.8 %	42.3 %	62.0 %	外部指導者活用に対する補助の割合
外部指導者補助数	103 人	102 人	124 人	外部指導者補助人数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	各学校において、児童生徒や地域の実態に応じた特色ある教育活動の推進が求められている。そのため、外部指導者や学校支援ボランティアの協力によって地域全体で学校教育の質を高め、市内多くの学校で特色ある教育を推進している。そのような状況の中、各学校において、総合的な学習の時間等に専門的な知識や技能を持つ外部指導者や学校支援ボランティアを積極的に活用することで、体験活動の充実や個に応じた指導が図られ、児童生徒にとって魅力ある教育活動が展開することができた。しかしながら、各学校から申請のある外部指導者の活用希望数が100回を超えているため、学校が希望している回数に対する補助を予算の範囲内でしかすることができなかった。総合的な学習の時間の目標にある探求活動を一層推進していくためには、子どもが自ら課題を見つけるきっかけとなる体験活動を充実させることや豊富な知識と技能を有する外部指導者・学校支援ボランティア等の地域の教育力を活用することは不可欠となることから、学校が希望している回数に対する補助をすることが課題である。 また、教職員の校外行事引率業務に係る引率者の入場料等の経費を負担し、校外行事を円滑に実施することができた。
今年度の特色・改善点等	今年度も昨年度と同様の予算で実施した。予算を上回る希望があるため、過去の実績をもとにして優先順位を付けて、割り当てを行った。半期毎の決算を行い、年度末に残がある場合には、希望校に配布していけるようにした。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	外部指導者補助率	62.0 %	65.0 %	70.0 %

事業番号	16	さわやかスクールサポート事業(学校図書館支援)	担当	指導課
------	----	-------------------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	読書活動を推進するとともに、学校図書館の教育効果を組織的に高めることで、児童生徒に「確かな学力」と「豊かな心」を身につけさせる。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	読書活動は、子供が、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものである。そこで、各小・中学校図書館の充実を図り、読書活動を推進するため、図書館支援員を小学校毎日4時間、中学校週1回5時間、派遣する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	18,086 千円	18,473 千円	18,865 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校図書館支援員数	25人/33校	25人/33校	25人/33校	小中学校に派遣する図書館支援員の数
1校あたりの派遣回数(平均)	小学校202回 中学校約41回	小学校203回 中学校約42回	小学校205回 中学校約41回	支援員の派遣回数/1校あたり
「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	74.9%	75.9%	74.8%
	中学校	73.2%	74.6%	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	アップスマイル学校図書館支援員を配置したことで、学校図書を選書、展示コーナーの整備による児童生徒への本の紹介、学校全体での読書活動への関わり等の様々な業務において、司書教諭の補助を行うことができた。また、読み聞かせやブックトーク、児童生徒へのレファレンス等、児童生徒の豊かな心の育成や児童生徒が本を手に取りやすい環境が整ってきている。また、上尾市図書館や子どもの読書活動支援センターとも積極的に連携し、教科指導や調べ学習を意識した学校図書館の運営ができています。今後、中学校での学校図書館のより一層の活用を図るため、図書館支援員の増員や配置の仕方等を検討する必要がある。
改善色・特 今年度の特	中学校の図書館教育の充実のため、ベテラン支援員を継続して配置した。上尾市立大石南中学校の取組が、文部科学省「平成27年度子ども読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)」の優秀実践校表彰を受け、研修会でその事例を各校に広めることや、読書活動実践事例集への各学校の積極的な参加など、学校図書館運営の充実が図られた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度	
A	学校図書館支援員数	25人/33校	25人/33校	33人/33校	
	「読書が好き・どちらかといえば好き」と回答した児童生徒の割合	小学校	74.8%	75%以上	75%以上
		中学校	77.4%	78%以上	78%以上

事業番号	17	小中学校音楽会開催事業	担当	指導課
------	----	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	市内小・中学校の児童生徒の音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図るとともに、教員の研修の機会とする。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 児童生徒 約1,300名
事業の内容	表現及び鑑賞をとおして、音楽性を伸ばすとともに、音楽を愛好する心情を養い、情操豊かな児童生徒の育成を図り、教員の研修の機会とするため、毎年度1回「上尾市小・中学校音楽会」を実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	805 千円	1,281 千円	1,292 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
参加学校数	33 校	33 校	33 校	音楽会参加学校数
参加者数	約2,000人	約2,200人	約2,200人	音楽会参加者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市内全小・中学校の小学校5年生と中学校3年生が参加し、日頃の音楽における教育活動の成果を発表し合える唯一の場である。その意義は大きく、児童生徒の学習意欲を高め、音楽科としての学力向上につながっている。また、他校の合唱・演奏を鑑賞することは、教員の指導力向上にもつながっている。さらに、市として文化芸術振興の一環としての役割も大きく、一般参加者数は、増加傾向にある。その成果を、NHK全国学校音楽コンクールやTBSのこども音楽コンクールで発揮し、良い成績を収めている学校もある。
今年度の特色・改善点等	小学校5年生と中学校3年生が日頃の学習の成果を発表し、互いの音楽を聴き合うことにより、学習意欲及び音楽的な表現力の向上につながった。また、市内小・中学校の教職員及び保護者から高評価を得ることができた。参加者によるアンケートの調査結果での評価も高かった。今年度は、一般参加者数が939名であった。上尾市歌や全員合唱曲の歌詞をプログラムに掲載し、一般参加者も一緒に歌えるようにしたことで、参加者も一緒に参加し、会場が一体となったような雰囲気を実施できた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	音楽会参加者数	約2,200人	なし (文化センター 耐震工事中)	2,000人以上

事業番号	<b>18</b>	小中学校図書整備事業
------	-----------	------------

担当	教育総務課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策1 豊かな心の育成	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	子供たちの自主的・自発的な学習活動を支援するとともに、豊かな感性や情操を育む読書活動を推進するため、「学校図書館図書標準」(平成5年3月)を目標に、充実した学校図書館図書の整備を図る。
事業の対象・対象数	小中学校の児童、生徒(平成27年5月1日現在) 小学校・・・児童数 11,909人 中学校・・・生徒数 6,189人
事業の内容	学校図書標準の早期達成に向け、図書の計画的な整備を図る。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	27,658 千円	28,155 千円	28,043 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
図書標準目標達成率 小学校	89.3 %	93.4 %	96.4 %	
図書標準目標達成率 中学校	77.4 %	81.4 %	87.0 %	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校図書については、文科省の学校図書館関係地方財政措置を利用し、図書購入予算を例年並みに確保し、着実に蔵書数を増やすことができています。具体的な図書や資料の整備については、司書教諭が中心になって、利用者の立場を考慮しながら適切で優れた図書・資料を計画的に選定しており、児童生徒の健全な教養の育成に努めている。</p> <p>整備指標である「学校図書館図書標準」については、目標達成率が毎年上がってきているが、100%には至っていない。今後は、目標達成率100%を目指すとともに、学校間の達成率の開きがあるので、平準化を図る必要がある。</p> <p>また、図書室のレイアウト変更や書架の追加設置なども検討していく必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>図書標準目標達成率の低い瓦葺小学校において、書架の追加購入を実施した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
図書標準目標達成率(小学校)	96.4%	100.0%	100.0%
図書標準目標達成率(中学校)	87.0%	90.0%	95.0%

事業番号	19	中学校部活動支援事業	担当	指導課
------	----	------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策1 豊かな心の育成	施策7 児童生徒の体力向上	

●事業の概要

事業の目的・目標	部活動の充実及び活性化、生徒の意欲の向上と技能の向上を図る。また、生涯スポーツ・文化に親しむ習慣の基礎を養うことや目標を持った意欲的な学校生活を送ることができるようにする。全国・関東大会に出場する生徒の派遣費負担を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立中学校 全生徒
事業の内容	保護者、地域から部活動の活性化が望まれる中、部活動指導員を配置することで、生徒の技能の向上を図り、安全を確保する。全国・関東大会に出場する生徒の派遣にかかる費用を負担し、保護者負担を軽減する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	3,028 千円	4,163 千円	3,515 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
部活動指導員配置率	90.1 %	90.1 %	93.8 %	学校配置指導員数/学校が希望する指導員数×100
運動部活動加入率	74.1 %	73.4 %	74.1 %	運動部活動加入生徒数/生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	中学校部活動では顧問の高年齢化や人事異動等により、技術指導を行える指導者が減少し、活動が停滞したり存続が難しくなったりする等の状況が問題化しているが、市内では、技術指導を中心とした、部活動指導員を各中学校に配置し、生徒の技能や活動に対する意欲の向上を図ることができた。また、部活動指導員には、消防署によるAED使用法、心肺蘇生法実習を受講してもらい、活動する上での生徒の安全を確保することができた。スポーツ、文化において高い技能を持つ部活動指導員を配置することにより、円滑に進めることができています。また、思春期にあたる中学生時期に様々な人と接することで、心の成長につながっている。
今年度の特色・改善点等	今度は、全国・関東大会に男子バレーボール団体を含む23名が出場することができた。部活動指導員委嘱式・研修会を前年度から、土曜日午前中に実施することとし、さらに、消防署の方を招聘することで、より実践的な研修を開くことができた。委嘱式・研修会への参加が約半分程度なので、学校や通知文をとおして、参加を促していく。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	部活動指導員配置率	93.8 %	96.9 %	100.0 %

事業番号	20	中学校吹奏楽演奏会開催事業	担当	指導課
------	----	---------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	中学校部活動の充実と相互の発展向上を図るとともに日頃の活動の成果を発表する機会の一つとする。対象生徒の意欲・技能の向上を図るとともに、保護者や一般市民にも公開することにより、市民の文化的活動としての位置付けを図る。
事業の対象・対象数	上尾市立中学校吹奏楽部
事業の内容	生徒の演奏技能を高め、担当教員の指導力の向上を図る機会として吹奏楽演奏会を開催する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	311 千円	310 千円	364 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
参加学校数	11 校	11 校	11 校	参加中学校数
一般参加者数	439 人	395 人	282 人	一般参加者数(受付通過分)

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市内11校が参加する吹奏楽演奏会の開催により、吹奏楽部の生徒の部活動への意欲的な取組や演奏技能の向上、担当教員の指導力を高めることにもつながっている。さらに、本市の文化芸術の振興の点でも、本事業のような音楽的活動は効果的であり、一般公開することで、市民への芸術文化の提供と学校理解につながっている。本事業は、埼玉県吹奏楽コンクールに向けての練習の場として、また、モチベーション向上の役割も大きく、年々、成果をあげている。吹奏楽部顧問が実施委員として演奏会を組織、運営することで、顧問同士連携が深まり、指導に関する情報交換等を行うことで指導力の向上が期待できる。
今年度の改善点等	演奏技術及び演奏態度が年々向上してきており、埼玉県の吹奏楽コンクールに出場した学校は、成果をあげている。市の広報に開催日等を掲載するなど、市の文化的な活動の一つになっており、一般参加者数は282人で、アンケートの回収数も多く、好評であった。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	一般参加者数	282 人	400 人	400 人



事業番号	21	生徒指導推進事業	担当	指導課
------	----	----------	----	-----

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

## ●事業の概要

事業の目的・目標	児童生徒の非行・問題行動の未然防止と健全育成及び学校生活の充実を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	中学校での非行問題行動の未然防止のため、4人の生徒指導支援員を要請のあった中学校へ派遣し、校内巡視や非行・問題行動を取る生徒への対応など、中学生の非行問題行動を未然に防ぐ活動を行う。また、生徒指導推進協議会の活動をとおして、各中学校区で小・中学校及び地域住民、警察等関係機関及び青少年育成団体、高等学校等と連携しながら、青少年健全育成活動、長期休業中のパトロールや補導を行い、地域と一体となった総合的な生徒指導の取組を推進する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	4,543 千円	4,600 千円	4,417 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
暴力行為発生件数	3 件	3 件	2 件	小・中学校の暴力行為発生件数
街頭補導回数	494 回	507 回	441 回	各中学校区における補導回数

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	生徒指導推進事業については、生徒指導支援員の活動や上尾市生徒指導推進協議会の取組により、暴力行為が2件となっており、平成24年度の18件と比べ、大幅に減少している。青少年健全育成地域の集いは、市内小・中学生が自らルールやマナーの行動宣言を策定し、発表することで、正しいネットの使い方についての意識を高めることができた。生徒指導支援員は、2名1組で、教師の目の届きにくい時間帯、場所を巡回し、生徒の暴力行為等の未然防止を図り、成果をあげることができた。生徒指導支援配置校からは、平成28年度も引き続き派遣してほしいとの声がある。補導回数は、前年度に比べ減少したが、地域が一体となり、子供の犯罪抑止に大きく寄与しており、関係機関が連携して今後も取り組んでいく必要がある。
今年度の改善点等	携帯やスマホを所有する子供が低年齢化する中、ネットでのいじめやトラブルが起り、社会的に大きな問題となっている。そのような中、ネットトラブルを防止するためには、児童・生徒さらに保護者へ向けた啓発活動が重要であることから「夢・感動教育 子供すこやかシンポジウム」を開催して、「スマホ・ケータイの正しい使い方」について考える機会を設け、スマホやケータイの使い方を考え、ネットトラブルを未然に防止するためのシンポジウムを行った。市全体で子供をネットトラブルから守る取組をとりまとめ、リーフレットやポスターで市民に広めた。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	暴力行為発生件数	2 件	0 件	0 件

事業番号	22 さわやか相談室運営事業	担当	教育センター
------	----------------	----	--------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策2 生徒指導の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	児童生徒・保護者の身近な相談機関として中学校に相談員を配置し有効に機能させる。不登校生徒が学級復帰を果たすまでの第一段階として、教育相談主任・学級担任等と連携して、生徒個々にカウンセリング等を実施しながら学級復帰をめざす。
事業の対象・対象数	市内全中学校11校
事業の内容	児童生徒・保護者等の様々な相談に応じるため、市内中学校のさわやか相談室に相談員を配置する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	17,882 千円	19,866 千円	20,221 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
相談室の相談件数	10,470 回	12,743 回	11,583 回	相談員が扱った相談の延べ回数
相談の解決率	76 %	85 %	82 %	解決件数/相談件数×100
不登校生徒数割合	1.83 %	1.85 %	1.88 %	不登校生徒数/全生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	さわやか相談室では、自校及び中学校区の児童生徒や保護者の学校生活や家庭生活での悩み等の相談に応じたり、不登校傾向のある生徒へのカウンセリングを行ったりしている。また、教育センターの相談員及び適応指導教室指導員と連携を図り、きめ細かい支援を行っている。これらは、児童生徒や保護者の悩みを解消したり、不登校児童生徒の教室復帰に導いたりする重要な業務である。今年度の相談延べ回数は前年度より1割程度減少しているものの、相談の解決率は82%と、前年度と比べると低くなっている。これは、相談の内容が不登校に関するものが増えていることと、その原因が複合的で特定することが困難なケースが増えているためである。そのような中、さわやか相談室相談員と教育センターとの連携、また、さわやか相談室相談員とスクールカウンセラーとの連携を深めることができているため、校内の連携を活かした支援も確実に行うことができ、相談の解消率は8割を維持することができた。不登校生徒数の割合は1.88%で、微増が続いているが、さわやか相談室相談員と教育センターの連携でかかわった生徒は、段階を踏んで学校へ戻るできるようになっている。
今年度の改善点等	さわやか相談室相談員研修会において、相談員同士の事例研究の場を設定し、相談員同士で助言し合える環境を作った。また、小学校との連携の重要性について伝え、各さわやか相談室相談員が積極的に小学校を訪問するなど、小・中の連携を推進した。 また、さわやか相談室相談員が、計画性をもって支援にあたることできるよう、教育センターが定期的にさわやか相談室を訪問するとともに、教育センターの教育心理相談員が、一人一人の生徒の学校復帰に向けた支援の方向性について助言した。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
B	不登校生徒数割合	1.88 %	1.69 %	1.52 %

事業番号	23	いじめ根絶対策事業(防止事業)	担当	指導課
------	----	-----------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実	

●事業の概要

事業の目的・目標	児童生徒の個々の状況を的確に把握し、いじめの未然防止や解消、いじめの早期発見・早期対応を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校全児童生徒
事業の内容	いじめ問題は、社会問題化しており、教育上非常に大きな課題となっている。問題行動等の原因や背景は、個々のケースにより様々であるが、最近ではネットやスマホ・携帯電話を介した「いじめ」が増加し、学校における「いじめ発見」が難しい事例もある。このようなことから、児童生徒の個々の状況を的確に把握するための心理検査やネットパトロール調査を実施し、より良い学級集団の形成に資するとともに、教員の資質向上、保護者との連携などをおして、いじめ根絶の取組を市全体で推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	6,219 千円	6,426 千円	6,742 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
いじめ相談解決率	100 %	100 %	100 %	小・中学校におけるいじめの解消率
いじめホットライン・ホットメール相談件数	17 件	11 件	7 件	年間相談件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	いじめの問題については、いじめが原因の一つと思われる児童生徒の自殺が起きるなど、社会問題化しており、依然として教育上大きな課題となっている。問題行動等の原因や背景は、個々のケースにより様々であるが、インターネットや携帯電話を介した「ネット上のいじめ」など、学校における「いじめ発見」が難しい事例もある。こうした中、本事業は、いじめ問題に対して、学校を中心に、市全体で組織的に取り組み、成果を上げてきている。特に、ネットパトロール調査では、インターネット社会に潜むいじめ問題の早期発見にもつながった。また、CAP研修会やhyper-QU調査などを通して、いじめを見逃さない学級経営と教職員の意識改革につながってきている。その他、なかよく楽しい学校生活を送るための標語ポスターを制作し、各学校に掲示することにより、児童生徒への啓発も推進できている。
今年度の改善点等	ネットパトロール調査では、学校非公式サイト、個人SNS合わせて約400のサイトを監視対象とし、いじめの未然防止につながる情報を学校と共有することができた。 CAP研修会を未受講者対象に実施し、市内全小・中学校の新採用教員、転入教員、臨時的任用教員が受講することができ、いじめを見抜く能力や組織的に対応することの大切さを多くの教員が学ぶ機会となった。 hyper-QU調査を全小学校第3学年から第6学年の児童及び全中学校第1学年から第3学年の生徒を対象に実施した。児童生徒の集団における満足度を測定し、個に応じた生徒指導を実践することができた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	いじめ相談解決率	100 %	100 %	100 %

事業番号	24	いじめ根絶対策事業(相談事業)	担当	教育センター
------	----	-----------------	----	--------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成		
施策	施策2 生徒指導の充実	施策4 学校教育相談の充実	

●事業の概要

事業の目的・目標	いじめ相談の迅速な対応を行う。いじめ等の問題で児童生徒本人の心の問題とともに、置かれている環境に対し働きかけを行う。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	「いじめホットライン」を設置し、いじめられている児童生徒の相談窓口とする。また、教育・社会福祉等の専門的な知識や技能を持ったスクールソーシャルワーカー(SSW)を設置し、児童生徒の問題行動等の解決を図る。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	617 千円	509 千円	511 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
いじめホットライン・ホットメール相談件数	17 件	11 件	7 件	ホットライン(電話)件数+ホットメール件数
いじめ相談解決率	100 %	100 %	100 %	いじめ相談解決数/いじめ相談数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>「子ども・いじめホットライン」で受けた相談件数は7件である。内訳は小学生が2件、中学生が2件、高校生2件、匿名が1件であった。高校生からも相談があり、相談機関としての役割を果たすことができている。「子ども・いじめホットライン」では、相談員が相談者の気持ちを十分受け止め、寄り添いながら丁寧に相談を進め、学校と協力して問題の解決を図った結果、小・中学生4件に関しては、100%のいじめ解消となった。特に緊急性のある相談については、相談者の安全確認等、状況把握を慎重に行い、学校と連携し迅速に対応できた。</p> <p>また、問題行動等に関して、スクールソーシャルワーカーが家庭訪問を繰り返したり、子ども若者相談センターや児童相談所、社会福祉協議会等、関係機関との連携に努め、ケース会議を適宜行ったりした結果、関係機関が対象児童生徒について情報の共有ができたことは評価できる。</p>
今年度の改善点等	<p>「子ども・いじめホットライン」については、電話での相談、メールでの相談とも、原則、課業3日以内に対応した。土・日曜、祝日は、留守番電話での対応とした。</p> <p>スクールソーシャルワーカーは、関係機関との連携を図るため、積極的にケース会議に参加するとともに、直接学校や家庭を訪問し、対象児童生徒への対応を行った。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	いじめ相談解決率	100 %	100 %	100 %

事業番号	25	人権教育推進事業(指導課所管分)	担当	指導課
------	----	------------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策3 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	人権を尊重する教育と心豊かな人づくりの推進を図り、人権尊重の意識を高めることで、いじめや差別を無くせる学校の実現と相手の立場に立って考える思いやりのある児童生徒の育成を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 全児童生徒・管理職及び教員
事業の内容	人権教育研修会(人権教育施設体験研修会を含む)をとおして校長、教頭、教員の資質向上を図る。人権教育を視点においた指導方法の研究をより一層推進する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	1,346 千円	1,304 千円	1,237 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
研修会・授業研究会実施回数	7回	8回	7回	人権教育に係る研修会等実施回数
教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいができると回答した児童生徒の割合	90%	90%	91%	「よくなる」「だいたいできる」回答児童生徒数 ／全児童生徒数×100
人権作文・標語集等配布率	100%	100%	100%	配布数／児童生徒数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校等における人権教育のねらいは、人権問題を正しく理解し、人権感覚を身に付け、様々な人権課題を解決しようとする児童生徒を育成する事にある。人権感覚育成プログラムを人権教育の全体計画・年間指導計画に位置づけ、校内研修や日々の授業で取り組むなど、全ての児童生徒に人権についての正しい理解とともに実践力を身に付けることに重点をおいた人権教育を推進することができた。</p> <p>管理職対象及び一般教職員対象など、それぞれの職責に応じた研修を行い、教職員の資質能力の一層の向上と人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、豊かな人権感覚を身に付け、様々な人権問題を自ら解決しようとする児童生徒を育成することは今後も学校教育が担う重要な課題であり、継続していく必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>校長対象研修では、講義形式で同和問題とネットトラブルを取り扱った。また、教頭研修では施設体験研修で同和問題を扱い、東松山の正法寺を訪問した。さらに、担当者研修会では、上尾市の人権教育行政、人権感覚育成プログラムを利用した演習を行った。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	教育に関する3つの達成目標 相手のことを考えた優しい言葉づかいができると回答した児童生徒の割合	91%	92%	93%

事業番号	<b>26</b>	不登校児童生徒の学校適応指導事業
------	-----------	------------------

担当	教育センター
----	--------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	不登校児童生徒のうち、学校復帰に意欲のある者のより良い成長と自立を促し、指導・支援を行うことによって、学校への完全復帰を目指す。
事業の対象・対象数	市内小・中学校不登校児童生徒 131人
事業の内容	不登校児童生徒の自立と学校生活への適応を図り、学校に復帰させることを目的として様々な指導・援助を行う。体験学習を多く取り入れた活動や学生ボランティアによる学習支援を実施する。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	4,682 千円	4,644 千円	4,750 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
適応指導教室入級者数	13人	11人	13人	入級者数
適応指導教室開設日数	151日	151日	151日	4月及び水曜日を除く平日*夏休は火・木のみ開設口
学校への復帰率	100%	100%	100%	学校復帰した人数/入級者×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度の不登校児童生徒数は135名である。その内、教育センターに来所した児童生徒は46人で、これは前年度の1.5倍となり、学校とセンターの連携が密になっていることの表れである。適応指導教室に入級した人数は13人と少ないが、個別の相談対応で入級手前の段階の児童生徒は多く、教育センターでは、来所した不登校児童生徒の支援を積極的にサポートしている。</p> <p>学校適応指導教室では、学校復帰を目指すための指導・支援を行ってきている。入級した児童生徒は、個別の自主学習形態での学習や集団でのレクリエーション活動・体験活動を行っている。これらの活動により、集団の中での行動の仕方や他者とコミュニケーションをとる力を身につけたり、学校復帰に向けた不安感を払拭させたりすることができた。その結果、前年度入級した児童生徒は100%学校復帰を果たすことができた。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>教育センターに通ってくる児童生徒は、「他者と積極的に関わるできない」「他者との関わり方が分からない」などの課題があり、集団への不適応を起こしている。そこで今年度は、適応指導教室をはじめとした教育センター内での活動において、宿泊体験や陶芸教室等の児童生徒が協力する活動を計画・実行したり、作品展で参観者の案内をしたりするなど、ソーシャルスキル習得に向けた取組の充実を図った。さらに、入級した児童生徒の特性を踏まえながら、個別の支援と集団での活動をバランスよく連携させ、学校に適応できる力を身につけさせていった。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
学校への復帰率	100%	100%	100%

事業番号	<b>27</b>	教育相談事業
------	-----------	--------

担当	教育センター
----	--------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策4 学校教育相談の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	幼児及び児童生徒と保護者、学校関係者が抱える教育問題等を解消する。特に不登校児童生徒については、学校(相談室・適応指導教室を含む)に復帰させる。
事業の対象・対象数	上尾市在住の幼児、児童生徒、保護者及び関係者 約57,000人 (内訳:幼児、児童生徒数約28,000人、保護者数約28,000人、学校関係者約1,000人)
事業の内容	幼児・児童生徒及び保護者の教育問題等に関する相談、軽度発達障害のある児童生徒の相談及び各種知能検査・発達検査を行う。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	11,427 千円	14,409 千円	15,728 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
教育相談実件数	321 件	461 件	547 件	実人数+電話相談(匿名)
教育相談延べ回数	5,935 回	6,483 回	7,669 回	面接相談+電話相談+メール相談
教育相談終結率	79.1 %	76.4 %	75.1 %	終結(方向性を持って支援を継続しているケース+問題終結ケース)数/相談実件数×100

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度の教育相談は、前年度より、相談実件数で86件、延べ回数で1,186件増えたものの、どのケースにも迅速に丁寧に応じることができた。内容は、「不登校」をはじめ「性格・行動」「学習・発達」「就学」についての相談が大変多くなってきている。それに伴い、知能検査(WISC-ⅢまたはⅣ)を実施するケースも大変多くなっているが、丁寧に話を聞くとともに、きめ細かく、かつ、適切な支援の方法をアドバイスするなどして問題解決へと導くことができた。</p> <p>不登校児童生徒に対して、一人一人の児童生徒の気持ち安定し、学校に通うことができるようになるまで支援をすることに努めたこと、相談件数が大幅に増えたこと等の理由から、年度内の終結率は低くなってはいるが、教育センターが関わった児童生徒は、学校復帰に向けたチャレンジをしたり、学校に復帰したりすることができた。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>相談件数が非常に増え、相談員一人あたりが40件以上のケースを抱える時期がある。加えて、相談内容も深刻化、複雑化してきているため、丁寧なカウンセリングを行い、的確な支援を行うことが非常に重要である。WISC-ⅢまたはⅣの検査の結果を生かし、児童生徒にとって必要な支援や教育形態の変更への方向性を捉えること、また、積極的に学校や他機関との連携を図り、ケース会議等を行うことで、児童生徒保護者が安心して学校への復帰や問題の解決が図れるよう努めた。今後は、相談機能のより一層の充実を図り、適切な教育相談を行っていくとともに、市内の小・中学校で、現在、登校できていない全ての児童生徒に対し、スクールソーシャルワーカーの活用を充実するとともに、他機関や教育センターとの関わりを築くことができるようにしていく。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>B</b>

目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
教育相談終結率	75.1 %	80 %	80 %

事業番号	28	児童生徒体力向上推進事業	担当	指導課
------	----	--------------	----	-----

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策7 児童生徒の体力向上

## ●事業の概要

事業の目的・目標	市立小・中学校の児童生徒の体力向上を図り、心身ともに健やかでたくましい人づくりを目指す。
事業の対象・対象数	上尾市中学校体育連盟・小学校体育連盟 上尾市立小・中学校 全児童生徒
事業の内容	上尾市中学校体育連盟の学校総合体育大会及び県民体育大会兼新人体育大会の市内予選会や小学校体育連盟の連合運動会、親善バスケットボール大会などの実施を通して、児童生徒の体力向上を目指す。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	3,645 千円	4,265 千円	4,308 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
新体力テスト総合評価 上位3ランク児童の割合(小学校)	78.8 %	78.5 %	79.6 %	5ランク中上位3ランクの児童の割合
新体力テスト総合評価 上位3ランク生徒の割合(中学校)	84.6 %	86.1 %	86.3 %	5ランク中上位3ランクの生徒の割合

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	児童生徒の体力低下、運動習慣の二極化が懸念されている現状から、児童生徒の体力向上と運動習慣の確立は、学校においても大きな課題となっており、本市においても体力向上推進委員会を中心として、様々な取組を行うことができた。小学校体育連盟では、親善バスケットボール大会や小学校陸上競技大会での各校の取組を通して、運動時間・運動機会を確保し、体力と技能向上につながった。特に、小学校陸上競技大会では、ブロック制を変更して3年目になるが、22校が共に競い合い、学校規模に関係なく各校の取組に大きな成果が見られた。中学校体育連盟では、部活動の大会を目指し、日頃の練習の充実が図られた。小学校体育連盟・中学校体育連盟ともに、体力、技能の向上のみならず、仲間意識や達成感を味わわせる取組を行うことができた。
今年度の改善点等	体力向上推進委員会・体育主任会を通して、市内小・中学校教員と現状や事業の重要性を共有し合うことができた。また、本市では小学校での新体力テストの上位3ランクの低下、「ボール投げ」「長座体前屈」が課題となっているが、授業研究会等を通して、指導方法の改善について研究等を行い、課題解決を図っていくことができた。さらに、体育の授業において、各学校で課題種目を準備運動等で取り入れ、運動の特性を味わわせて児童生徒の自主性を育むことで体力の向上を図った。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	新体力テスト総合評価 上位3ランク児童の割合(小学校)	79.6 %	81.0 %	82.0 %



## 基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進

### 施策1 教職員の資質・能力の向上

事業番号2(再掲) 指導方法改善事業

### 施策2 学校経営の改善・充実

事業番号3(再掲) 魅力ある学校づくり事業

事業番号2(再掲) 指導方法改善事業

事業番号29 学校評議員制度運営事業

事業番号30 元気な学校をつくる地域連携推進事業【IV-1】

### 施策3 学校施設・設備の整備・充実

事業番号6(再掲) 教科用図書等整備事業

事業番号18(再掲) 小中学校図書整備事業

事業番号31 小中学校教育教材整備事業

事業番号32 小中学校校舎改築事業

### 施策4 学校のICT化の推進

事業番号2(再掲) 指導方法改善事業

事業番号33 小中学校コンピュータ整備事業

### 施策5 学校安全の推進

事業番号34 児童生徒安全推進事業

事業番号35 学校安全パトロールカー事業

事業番号36 通学路安全対策事業

### 施策6 就学支援の充実

事業番号37 入学準備金・奨学金貸付事業

事業番号5(再掲) 日本語指導職員派遣事業

事業番号14(再掲) 小中学校特別支援教育就学奨励事業

事業番号38 小中学校就学援助費補助事業

事業番号39 要保護児童生徒医療費援助事業

事業番号40 準要保護児童生徒給食費援助事業

事業番号	29	学校評議員制度運営事業	担当	指導課
------	----	-------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策2 学校経営の改善・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	学校運営に関し、保護者や地域住民の意向を把握し、意見等を反映させたり、協力を得たりするなど、特色ある開かれた学校づくりを推進するため、学校評議員制度の運営充実を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立各小・中学校 各校5人×33校＝165人
事業の内容	学校評議員の委嘱及び学校評議員研修会の開催等

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	590 千円	596 千円	567 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校評議員開催回数	3.30 回	3.24 回	3.30 回	1校あたりの学校評議員会議の開催回数
学校評価に対する意見聴取回数	2.30 回	1.85 回	1.52 回	学校の自己評価等に対する評議員からの意見聴取回数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>前年度と比較すると、学校評議員開催回数は増加したが、学校自己評価等に対する学校評議員からの意見聴取回数が減少している。</p> <p>学校評議員を行事や授業参観に招くなど、積極的に学校を訪れる機会を増やしたことで、学校評議員が校長の学校経営について理解を深め、助言をいただくことができた。</p> <p>各学校で、積極的に学校評議員制度の活用を図ることにより、開かれた学校づくりが推進された。</p>
今年度の改善点等	<p>委嘱式後の研修会では、上平小学校長による発表と、上尾小学校学校評議員による発表を行った。</p> <p>学校評議員運営要綱第3条「通算の在任年数が3年を超えない」により、今年度もすべての評議員が在任年数3年以内である。期限を設けることで、より多くの地域の方々から意見をいただくことができている。毎年1/3程度の学校評議員が新たに委嘱される現状を考えると、今後も、このような研修を継続し、新規の方の活動への理解を深めていく。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
	A	学校評議員会議開催回数	3.30 回	3回以上

事業番号	30	元気な学校をつくる地域連携推進事業	担当	指導課
------	----	-------------------	----	-----

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 学校経営の改善・充実	施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

## ●事業の概要

事業の目的・目標	地域の方々の児童生徒の活動にかかわる取り組みの機会を増やし、学校に協力いただくとともにより深く学校を理解していただき、地域で子どもを育てるという意識を高める。また、学校応援団員の専門的な知識や優れた技術など、地域の教育力を学校教育に積極的に活用し、より効果的な学習活動を推進する。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校 33校
事業の内容	学校が積極的に家庭や地域社会の教育にかかわることにより、学校の活性化を図るとともに、家庭や地域社会の教育力の向上を目指し、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもの育成に取り組む。地域から学校応援団を組織するとともにコーディネーターを介して、学校に対しての学習支援や環境整備、児童生徒の安全確保・事故防止の支援などを行う。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	438 千円	401 千円	402 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校応援団員数	6,918 人	7,376 人	4,341 人	各学校の学校応援団登録者数合計
学校応援団活動回数	9,751 回	9,938 回	14,501 回	各学校の学校応援団活動回数合計

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	地域と学校の連携の下、幅広い地域住民等が参画し、地域全体で学び合い、未来を担う子供たちの成長を支え合う地域との連携が求められており、各学校における学校応援団の役割は大きくなっている。市内全小・中学校での学校応援団の組織率は100%で、学校応援団コーディネーターを中心に、学習活動、安全確保、環境整備、体験活動、部活動、生徒指導、環境教育、学校ファーム等に係る活動を行った。学校応援団活動の推進により、学校の教育が活性化し、一層の教育活動の充実が図られ、家庭や地域の教育力の向上につながっている。
今年度の改善点等	賠償責任保険を市独自で予算化し、活動を支援している。今年度は、3件の保険対応があったが、いずれも大きな怪我にはならず、充実した活動ができた。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	学校応援団活動日数	14,501 日	15,000 日	15,000 日

事業番号	<b>31</b>	小中学校教育教材整備事業
------	-----------	--------------

担当	教育総務課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	授業等で使用する学習教材・教具の整備・充実に努め、学習環境を整備する。
事業の対象・対象数	小中学校の児童、生徒(平成27年5月1日現在) 小学校・・・児童数11,909人 中学校・・・生徒数 6,189人
事業の内容	授業等で使用する学習教材・教具(教材、理科教育等設備、算数・数学設備、楽器等)を計画に購入する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	35,194 千円	31,978 千円	33,822 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
備品購入費(小学校)	19,758 千円	19,052 千円	19,398 千円	
備品購入費(中学校)	15,435 千円	12,926 千円	14,424 千円	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>教科学習における教材等の整備は、基礎・基本的な学習理解を助け、確かな学習能力を身に付けさせるうえで重要であり、その充実は不可欠である。</p> <p>今年度も限られた予算の中で、学校からの購入計画を基に、学校規模に応じて備品を効率的に整備した。理科備品については「理科教育等設備整備費補助金」を活用し、整備した。</p> <p>備品管理については、平成24年度より備品管理システム(備品丸ねっと)による運用を行っており、効率的な運用管理や予算執行につながっている。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>平成25・26年度に実施したグランドピアノ・アップライトピアノ全台の調律結果をもとに、老朽化したピアノの買替えを行っており、今年度は大谷小・大石小・原市中・西中にグランドピアノを1台ずつ購入した。次年度以降も小学校1台、中学校1台ずつ買替えを実施していく。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
備品購入費(小学校)	19,398 千円	19,719 千円	19,800 千円
備品購入費(中学校)	14,424 千円	14,617 千円	14,700 千円

事業番号	<b>32</b>	小中学校校舎改築事業
------	-----------	------------

担当	教育総務課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策3 学校施設・設備の整備・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	地震発生等の災害時に児童生徒の安全を確保するとともに、時代の変化に対応できる学校施設整備を図る。
事業の対象・対象数	昭和39年以前に建築された校舎が残る、富士見小学校、中央小学校、上尾中学校の3校を対象とする。
事業の内容	耐力度調査、基本設計、実施設計を経て改築工事を実施した。 富士見小学校は、全面改築工事を実施した。(平成23年度竣工) 中央小学校は、南校舎棟の部分改築工事、北校舎棟の大規模改造工事を実施した。(平成25年度竣工) 上尾中学校については、プール・格技場工事(平成26年度竣工)、南校舎及び屋内運動場工事、北校舎大規模改造工事及び外構工事が事業内容となる。

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	1,473,461 千円	829,322 千円	1,972,055 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
上尾中学校校舎改築工事	実施設計	南校舎20%(出来高) プール・格技場竣工	南校舎及び屋内運動場 改築工事完了	改築事業が完了
改築事業完了校累計数	2校/3校	2校/3校	改築事業校:3校 (富士見小・中央小・上尾中)	小・中学校の耐震化率が100%達成

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾中学校校舎改築事業は、今年度までの継続事業であったが、平成27年8月末に南校舎が竣工し、2学期から供用開始となった。また、平成28年3月末には屋内運動場、北校舎大規模改造、太陽光発電設備工事、校舎解体及び外構グランド等整備工事も竣工し、全ての上尾中学校の改築事業が完了した。この上尾中学校の改築事業の完了をもって、市内全小中学校の耐震化工事が完遂となり、耐震化率が100%になった。</p> <p>なお、当該改築事業終了により、トイレのリニューアル化も市内全小中学校において完了となり、健康で快適な環境整備と児童生徒の生活意識の向上を図ることができた。</p> <p>今後は、学校施設が防災機能を確保し、地域の防災拠点施設としての役割を果たしていくことがより一層求められていくことから、体育館等の非構造部材の耐震化を進めていくことが課題となる。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>上尾中学校改築事業の特色</p> <p>①南校舎 図書室・パソコン教室の一体化、音楽室1・2(2室合計で4教室分の広さ、可動式パーティション設置)、多目的トイレ、車椅子用エレベーター、自家用発電機20KW、屋上雨水をトイレに利用</p> <p>②北校舎 車椅子用エレベーター、通級指導教室、屋上ヘリサイン</p> <p>③屋内運動場 雨水貯留槽整備、屋内運動場・格技場(可動式間仕切り設置により一体的利用可能)</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>S</b>	改築事業完了校累計数	3校/3校 (富士見小・中央小・上尾中)	—	—

事業番号	<b>33</b>	小中学校コンピュータ整備事業
------	-----------	----------------

担当	教育総務課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策4 学校のICT化の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	高度情報化社会へ対応するために情報活用能力等のさらなる向上を図る。また、電子黒板やタブレット端末、デジタル教科書を授業に活用し、学習意欲や学力の向上を図る。
事業の対象・対象数	小中学校の児童・生徒及び教職員(平成27年5月1日現在) 小学校・・・児童数11,909人 教職員数610人 中学校・・・生徒数 6,189人 教職員数367人
事業の内容	・小中学校でコンピューターを活用し、IT教育を推進する。 ・ICTを活用した効率的な授業実現のための授業支援機器の整備(電子黒板、タブレット端末、LAN整備) ・無線LANの実証実験(市内小学校4校で実施) ※機器はリースで、5年で更新する。<パソコン2,532台(教育用1,453台、校務用1,079台)、プリンタ、その他周辺機器> ※タブレット端末は、全小学校に各校41台整備済み

●事業費決算額の推移

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額	124,925 千円	145,610 千円	157,368 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
教育用パソコン設置台数	1,456 台	1,454 台	1,453 台	
校務用パソコン設置台数	1,096 台	1,078 台	1,079 台	
教育用パソコンの目標達成値 (児童生徒3.6人に1台)	12.8人に1台	12.6人に1台	12.5人に1台	児童生徒数÷教育用パソコン台数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>これまで整備してきたICT機器により児童・生徒の情報活用能力育成の支援ができています。また、大型モニターや電子黒板、デジタル教科書も併せてICT機器を活用し、事業展開しており、わかりやすい授業の実現と教員の教材づくりの負担軽減にもつながっている。</p> <p>ICT環境の整備は、情報活用能力の育成と学習目標の達成には不可欠なものとなっており、今後も継続した整備を進める必要があるが、整備に当たっては、セキュリティの強化や個人情報保護が適切になされるよう十分注意しながら進める必要もある。</p> <p>なお、今年度は様々な形式での無線LAN実証授業を行い、新たな要望や課題を把握することができた。この整備には多大な予算の確保が必要となるが、これらの結果をもとに整備に向けた研究をさらに進める必要がある。</p>
今年度の特徴・改善点等	<p>ネットワーク業者2社から普通教室に無線LANを構築できるネットワーク機器貸出の提案を受け入れ、富士見小学校及び中央小学校において、コンピュータ教室にあるタブレットに無線設定をし、普通教室の授業で使用した実証授業を実施した。</p> <p>また、携帯会社2社からは、携帯電波を利用するiPadタブレットの無償貸出を受け、大谷中学校及び鴨川小学校において、タブレットを使用した実証授業を実施した。</p> <p>これらの実証実験により、タブレット端末を活用した新しい学習形態により授業の幅が広がることが確認でき、ICT活用の要望や課題を把握することができ、今後、整備を進める場合のノウハウも蓄積することができた。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	教育用パソコンの目標達成値	12.5人に1台	12.3人に1台	12.1人に1台

事業番号	<b>34</b>	児童生徒安全推進事業
------	-----------	------------

担当	学校保健課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	学校管理下における児童生徒の事故・疾病に対する応急処置及び医療費の補償を行うとともに、登下校時の安全を確保し、安心・安全の向上を図る。
事業の対象・対象数	小・中学校児童生徒(平成27年5月1日現在) 小学校の児童 11,909人 中学校の生徒 6,189人
事業の内容	学校管理下における児童生徒の事故に備え、教職員への応急手当(心肺蘇生法)講習を行うとともに、事故等に対し、その医療費等を補償する。また、児童生徒の登下校時の安全確保のため、防犯ブザーを貸与する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	24,082 千円	23,026 千円	21,905 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
新規防犯ブザー貸与数	2,210 人	2,080 人	2,120 人	市内小学校22校の新1年を対象とする。
スポーツ振興センター災害共済加入負担金	17,448 千円	17,310 千円	16,975 千円	
全市立学校に対する応急手当普及員在籍率	100 %	100 %	100 %	心肺蘇生法研修等を指導する応急手当普及員の資格を持つ職員が在籍する学校

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>毎年、各小・中学校において、全教職員が参加する心肺蘇生法研修を実施している。この研修は、水泳指導開始前に各小・中学校に配備しているAEDの使用方法を含めた緊急時の対応についての知識を習得するために実施しており、学校生活における安全性を向上させている。</p> <p>また、タクシーの借上げを行い、緊急時における医療機関までの迅速な搬送を行っている。登下校時の安全対策については、防犯ブザーの貸与を行い、犯罪抑止と安全確保に効果を上げている。</p> <p>学校管理下で起きた事故や病気については、日本スポーツ振興センターの災害給付制度により、事故発生から治癒までの医療費を給付しており、保護者の負担軽減になっている。</p> <p>小・中学校一斉避難訓練では、災害時における避難行動や保護者への引き渡し方法を再確認している。訓練を4年間継続してきたことにより、避難時間や引渡し時間が短縮され、児童生徒、教職員、保護者の防災意識の高まりが感じられる。</p>
今年度の改善点等	<p>各学校で毎年実施する心肺蘇生法研修については、応急手当普及員の資格を持つ教職員を中心に、人事異動等で応急手当普及員が不在となった学校については消防署職員にアドバイザーとして派遣を依頼し実施した。</p> <p>また、消防署の協力のもと、教職員を対象とした応急手当普及員講習会を開催し、全市立学校に有資格教職員を配置させるとともに、応急手当の体制を充実させることができた。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	全市立学校に対する 応急手当普及員在籍率	100 %	100 %	100 %

事業番号	<b>35</b>	学校安全パトロールカー事業	担当	学校保健課
------	-----------	---------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	市内各中学校に配備している学校安全パトロールカーによる地域の安全パトロールを実施し、下校時を中心とした安全確保と地域の犯罪を抑止する。
事業の対象・対象数	小・中学校児童生徒(平成27年5月1日) 小学校の児童 11,909人 中学校の生徒 6,189人
事業の内容	各中学校区単位に青色回転灯とスピーカーを装備した白黒ツートンの巡回用パトロールカーを配備し、学校、PTA、地域等の協力のもと、学校区内のパトロールを実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	3,208 千円	3,351 千円	3,031 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
月あたりパトロール回数	15.3 回	16.1 回	16.6 回	
学校管理下での交通事故件数(児童生徒)	4 件	13 件	9 件	学校管理下で児童生徒が交通事故にあった件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	学校安全パトロールカー事業は、制度導入から8年が経過し、各中学校区を中心としたパトロール活動が定着してきた。学校教職員だけでなく、交通安全母の会、PTA、地域等多くの方々がパトロールを実施しており、月当たりのパトロール実施回数も増加している。登下校時の交通事故件数も4件減り、児童生徒の安全確保に効果があったといえる。今後も、学校、保護者、地域が連携して、児童生徒が安心・安全に過ごせる地域づくりのために、見守り活動を浸透させていく。
今年度の特色・改善点等	学校安全パトロールカー事業講習会を8年継続してきたことで、パトロール実施者証の取得者が2千人を超え、多くの方の協力で本事業は定着してきている。今後は、取得者の再講習の周知方法や、より効率的な運営方法について検討が必要である。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	学校管理下での児童生徒の交通事故件数	9 件	0 件	0 件



事業番号	<b>36</b>	通学路安全対策事業
------	-----------	-----------

担当	学校保健課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策5 学校安全の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	登下校時の安全確保のため、通学路の安全対策を集中的に取り組むことを目的とする。
事業の対象・対象数	今年度 1箇所実施
事業の内容	市PTA連合会からの通学路危険箇所改善要望を基本とし、市が実施すべき改善内容のうち、必要性緊急性の高い箇所の改善対策を実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	8,264 千円	5,124 千円	25,440 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
危険箇所改善要望箇所数	164 箇所	161 箇所	180 箇所	小学校通学路に関する改善要望箇所
学校管理下での交通事故件数(児童)	1 件	5 件	5 件	学校管理下で児童が交通事故にあった件数
安全対策実施箇所	14 箇所	8 箇所	1 箇所	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	この事業は、平成25年度から、通学路の安全対策を集中的に取り組むために学校保健課の事業として実施している。市PTA連合会からの通学路危険箇所改善要望をもとに改善箇所を抽出したのち、市の関係各課と連携して工事を行い、通学路の危険箇所の改善が進んでいる。
今年度の改善点等	今年度は工事箇所が1箇所であったが、道路の拡幅等、大規模な改善を行った。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
学校管理下での児童の交通事故件数	5 件	0 件	0 件

事業番号 <b>37</b>	<b>入学準備金・奨学金貸付事業</b>	担当	教育総務課
----------------	----------------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	進学を意欲を有する者で経済的な理由により就学困難な者のために、入学準備金又は奨学金の貸付けをし、進学の支援を行う。
事業の対象・対象数	市内に引き続き1年以上居住し市税を完納している世帯の保護者(入学準備金)、子女(奨学金)
事業の内容	入学準備金 ①高等学校(特別支援学校含む)・高等専門学校・専修学校高等課程 公立20万円 私立30万円 ②短期大学・大学・専修学校専門課程 公立30万円 私立50万円 奨学金 ①高等学校(特別支援学校含む)・高等専門学校・専修学校高等課程 月額1万円 ②短期大学・大学・専修学校専門課程 月額2万円

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	5,183 千円	5,922 千円	8,322 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
貸付件数	17 人	20 人	25 人	新規・継続貸付人数
高校進学率	98.9 %	98.7 %	98.5 %	高校等進学者/市内中学校卒業生

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	入学準備金・奨学金の貸付けは、独立行政法人日本学生支援機構や埼玉県をはじめ複数の制度があり、各自治体においても独自の制度を設けている。多様な貸付制度の中から利用者が自身の経済状況等を踏まえ、貸付条件や返還条件等を検討し、最も適した制度を選択できる状況を用意することで、経済的理由による就学困難者の救済に寄与することから、本事業の役割は大きい。 ここ数年は、入学準備金・奨学金の貸付け件数は合わせて20件前後の実績がある。経済的支援は数値目標が設定しにくく、貸付件数等の増減をもって評価することは困難であるが、利用希望者もいることから事業を継続する。また、経済的理由で進学を断念することがないよう、必要としている者に制度を周知していく。
今年度の特色・改善点等	AO入試や推薦入試による早期合格者の入学手続き時期に入学準備金の貸付ができるよう、「上尾市入学準備金・奨学金貸付条例施行規則」の一部を改正し、10月に新たな申請時期を設定した。 10月申請件数6件のうち、4件が推薦入試該当者であり(残る2件は一般入試)、審査等を踏まえ、12月に入学準備金を貸し付けることができた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	—	—	—	—

事業番号	38 40	小中学校就学援助費補助事業 準要保護児童生徒給食費援助事業	担当	学務課 学校保健課
------	----------	----------------------------------	----	--------------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	経済的理由により就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者に対し、就学に必要な費用を支給することにより、児童生徒の就学に係る経済的負担を軽減し、義務教育の円滑な実施を図ることを目的とする。
事業の対象・対象数	対象者 就学困難と認められる学齢児童生徒の保護者 対象となる児童生徒(平成27年度 児童 1,026人、生徒 658人)
事業の内容	経済的理由により就学が困難と認められる市立小中学校在籍児童生徒等の保護者に対して、学用品費、修学旅行費、学校給食費等の就学に必要な経費の一部を援助する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決算額(小中学校就学援助費補助事業)	49,279 千円	52,398 千円	50,060 千円
決算額(準要保護児童生徒給食費援助事業)	68,624 千円	83,069 千円	80,538 千円

●評価指標

指標名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
就学援助認定者数	1,637 人	1,727 人	1,684 人	認定児童生徒数
就学援助認定割合	8.8 %	9.4 %	9.3 %	認定児童生徒数/市内全児童生徒数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	社会状況の変化などにより、経済的に困窮する世帯が増えている中、生活保護を受ける要保護者に準じる程度に困窮している学齢児童生徒の保護者に対し、就学のために必要な援助を行うことは、学校教育法第19条に規定されるものであるとともに、憲法第26条の「すべての国民が教育を受ける権利」や教育基本法第4条の「教育の機会均等」を保障し、経済的理由による教育格差の無い義務教育の円滑な実施に寄与している。また、上尾市教育振興基本計画の基本目標Ⅲ施策6「就学支援の充実」を推進するためにも必要な事業である。制度の実施については、市内小・中学校に在籍する児童生徒へ「就学援助のお知らせ」を配布することや、「広報あげお」や「上尾市Webサイト」等の広報媒体の活用することによる十分な周知が図られた上で、適正に事務が進められている。
今年度の特色・改善点等	平成25年8月から生活保護基準の見直しが行われる中、今年度は平成26年4月1日現在の生活保護基準を用いることとなったが、前年度までは審査基準に用いていなかった「教育扶助」を新たに基準に加えるとともに、「住宅扶助」に係る基準を引き上げるなど、生活保護基準の引き下げによる影響を最小限に抑えられるよう認定基準の見直しを行った。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目標指標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
	A	-	-	-

事業番号	<b>39</b>	要保護児童生徒医療費援助事業	担当	学校保健課
------	-----------	----------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅲ 安心・安全で質の高い学校教育の推進
施策	施策6 就学支援の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	経済的な理由により就学が困難な児童生徒の保護者に対して、学校病(学校保健安全法施行令第8条で定めるもの)治療費の援助を行い、児童生徒の健康保持・増進を図る。
事業の対象・対象数	上尾市立小・中学校に通う要保護児童生徒のうち、学校病の治療が必要とされ、医療券を交付した件数は平成27年度実績で45件。
事業の内容	生活保護受給者(要保護)に対して、学校保健安全法施行令第8条で定めた学校病に係る医療費を援助する。(国庫補助事業)

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	507 千円	516 千円	955 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
医療券交付件数	69 件	71 件	45 件	要保護児童生徒の医療券交付件数
医療券使用件数	31件(2件)	27件(-)	24件(-)	( )は前年度未請求分
医療件使用割合	44.9 %	38.0 %	53.3 %	医療券使用件数/医療券交付件数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	学校健康診断で要保護児童生徒の学校病(伝染性、又は学習に支障を生じる恐れのある疾病で、学校保健安全法施行令第8条で定めるもの)については、医療券を発行し、治療を促している。 医療券の発行により医療機関受診による保護者の医療費負担をなくし、児童生徒の健康保持増進につながっている。今後も、学校病の完治に向けて事業を継続していく必要がある。
今年度の特色・改善点等	交付件数は、今年度が45件で前年度の71件と比べ約2/3の件数であった。医療券の使用割合は、保護者へ医療機関受診の働きかけを強化したことにより、今年度は53.3%となり、前年度の38.0%より増加した。しかし、依然として半数近くの割合で医療券が未使用(医療機関未受診)のまま返却されることから、より一層、保護者へ受診の働きかけを行うことなどにより、医療機関受診につなげる必要がある。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>B</b>	医療券使用割合	53.3 %	60.0 %	65.0 %

## 基本目標Ⅳ

### 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

---

---

#### 施策1 学校・家庭・地域が連携した教育活動の推進

事業番号30(再掲) 元気な学校をつくる地域連携推進事業

#### 施策2 家庭教育の充実

事業番号41 家庭教育推進事業

事業番号	<b>41</b>	<b>家庭教育推進事業</b>
------	-----------	-----------------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅳ 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策	施策2 家庭教育の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	子育て中の親に対し、子供が生活に必要な習慣を身につけ、自立性を育むための家庭教育に取り組めるよう、学校、家庭、地域等と連携を図りながら学習機会や情報を提供する。
事業の対象・対象数	・幼児～中学生の子供を持つ保護者と小中学校PTA会員 ・市内幼稚園保護者会・上尾市PTA連合会
事業の内容	・家庭教育をテーマにした講演会を市PTA連合会と合同で実施 ・市PTA連合会に家庭教育に関する啓発事業を委託 ・家庭教育に関する講座等を行う市内幼稚園の保護者会を支援

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	490 千円	490 千円	480 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
家庭教育講演会開催数	1 回	1 回	1 回	
市内幼稚園保護者会への補助件数	4 団体	4 団体	4 団体	
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,333 人	1,263 人	1,275 人	幼稚園保護者会で開催した家庭教育に関する講座及び市とPTA連合会の共催で行った家庭教育講演会の参加者数の合計

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市PTA連合会と共催で家庭教育講演会の実施や家庭教育に関する講座を行っている幼稚園保護者会(今年度は4団体)への補助金の交付を行うことにより、子育てについて学び合う場を作り、子育て中の親に対する家庭教育に関する学習機会の提供を効果的、効率的に行うことができている。 また、市PTA連合会への委託事業は、実際に子育てを行っている世代の団体でもある市PTA連合会が自ら企画・制作しており、団体が主体的に取り組んでいるという点においても効果的に啓発することができている。
今年度の特色・改善点等	家庭教育講演会は、「小・中学生のネット利用の現状・気持ちを子供と共有し、“伝え方”の工夫でトラブルや依存を遠ざけよう！」というテーマで実施し、小・中学生のスマホやインターネット利用の現状やこれらに対する大人の向き合い方など、安全に賢くネットを使う子を育てるポイントがわかる内容で参加者に好評を得た。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
家庭教育に関する講座・講演会参加者数	1,275 人	1,300 人	1,300 人

## 基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート

### 施策1 生涯学習体制の充実

事業番号42 生涯学習指導者活動推進事業【V-3】

### 施策2 生涯学習施設の整備

事業番号43 学校施設開放(生涯学習)事業

### 施策3 生涯学習機会の提供

事業番号42(再掲) 生涯学習指導者活動推進事業

事業番号44 成人式事業

事業番号45 日本の伝統と文化の学習推進事業

事業番号46 大学等との連携による生涯学習推進事業

事業番号47 公民館講座事業

### 施策4 人権教育の推進

事業番号48 人権教育推進事業(生涯学習課所管分)

事業番号49 人権教育集会所運営事業

### 施策5 図書館運営の充実

事業番号50 図書館資料整備事業【II-1】

事業番号51 子どもの読書活動支援センター運営事業【II-1】

事業番号52 ブックスタート事業

事業番号53 (仮)中央図書館整備事業

事業番号54 セカンドブックスタート事業

事業番号	42	生涯学習指導者活動推進事業	担当	生涯学習課
------	----	---------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート		
施策	施策1 生涯学習体制の充実	施策2	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的・目標	優れた資質や能力・知識・経験を有する市内の指導者を市民講師として登録し、講師情報を求める市民に情報提供を行うことで、指導者としての活動の場を支援する。
事業の対象・対象数	市民、まなびすと指導者バンク登録者、まなびすと指導者バンク活動推進会議会員
事業の内容	学んだ成果を活かすため、まなびすと指導者バンクの運営を行う。また、まなびすと指導者バンク活動推進会議による市民講座を支援する。指導者の技量の向上を図るため、研修を行う。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,165 千円	335 千円	321 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
まなびすと指導者バンク登録者数	109 人	110 人	143 人	各年度末
市民講座(実施講座数)	37 講座	42 講座	47 講座	
市民講座(受講者数)	429 人	500 人	653 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	まなびすと指導者バンク活動推進会議が実施しているまなびすと市民講座を支援し、学習活動の成果を発表できる環境の場と、市民に魅力的な学習機会の提供ができた。また、まなびすと指導者情報誌を発行し、講師情報を求める市民に幅広い分野で情報の提供ができた。
今年度の改善点等	より多くの市民に生涯学習の成果を提供してもらうため、上尾市文化団体連合会にまなびすと指導者バンクの登録を働きかけた結果、登録者数が増加した。 今年度のまなびすと市民講座は47講座実施され、653人の参加があった。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	まなびすと指導者バンク登録者数	143 人	140 人	140 人



事業番号	<b>43</b>	学校施設開放（生涯学習）事業	担当	生涯学習課
------	-----------	----------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策2 生涯学習施設の整備

●事業の概要

事業の目的・目標	市内の小学校(平方東・芝川・富士見)の特別教室を学校教育に支障のない範囲で開放し、市民に学習拠点を確保する。
事業の対象・対象数	市内に在住・在勤・在学の方で構成された施設利用登録をしている生涯学習団体
事業の内容	市内で活動する生涯学習団体に対し、平方東小学校、芝川小学校、富士見小学校の一部の特別教室を、学校教育に支障のない範囲内で、学習活動の拠点として開放する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,593 千円	1,985 千円	1,880 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
利用団体登録	88 団体	78 団体	82 団体	
利用件数	759 件	896 件	903 件	
利用者数(延べ人数)	7,677 人	9,350 人	9,404 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	学校の特別教室の一部を無料で開放する事業で、市内の生涯学習団体に対し、生涯学習や社会教育活動の拠点を確保ができた。また、開放施設を利用して、まなびすと指導者バンク活動推進会議に委託した市民講座を開催しており、市民の自発的な学習活動を推進する拠点としても役割を果たしている。
今年度の特色・改善点等	学校開放施設の認知度が上がってきたこと、生涯学習施設の利用団体が総体的に増加したことから、利用件数が増加した。 また「上尾市立学校施設の開放に関する規則」と「上尾市立学校施設の開放に関する細部要綱」の一部を改正した。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	利用団体登録数	82 団体	85 団体	85 団体
	利用件数	903 件	910 件	910 件

事業番号	44	成人式事業	担当	生涯学習課
------	----	-------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

## ●事業の概要

事業の目的・目標	新成人にふるさと「上尾」への意識を高め社会人としての自覚を促す。
事業の対象・対象数	平成7年4月2日から平成8年4月1日までに出生した市内在住の人。または学校卒業時に市内に在住していた人。対象者2,244人(男性1,108人、女性1,136人)
事業の内容	式典とアトラクションの2部構成で成人式を実施し、新成人の前途を祝福する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,049 千円	1,133 千円	1,121 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
成人対象者	2,247 人	2,292 人	2,244 人	
成人式参加者	1,600 人	1,785 人	1,709 人	
成人式参加率	71.2 %	77.9 %	76.2 %	参加者／対象者×100

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>新成人にとって、成人式が一つの節目となり、これを機会にふるさと「上尾」への意識を高め、社会人として、市民としての自覚を促すことは、今後のより良い街づくりに有効である。</p> <p>式典の進行やアトラクションの企画は、公募及び市内各中学校から推薦された新成人で構成される新成人代表者会議が主体となって行っており、成人としての自覚や責任を持って成人式の運営が行われている。近年は私語が減り、落ち着いて式典に臨む傾向があり、参加率も高い。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>新成人代表者が、企画・撮影・編集し作成した「恩師からのビデオレター」「思い出のアルバムショー」をアトラクションとして放映した。</p>

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	成人式参加率	76.2 %	75 %	75 %

事業番号	45	日本の伝統と文化の学習推進事業	担当	生涯学習課
------	----	-----------------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

## ●事業の概要

事業の目的・目標	多様な学びの機会を提供する事業として、日本の伝統文化を知るきっかけづくりを支援する。
事業の対象・対象数	市内に在住・在勤・在学の人 1講座30名
事業の内容	日本の文化・心をテーマとし、日本の伝統と文化に関する理解を深める学習機会を提供する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	— 千円	152 千円	179 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
講座実施数	—	6 回	6 回	

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	「おとなの“NIPPON”講座」と題して、日本の文化や心をテーマに実施している事業で、講義のほか実技も交えた普段触れることの少ない内容で実施し、日本の伝統文化をより深く学ぶきっかけづくりの機会を提供することができた。
今年度の特徴・改善点等	今年度は、「浮世絵」「志野流香道」「琳派」をテーマに、それぞれの分野で活躍する講師の方を招いて事業を実施した。今までに無い新しい分野の学習機会の提供を展開し、市民からも好評を得た。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	講座実施数	6 回	6 回	6 回

事業番号	<b>46</b>	大学等との連携による生涯学習推進事業	担当	生涯学習課
------	-----------	--------------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的・目標	大学等の教育機関や民間企業と連携を図り、それぞれ特色のある技術や人材を生かし、魅力ある学習機会の提供を行う。
事業の対象・対象数	聖学院大学公開講座:市民全般 子ども大学あげお・いな・おけがわ:上尾市・伊奈町・桶川市に在住の小学校5・6年生 あげお子ども大学:上尾市在住の小学校5・6年生
事業の内容	聖学院大学公開講座の実施及び聖学院大学・日本薬科大学等との連携による子ども大学の実施。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	109 千円	278 千円	232 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
聖学院大学公開講座受講者数	230 人	262 人	252 人	
子ども大学あげお・いな・おけがわ受講者数	69 人	64 人	59 人	
あげお子ども大学受講者数	—	30 人	31 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>○聖学院大学公開講座 第1講座「人を支えるアートとサイエンス～総合的に人を支える方法を問う～」、第2講座「役に立つ英会話講座(初級・中級ステップアップ)」、第3講座「パソコン講座」、第4講座「女声コーラス」の内容で実施した。第1講座は毎年内容を変えており、今年度は人を支える方法をアートやサイエンスからアプローチするというテーマの学習機会を提供することができた。</p> <p>○子ども大学あげお・いな・おけがわ 上尾市・伊奈町・桶川市の3市町から計60名の児童が参加し、それぞれの大学の特色を生かした講座を実施した。今年度は上尾市の企画として三井金属鉱業株式会社 基礎評価研究所の見学も行い、子供たちの知的好奇心を刺激する学習機会の提供ができた。</p> <p>○あげお子ども大学 上尾市の小学校5・6年生の児童を対象とした「あげお子ども大学」を引き続き実施した。今年度は新たに、ものづくり大学・立正大学に御協力をいただき、新しい学習機会を提供することができた。</p>
今年度の特色・改善点等	子ども大学あげお・いな・おけがわでは参加者の対象を5・6年生に限定することで、事業の内容をより参加者に沿ったものにする事ができた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	子ども大学あげお・おけがわ・いな受講者数	59 人	60 人	60 人

事業番号	47	公民館講座事業	担当	生涯学習課
------	----	---------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策3 生涯学習機会の提供

●事業の概要

事業の目的・目標	市民が学習活動に対して興味・関心を抱くような、生涯学習のきっかけ作りを行う。
事業の対象・対象数	市民全般
事業の内容	一般教養、文化、芸術、健康、スポーツなど、市民のニーズに対応した講座事業を、市内6公民館で実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	3,361 千円	3,360 千円	3,182 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
講座数	136 講座	135 講座	123 講座	公民館まつりを除く
講座参加者数(延べ人数)	11,427 人	9,805 人	9,352 人	公民館まつりを除く

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	上尾・上平・平方・原市・大石・大谷の6つの公民館は、社会教育法に基づく社会教育を行う拠点として、基幹的な役割を担っている。 市民の学習需要に応じた事業を実施することで、市民の生涯学習のきっかけ作りに寄与している。
今年度の特色・改善点等	今年度は全公民館で123講座を実施し、9,352人の参加があった。 第4次上尾市生涯学習振興基本計画の実施に向けて、各事業を目的や対象で分けて実施することで、分野の偏りを減らした。世代別講座事業では、高齢者のみを対象にした事業や子供のみを対象にした事業を行う他、一般教養、文化・芸術、健康・スポーツ、家庭生活、政策施策など多種多様な事業を展開できた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	講座参加者数(延べ人数)	9,352 人	9,500 人	9,500 人

事業番号	48	人権教育推進事業(生涯学習課所管分)	担当	生涯学習課
------	----	--------------------	----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	様々な人権問題の認識と理解を深めるため、人権教育の推進を図る事業を実施し、市民一人一人の人権意識の高揚を図る。
事業の対象・対象数	・市民 ・市内の小中学校の児童生徒 18,098人
事業の内容	上尾市人権教育推進協議会や、職員を対象とした人権問題研修会を開催し、各種団体が開催する研修会・会議等へ参加する。また、市内小中学校の児童・生徒の人権標語コンクールを実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,037 千円	1,074 千円	920 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
人権標語作品応募点数	19,203 点	17,741 点	17,691 点	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>○人権問題研修会 職員を対象とした研修会では、差別を受けている当事者や差別の解消に取り組む方を講師に迎え、「差別の現実に学ぶ」をテーマに実施した。職員一人一人が人権問題についての理解を深め、差別をより身近なものとして実感し、人権意識と感覚の高揚を図ることができた。</p> <p>○人権標語コンクール 子供の頃から人権感覚を育むことを目的に、全小中学生を対象とした人権標語コンクールを実施した。今年度は前年同様、県が主催する「人権メッセージ」の募集と合わせて標語の募集を行い、学校現場への周知を徹底したことにより、たくさんの作品の応募があった。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>部落史の研究者を講師として招き、同和問題を歴史的観点でとらえ、現在に続く差別の現実を理解できる貴重な話を聞くことができた。</p> <p>人権標語作品の募集を、県主催の「人権メッセージ」の募集に合わせて実施して2年目となり、多くの作品の応募があった。</p> <p>「上尾市人権推進協議会条例」を制定した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
	A	人権標語作品応募点数	17,691 点	18,000 点

事業番号	49	人権教育集会所運営事業	担当	生涯学習課
------	----	-------------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策4 人権教育の推進

## ●事業の概要

事業の目的・目標	人権教育推進プランを基に、市内2館(原市・畔吉)の集会所を人権教育推進の場として適切に運営を行う。
事業の対象・対象数	市民全般
事業の内容	原市集会所・畔吉集会所の主催事業を実施する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,685 千円	1,586 千円	1,841 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
人権教育集会所主催事業参加者数	711 人	557 人	747 人	
人権教育集会所利用者数	25,491 人	24,977 人	25,120 人	

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>人権教育集会所の主催事業は、利用者間のふれあいを通して、人権意識及び文化的教養の向上のために事業を実施している。原市集会所で19事業(338人)、畔吉集会所で20事業(409人)の健康、歴史、料理、親子教室など多様な内容で実施することができた。また、両集会所で展示・実演発表などのイベントを中心とした集会所まつりを実施し、1,200人を超える市民の参加があり、地域及び利用者間の交流を深めることができた。</p> <p>集会所利用者全員を対象とした人権問題指導者研修会を実施し、535人の参加があった。多くの参加者が人権問題を自身の問題としてとらえ、偏見や差別を許さない実践力を身に付け、地域の核となることにより、地域社会の人権意識の高揚が図られている。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>今年度は、人権問題指導者研修会のテーマを「同和問題」として実施し、多くの集会所利用者の参加があった。</p> <p>集会所事業の充実のため、社会教育指導員をそれぞれ1人増員し、2人体制とした。「上尾市人権教育集会所管理規則」を一部改正した。</p>

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	人権教育集会所主催事業参加者数	747 人	800 人	800 人

事業番号	50	図書館資料整備事業	担当	図書館
------	----	-----------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅴ 生涯にわたる豊かな学びのサポート	基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 図書館運営の充実	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	図書館が、知る自由を保障するとともに、市民文化創出の礎となり、また誰もが本と出合うよろこびを感じられるよう図書館資料の充実を図る。
事業の対象・対象数	上尾市在住・在勤・在学の人及び広域利用協定によるさいたま市・伊奈町・桶川市・蓮田市の住民
事業の内容	図書館サービスの根幹となる図書館資料(図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・オンラインデータベースなど)を収集・整理・提供する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	33,661 千円	36,704 千円	34,077 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
蔵書数	564,626 点	569,759 点	564,583 点	雑誌・視聴覚資料を除く
図書館利用者数	417,909 人	423,459 人	427,669 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>知的好奇心や趣味としての読書要求に応えるとともに、現在の図書館は市民の生活上の諸課題や地域課題解決のための資料・情報提供、生涯学習の基盤施設としての学習環境の整備、市民の居場所としての滞在空間の提供など多目的・多様な利用に応えられることが求められている。また、十分な資料・情報を収集・整備し、市民の知る自由を保障することが図書館最大の使命であり、そのために蔵書数・蔵書構成を質・量ともに向上することが求められている。このような中、蔵書数は一定数は確保できているものの、さらなる充実を図るためには、本館・分館の蔵書収蔵能力は限界に達している現状を考慮すると、早急に対策を講じる必要がある。</p> <p>選書については、本館・分館の集中選書を進めることにより、同一資料の複数購入を減らし、新刊タイトル数増加を行った。</p> <p>読書離れが進み、全国的には平成23年度から図書館利用者数は減少し続けているが(日本図書館協会調べ)、上尾市図書館利用者は微増を続けており、市民の一定の支持を得ている。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>本館にセカンドライフコーナーを設置し、シニア層向け資料の収集・提供を行った。上平公民館図書室に新刊コーナーを設け、新刊展示資料を増やした。宅配サービス、施設サービスなど図書館来館が困難な人へのサービスを拡充した。国立国会図書館提供の「歴史的音源」の提供などデジタル化資料提供を開始した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	蔵書数	564,583 点	565,000 点	565,000 点
	図書館利用者数	427,669 人	430,000 人	430,000 人



事業番号	<b>51</b>	<b>子どもの読書活動支援センター運営事業</b>	担当	図書館
------	-----------	---------------------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート	基本目標II 豊かな心と健やかな体の育成
施策	施策5 図書館運営の充実	施策1 豊かな心の育成

●事業の概要

事業の目的・目標	家庭・地域・学校が連携し、すべての子供が、あらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行えるよう支援する。
事業の対象・対象数	19歳以下の子供たちと保護者
事業の内容	家庭・地域・学校へ情報の収集・提供、講師の派遣、講演会・講座の開催、読書ボランティアの養成、出張おはなし会や子供向け読書イベントを開催する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	8,179 千円	5,289 千円	4,760 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
出張おはなし会・子ども向け読書イベント	39 回	41 回	41 回	回数(ボランティア派遣を含む)
読書ボランティア養成講座	28 回	20 回	19 回	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、市は、「上尾市子どもの読書活動推進計画」を策定し、家庭・地域・学校が連携し、子ども読書活動推進を図っている。この中で、子どもの読書活動支援センターが中心となり、図書館と学校、読み聞かせボランティアと学校がそれぞれ連携し、「読書パスポート」事業や「あっぴい ぶっくる本」事業、おはなし会など、読書推進のための様々な事業を展開したことにより、小学生の貸出冊数が大幅に増えたことから、この事業の効果は大きいと考える。</p> <p>一方、読書離れする中・高校生が増加しており、青少年向けの本の充実と市内中・高校との連携が重要である。また、青少年に向けた対策や読書活動の推進を図る上で、読書ボランティアとの連携は非常に重要なものであり、ボランティアの育成と事業の充実に努める必要がある。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>平成28年3月に平成28年度から5年間の計画期間とする「第2次あげお子ども読書プラン～第2次上尾市子どもの読書活動推進計画」を策定した。この計画を子供や保護者・ボランティアに周知し、計画に基づいて家庭・地域・学校が連携して読書推進を図るためのPRを兼ねた事業を行った。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	出張おはなし会 子ども向け読書イベント	41 回	42 回	42 回

事業番号	<b>52</b>	ブックスタート事業
------	-----------	-----------

担当	図書館
----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	地域の子育て支援のため、4か月児健診時の乳児と保護者を対象に親子で絵本に親しみ、心を育み、「ことば」に出会うきっかけづくりを目的に事業を行う。
事業の対象・対象数	4か月児健康診査対象者 1,734人
事業の内容	4か月健診を受診した乳児と保護者を対象に絵本の読み聞かせを行い、絵本と読み聞かせに向く絵本リストが入った「ブックスタート・パック」を渡す。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	2,617 千円	1,759 千円	2,758 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
絵本配布率	99.8 %	99.8 %	97.3 %	配布人数／対象者
図書館利用者数(6歳以下)	2,432 人	2,724 人	2,563 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>ブックスタート事業は4か月健診時に、「ブックスタートパック(絵本2冊・あかちゃんえほんリスト・おはなしかいパンフレット)」を配布することが定着し、例年ほぼ100%に近い配布率を達成している。</p> <p>受診待ちの赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行うことで、絵本を読むときの声やふれあいを通して「ことば」と出会うきっかけづくりになっており、小学校1年生で行うセカンドブックスタートにも接続する重要な事業となっている。</p> <p>また、この事業を通じて、保護者と子供のふれあいや保護者同士のコミュニケーションの充実が図られた。</p>
今年度の改善点等	

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
図書館利用者数(6歳以下)	2,563 人	2,600 人	2,600 人

事業番号	<b>53</b>	(仮) 中央図書館整備事業	担当	図書館
------	-----------	---------------	----	-----

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

●事業の概要

事業の目的・目標	図書館サービス網の中核施設として、22万都市にふさわしい新図書館を建設する。
事業の対象・対象数	上尾市民と在勤・在学の人(広域・相互協定による、さいたま市・伊奈町・桶川市・蓮田市)に在住の人
事業の内容	新たな図書館サービスの中央拠点となる新図書館の整備を行うため、基本設計等の委託業務を行う。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	- 千円	3,903 千円	33,179 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
新図書館複合施設建設	-	基本構想	基本設計	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	公共施設最適化事業債の活用や公共施設マネジメント計画に基づく青少年センター等との複合化への変更について、建設懇話会や図書館協議会などでも意見を聴取するとともに、前年度に策定した(仮称)中央図書館基本構想を引き継ぎながら、(仮称)中央図書館基本設計を完成した。併せて、新図書館に係る建設予定地を盛り込んだ「第2次図書館サービス計画」のパブリックコメントを実施するなど、利用者からの意見をいただきながら策定した。
今年度の特色・改善点等	青少年センター等を含めた複合施設化についての検討を行い、(仮称)中央図書館基本設計に反映させた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	新図書館複合施設建設	基本設計	実施設計	建設工事

事業番号	54	セカンドブックスタート事業	担当	図書館
------	----	---------------	----	-----

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標V 生涯にわたる豊かな学びのサポート
施策	施策5 図書館運営の充実

## ●事業の概要

事業の目的・目標	「ブックスタート」の次のステップとして、小学校6年間にわたり、自ら読書に親しむ習慣を身につけ、本に親しむ機会を増やすことを目的とする。
事業の対象・対象数	市内小学校1年生児童 1,907人
事業の内容	市内小学校全22校に在学の1年生に対して、「読書パスポート」を配布し、おはなし会を実施する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	- 千円	7,914 千円	5,612 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
読書パスポート配布数	-	12,264 部	2,445 部	※26年度は全学年に配布
7歳～12歳図書館利用者数	11,925 人	15,709 人	15,241 人	

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	家庭・地域・学校が連携し子ども読書活動推進を図っている中、セカンドブックスタート事業は、乳児を対象とするブックスタート事業から接続した事業である。 読書パスポートを配布し、児童が本に興味を持ち、目標を持ってさらに読みたくなるきっかけとなり、小学生の利用者の増加につながっている。また、図書館で実施する事業に参加することにより、読書パスポートにスタンプを押されることとが更なる楽しみとなり、様々な事業参加へのきっかけとなっている。
今年度の特色・改善点等	

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	7歳～12歳図書館利用者数	15,241 人	15,500 人	16,000 人

## 基本目標Ⅵ 文化芸術の創造と文化財の保護

---

### 施策1 文化芸術活動の推進

- |        |             |
|--------|-------------|
| 事業番号55 | 文化芸術振興事業    |
| 事業番号56 | 美術展覧会事業     |
| 事業番号57 | 市民音楽祭事業     |
| 事業番号58 | 音楽家芸術活動支援事業 |

### 施策2 文化財の保護

- |        |            |
|--------|------------|
| 事業番号59 | 文化財調査・保存事業 |
| 事業番号60 | 埋蔵文化財調査事業  |
| 事業番号61 | 文化財保護啓発事業  |
| 事業番号62 | 歴史資料調査事業   |

事業番号	<b>55</b>	文化芸術振興事業
------	-----------	----------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	市民の文化・芸術活動の展開や活動団体の育成を支援する。また、発表の場を提供して、市民が豊かな文化の享受と発信ができるような環境づくりに努める。
事業の対象・対象数	文化団体連合会と、その加盟団体11団体 市内の文化芸術団体、個人
事業の内容	①文化団体連合会への補助金の交付 ②社会教育指導員を配置し、市内の文化芸術活動団体等の活動支援

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	2,082 千円	2,065 千円	2,276 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
文化団体連合会加盟団体数	12 団体	12 団体	11 団体	
文化団体連合会構成員数	3,000 人	1,762 人	1,639 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	文化団体連合会は、市内で活動する各種の文化芸術団体が加盟する団体である。会の運営は主にそれぞれの分野における代表団体が行い、自立性の高い取組がなされている。毎年行われている「上尾市文化芸術祭」では、様々な分野の文化団体が一堂に会して展示や公演等を実施し、団体間の連携や交流を図りつつ、市民に対して文化芸術に触れる機会を提供している。
今年度の特色・改善点等	

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
文化団体連合会加盟団体数	11 団体	11 団体	11 団体

事業番号	<b>56</b>	美術展覧会事業
------	-----------	---------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	美術家協会との共催により、広く市民の美術活動の発表の場として、公募により美術展を開催し、市民の創作活動の奨励及び芸術活動への意識を高める。
事業の対象・対象数	市美術展覧会出品者数 433人
事業の内容	市美術展覧会を開催し、優秀な作品を表彰する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	1,387 千円	1,211 千円	1,251 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
作品出品数	561 点	499 点	462 点	
入場者数	2,342 人	2,430 人	2,413 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度で47回を数え、歴史ある公募展として市民に定着している事業である。本事業は、広く市民から作品を募集する公募展であるため、市民の美術活動の発表の場となっており、優秀作品を顕彰するシステムは、市民の美術創作活動の活性化に大きく寄与している。前年度と比較すると出品数は減少したものの、会期中は例年と同様の来場者数があった。</p> <p>また、上尾市ギャラリー等において、団体や個人の美術展が数多く開催されており、市民の美術活動については堅調であるといえ、美術館のない市でも、美術館のある他市と同等の展覧会が開催できている本事業の役割は大きい。</p>
今年度の特徴・改善点等	

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
作品出品数	462 点	500 点	500 点
入場者数	2,413 人	2,500 人	2,500 人

事業番号	<b>57</b>	市民音楽祭事業
------	-----------	---------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

●事業の概要

事業の目的・目標	実行委員会形式で実施することで参加団体間の交流を図りながら、市民による音楽活動団体に発表の場を提供して、広く音楽活動の普及を図る。
事業の対象・対象数	市内で活動する音楽団体
事業の内容	合唱祭、邦楽祭、吹奏楽・器楽祭の3部門で開催。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	505 千円	612 千円	626 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
参加団体	50 団体	51 団体	53 団体	3部門合計参加申込団体数
入場者数	1,557 人	2,492 人	2,451 人	3部門合計入場者数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	今年度で42回を数え、市民の音楽グループの発表の場として定着している事業である。参加した音楽グループによる実行委員会を組織しているが、3部門とも堅調な事業実施状況である。本音楽祭を機に参加団体同士の交流が行われる等、それぞれの活動の活性化につながっている。吹奏楽では、参加団体による合同バンドが生まれ、学生と社会人が入り交じって演奏を行うことにより、学生が年長者の演奏を体感して学ぶ、貴重な機会になっている。
今年度の特色・改善点等	

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
入場者数(3部門合計)	2,451 人	2,000 人	2,000 人



事業番号	58	音楽家芸術活動支援事業	担当	生涯学習課
------	----	-------------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策1 文化芸術活動の推進

## ●事業の概要

事業の目的・目標	上尾にゆかりのある音楽家が才能を発揮し、地元で芸術活動をすることで市民が文化芸術を享受できるシステムを構築する。
事業の対象・対象数	上尾にゆかりのある音楽家及び一般市民
事業の内容	上尾にゆかりのある音楽家によるクラシックコンサート及び上尾市立小学校において、アウトリーチコンサートを開催する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	— 千円	372 千円	962 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
クラシックコンサートの来場者数	—	362 人	312 人	コミュニティセンターで開催されるコンサートの来場者数

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>上尾市在住(又は、上尾にゆかりのある)音楽家のネットワークを構築し、活動の場を提供する形で芸術活動支援を行う事業として、市内在住の音楽家4名の出演によるクラシックコンサートを実施した。今年度は前年の出演者2名に加えて新たに2名の音楽家を起用し、ネットワークの拡大も図った。今年度は2年目となる事業であったが、チケットは昨年引き続き完売し、アンケートによる参加者の評価も高く、今後も引き続きこのような機会を期待する声が多かった。出演者同士の横のつながりも生まれ、本事業の目的は全体的に達成されている。</p> <p>前年度に行った公演のチケットは完売したものの、当日の空席が見られたため、今年度は半券の数により入場者数を把握することとしたため指標の数値に開きが出たが、実際の入場者については昨年とほぼ同様であった。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>子供たちに身近で本格的なクラシック音楽に接する場として行っていた小学校でのアウトリーチコンサートについては、前年度の1校から、今年度は5校と実施校を増やし、より多くの子供に鑑賞の機会を提供できた。</p>

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	クラシックコンサートの来場者数	312 人	350 人	350 人

事業番号	<b>59</b>	文化財調査・保存事業
------	-----------	------------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的・目標	文化財保護法や上尾市文化財保護条例に基づいて文化財の保存と活用を図る。
事業の対象・対象数	市内の文化財
事業の内容	未指定及び未登録の文化財の基礎調査。指定・登録文化財の維持管理やそのための交付金の交付及び修理・修繕のための補助金の交付。文化財周知のため説明板や標識の設置管理を行う。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	3,014 千円	4,522 千円	11,570 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
市指定・登録文化財の数	120 件	122 件	122 件	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>今年度は、新たに「瓦葺掛樋跡」を登録有形文化財として登録し、1件増加したが、登録無形民俗文化財の「地頭方の祭りばやし」が解散し、1件の減少となっている。また、「上尾の摘田・畑作用具」が国登録有形民俗文化財に登録された。</p> <p>文化財の保存・管理事業として、文化財修繕の補助事業6事業、指定無形民俗文化財8件への維持交付金の交付等を行い、文化財の保存・管理の支援をすることができた。</p> <p>また、72件の文化財説明板の改修を行い、説明板を基に市内の児童を対象とした文化財巡りを実施し、郷土愛の育成に寄与した。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>「瓦葺掛樋跡」を市登録文化財に、「上尾の摘田・畑作用具」を国登録有形民俗文化財に登録することが出来た。「上尾の摘田・畑作用具」の国登録有形民俗文化財の登録は、全国で42件目、関東地方で5件目、埼玉県で3件目である。また、市内の文化財説明板の改修と、それに合わせた文化財マップの作成を行い、市内の児童に文化財に親しむ機会を提供した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
市指定・登録文化財の数	122 件	123 件	124 件

事業番号	60	埋蔵文化財調査事業	担当	生涯学習課
------	----	-----------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

## ●事業の概要

事業の目的・目標	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財を保護するため、範囲確認や記録保存の調査を実施する。
事業の対象・対象数	埋蔵文化財 周知の埋蔵文化財包蔵地 409か所
事業の内容	試掘・確認調査、発掘調査、発掘調査報告書の刊行、遺跡詳細分布調査

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	4,022 千円	4,825 千円	5,933 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
—	—	—	—	

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	埋蔵文化財包蔵地で土木工事等の計画がある場合、先立って保存すべき遺構・遺物の有無と、その範囲を確認するために試掘調査を実施する必要がある。今年度は、届出に基づき57件の試掘調査を速やかに実施することができた。 試掘調査の結果、保存が必要な遺構・遺物が2件確認され、発掘調査を実施して記録することができた。 また、遺跡詳細分布調査を実施し、従来の遺跡の範囲等を見直すことができた。
今年度の特色・改善点等	市内全域を踏査して遺跡詳細分布調査を実施し、遺物の有無や地形に基いて、遺跡の立地や分布状況を検討した。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	—	—	—	—

事業番号	61	文化財保護啓発事業	担当	生涯学習課
------	----	-----------	----	-------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

## ●事業の概要

事業の目的・目標	文化財保護法、上尾市文化財保護条例の趣旨に基づき、市民に対して文化財の活用を図り、その保存継承のための意識啓発と文化財保護に対する理解を深めるためにセミナーや展示会を実施する。
事業の対象・対象数	市民
事業の内容	あげお歴史セミナー・上尾の文化財展の開催

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	57 千円	68 千円	96 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
文化財保護啓発事業延べ日数	25 日	24 日	21 日	
文化財保護啓発事業参加延べ人数	2,372 人	1,360 人	3,795 人	

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市民が地域の文化や歴史の理解を深められるよう、地域の文化財を活用した講座・展示会・見学会等を実施した。 講座と現地見学を組み合わせる歴史セミナーの他、尾山台団地自治会や地域振興公社との共催で展示会を行い、尾山台団地、自然学習館で多様な内容の事業を実施することができた。
今年度の特色・改善点等	前年に比べ、展示会などの開催回数は縮小したが、前年度目標値とした参加延べ人数を上回った。

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	文化財保護啓発事業参加延べ人数	3,795 人	3,800 人	3,800 人

事業番号	<b>62</b>	歴史資料調査事業
------	-----------	----------

担当	生涯学習課
----	-------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標VI 文化芸術の創造と文化財の保護
施策	施策2 文化財の保護

●事業の概要

事業の目的・目標	市史刊行事業やその後の調査で収集した歴史資料について、保存と活用を図る。
事業の対象・対象数	歴史的価値のある公文書、諸家文書
事業の内容	歴史的価値のある公文書の収集。旧大谷農協文書目録の刊行に向けた整理

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	2,747 千円	2,513 千円	2,645 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
文書目録の刊行	1冊(10,005点) 原市町役場文書 目録(下)	1冊(1,719点) 八枝神社文書 目録	刊行なし	毎年度1文書刊行 ※括弧書きは掲載点数

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	市史編さん事業で収集した歴史資料について保存・活用を図るための事業を実施している。今年度は、旧大谷農協文書の整理を進め、次年度以降の目録刊行につなげることができた。
今年度の特色・改善点等	平成28年度から平成31年度まで、毎年1冊ずつ、計4冊の旧大谷農協文書目録を刊行する予定があり、今年度はそのための整理作業を進めることができた。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
文書目録の刊行	0 冊	1 冊	1 冊

## 基本目標Ⅶ

### 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進

---

---

施策1 スポーツ推進計画の策定

施策2 スポーツ施設の整備・充実

事業番号63 学校施設開放(スポーツ振興)事業

施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実

事業番号64 スポーツ大会・教室等開催事業【Ⅶ-5】

施策4 スポーツ指導者の育成

事業番号65 スポーツ活動推進事業

施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

事業番号64(再掲) スポーツ大会・教室等開催事業

事業番号66 子どもの体力向上地域連携事業

事業番号	<b>63</b>	学校施設開放(スポーツ振興)事業
------	-----------	------------------

担当	スポーツ振興課
----	---------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策2 スポーツ施設の整備・充実

●事業の概要

事業の目的・目標	身近な施設である学校施設を開放することにより、スポーツ振興を図る。
事業の対象・対象数	市内在住・在勤・在学の学校施設開放(校庭・体育館)利用者
事業の内容	学校施設(体育館、校庭)の開放のために、修繕、備品の交換、補充や固定テント等の設置等を行う。学校施設開放運営委員会へ交付金を渡している。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	5,350 千円	4,951 千円	6,594 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
学校開放登録団体数	551 団体	553 団体	555 団体	学校開放利用団体名簿
学校開放施設利用者数	363,162 人	371,174 人	390,870 人	学校開放月例利用報告書

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>学校施設の利用にあたり、学校施設開放運営委員会が市内各小中学校で組織され、身近なスポーツ施設として学校施設開放の利用者が年々増えている中で、市・学校及び学校施設開放運営委員会が協力し合い、利用者のニーズに対応しながら、利用者の安全を確保している。</p> <p>また、各学校施設開放運営委員会から、経年劣化が原因と考えられる社会体育トイレ等の報告を受け、随時、修繕した。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>学校の社会体育トイレを現地調査し、写真、不具合箇所を記載した簡易的な台帳を作成した。</p> <p>また、今年度は大石小学校の社会体育トイレの改修を実施した。</p> <p>「上尾市立学校施設の開放に関する規則」を一部改正した。</p>

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定
<b>A</b>

目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
学校開放施設利用者数	390,870 人	395,000 人	395,000 人

事業番号	<b>64</b>	スポーツ大会・教室等開催事業	担当	スポーツ振興課
------	-----------	----------------	----	---------

●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策3 スポーツ・レクリエーション事業の充実 施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

●事業の概要

事業の目的・目標	様々な大会・教室等を開催し、生涯スポーツ・レクリエーションの普及、推進を図る。また、それらの大会を通じ、心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与する。
事業の対象・対象数	各大会参加者 ○いきいきライフ大運動会 935人 ○市民体育祭 延2,000人 ○上尾シティマラソン 9,293人 ○市民駅伝競走大会 2,736人 ○スポーツ・ステップアップ講座 延36人 ○長生きスポーツ教室 延161人 ○スポーツ推進委員研修会 18人 ○AED講習会 20人
事業の内容	生涯スポーツ及びスポーツ・レクリエーションの振興を図るために、各種大会・教室を実施する。

●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	18,571 千円	18,975 千円	17,972 千円

●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
大会の開催日数	3 日	4 日	4 日	
上尾シティマラソン参加者数	9,672 人	9,179 人	9,293 人	
体育協会加盟スポーツ団体人数	18,170 人	17,712 人	17,262 人	576団体
スポーツ教室・講座・研修会	334 人	259 人	235 人	

◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	今年度の各種大会は、スポーツ推進委員及び体育協会の協力を得て、企画・運営を行うことができた。体育協会は、共催団体として大会運営や競技役員としての多くのボランティア派遣をいただいている。また、加盟団体による各種大会の運営を行っていることから、スポーツの振興のため体育協会の発展が望まれる。 スポーツ・ステップアップ講座(4回)を実施し、スポーツ推進委員や地域において指導者を目指す方に指導者養成が図られた。
今年度の改善点等	上尾シティマラソンでは、雨天のため前日のランニング教室は中止となったが、市最大のスポーツイベントとして全国各地から参加者を迎え、体育協会加盟団体や市内中学・高校・大学生等ボランティア約1,000人の協力を得て事故なく実施することができた。 また、今年度よりホームページを構築し、開催案内、エントリー方法及び交通規制に関する情報等を広く周知した。更には、交通規制による迂回路の案内図をカラー刷りで2万部作成し、市内・外へ周知し、交通混乱の減少を図った。

◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
<b>A</b>	市民体育祭参加者数	約3,000 人	10,000 人	10,000 人
	上尾シティマラソン参加者数	9,293 人	10,000 人	10,000 人
	体育協会加盟スポーツ団体人数	17,262 人	19,000 人	19,000 人



事業番号	65	スポーツ活動推進事業	担当	スポーツ振興課
------	----	------------	----	---------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策4 スポーツ指導者の育成

## ●事業の概要

事業の目的・目標	市民への生涯スポーツ・レクリエーションの普及、振興を図ることを目的としたスポーツ推進委員連絡協議会の活動を支援し、スポーツ活動の推進を図る。
事業の対象・対象数	スポーツ推進委員自主事業(スポーツ推進委員数47人、定員50人)
事業の内容	地域スポーツの推進を担うスポーツ推進委員等の資質向上を図るため、研修や講習会を実施する。

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	5,081 千円	4,855 千円	6,295 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
スポーツ推進委員研修日数	13 日	15 日	15 日	市、県、地区、関東、全国、自主事業
スポーツ推進委員研修参加人数	171 人	149 人	212 人	延べ参加者数

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>スポーツ推進委員は地域スポーツの推進を担い各々の資質向上を図るため、スポーツ推進委員内部での自主的な研修をはじめ、北地区、県、関東地区、全国及び市が主催するスポーツ推進委員研修会に参加し、地域の指導者として活躍している。</p> <p>また、スポーツ推進委員は、いきいきライフ大運動会をはじめ、子供の体力向上地域連携事業など、市が主催する大会の運営を進行する上で重要な存在となっている。</p> <p>いきいきスポーツ教室は、公民館事業として定着しており、スポーツ推進委員は講師として、身体を動かす機会が少ない高齢者を対象に軽スポーツ、レクリエーション等を指導し、スポーツの楽しさを伝えながら参加者の健康の保持や体力増進を図った。</p> <p>市スポーツ推進計画にある障がい者スポーツ支援に向け、継続的な障がい者スポーツ研修を実施し理解を深めた。</p>
今年度の改善点等	

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
A	スポーツ推進委員研修日数	15 日	15 日	15 日
	スポーツ推進委員研修参加人数	212 人	200 人	200 人

事業番号	<b>66</b>	<b>子どもの体力向上地域連携事業</b>	担当	スポーツ振興課
------	-----------	-----------------------	----	---------

## ●上尾市教育振興基本計画の体系

基本目標	基本目標Ⅶ 健康で活力に満ちたスポーツ・レクリエーション活動の推進
施策	施策5 スポーツ・レクリエーション活動の支援

## ●事業の概要

事業の目的・目標	近年、子供の体力の低下が認められる中、運動する子供と運動しない子どもの二極化が顕著に現れている。そこで子供が運動や遊びを通じて体を動かす場と機会を提供し、運動する習慣や意欲を養い、体力の向上を図ることを目的とする。								
事業の対象・対象数	市内の小学校児童から中学校生徒まで								
事業の内容	各大会参加者 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>○小学生ドッジボール大会</td> <td>957人</td> </tr> <tr> <td>○バレーボール教室</td> <td>204人</td> </tr> <tr> <td>○なわとび大会</td> <td>延2,442人</td> </tr> <tr> <td>○げんきチャレンジ(ボール投げ教室)</td> <td>60人</td> </tr> </table>	○小学生ドッジボール大会	957人	○バレーボール教室	204人	○なわとび大会	延2,442人	○げんきチャレンジ(ボール投げ教室)	60人
○小学生ドッジボール大会	957人								
○バレーボール教室	204人								
○なわとび大会	延2,442人								
○げんきチャレンジ(ボール投げ教室)	60人								

## ●事業費決算額の推移

年 度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
決 算 額	196 千円	478 千円	510 千円

## ●評価指標

指 標 名	平成25年度	平成26年度	平成27年度	指標の説明
大会等参加者数(ランニング教室除く)	3,085 人	3,318 人	3,663 人	延べ参加者数

## ◎教育委員会の評価の結果

教育委員会の評価	<p>青少年の継続的なスポーツ活動を推進する目的として、中学生バレーボール教室、げんきチャレンジ(ボール投げ教室)を実施するにあたり、地域スポーツ資源の有効な活用を図りながら児童・生徒の運動の習慣化に向けた機会の提供を行った。</p> <p>また、児童の日常の運動として身近ななわとびも定着傾向にあり、なわとび大会への参加者は増加しており、体力の向上を図った。</p>
今年度の特色・改善点等	<p>子供の運動能力の低下傾向にある中、特に低下が見られる投能力の向上を図るため、地域スポーツ資源の一つである「日本女子プロ野球リーグ埼玉アストライア球団」を講師として、げんきチャレンジ(ボール投げ教室)を開催した。</p>

## ◎次年度以降の目標設定

事業評価判定  <b>A</b>	目 標 指 標	平成27年度実績	平成28年度	平成29年度
	大会等参加者数(ランニング教室除く)	3,663 人	3,700 人	3,700 人

平成28年度（平成27年度実施事業対象）  
教育委員会の事務に関する点検評価 報告書

---

発行 上尾市教育委員会  
〒362-8501  
埼玉県上尾市本町三丁目1番1号  
電話 048(775)5111(代表)

編集 上尾市教育委員会事務局  
教育総務部 教育総務課  
電話 048(775)9469  
FAX 048(776)2250  
E-Mail s721000@city.ageo.lg.jp

---



夢・感動教育 あげお